

SBIホールディングス株式会社 インフォメーション ミーティング

2009年11月20日(金) 大阪

11月25日(水) 名古屋

11月26日(木) 東京

本資料に掲載されている事項は、SBIホールディングス株式会社によるSBIグループの業績、事業戦略等に関する情報の提供を目的としたものであり、SBIグループ各社の発行する株式その他の金融商品への投資の勧誘を目的としたものではありません。

また、当社は、本資料に含まれた情報の完全性及び事業戦略など将来にかかる部分については保証するものではありません。

なお、本資料の内容は予告なしに変更又は廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

Key Questions

- ① 上半期の決算はどのように捉えればよいのでしょうか？
- ② SBI証券と楽天証券の手数料引き下げ競争の記事を見ましたが、SBI証券はどのような戦略なのでしょう？
- ③ 国内のIPO(新規上場)は少ないですが、今年度の投資関連事業の状況は？
- ④ ネット銀行やネット保険などの新規事業の状況は？
- ⑤ ゲオやガリバーと提携していましたが、その狙いは？
- ⑥ “SBIマネープラザ構想”の進捗は？
- ⑦ SBIグループの目指す方向性は？
- ⑧ 将来の収益目標はどうなっていますか？
- ⑨ 株価についてはどう考えていますか？

① 上半期の決算はどのように 捉えればよいでしょうか？

(1) 厳しさの続く事業環境

(2) 2010年3月期上半期 連結業績

(3) 経営の一層の効率化を目指した組織再編成

(1) 厳しさの続く事業環境

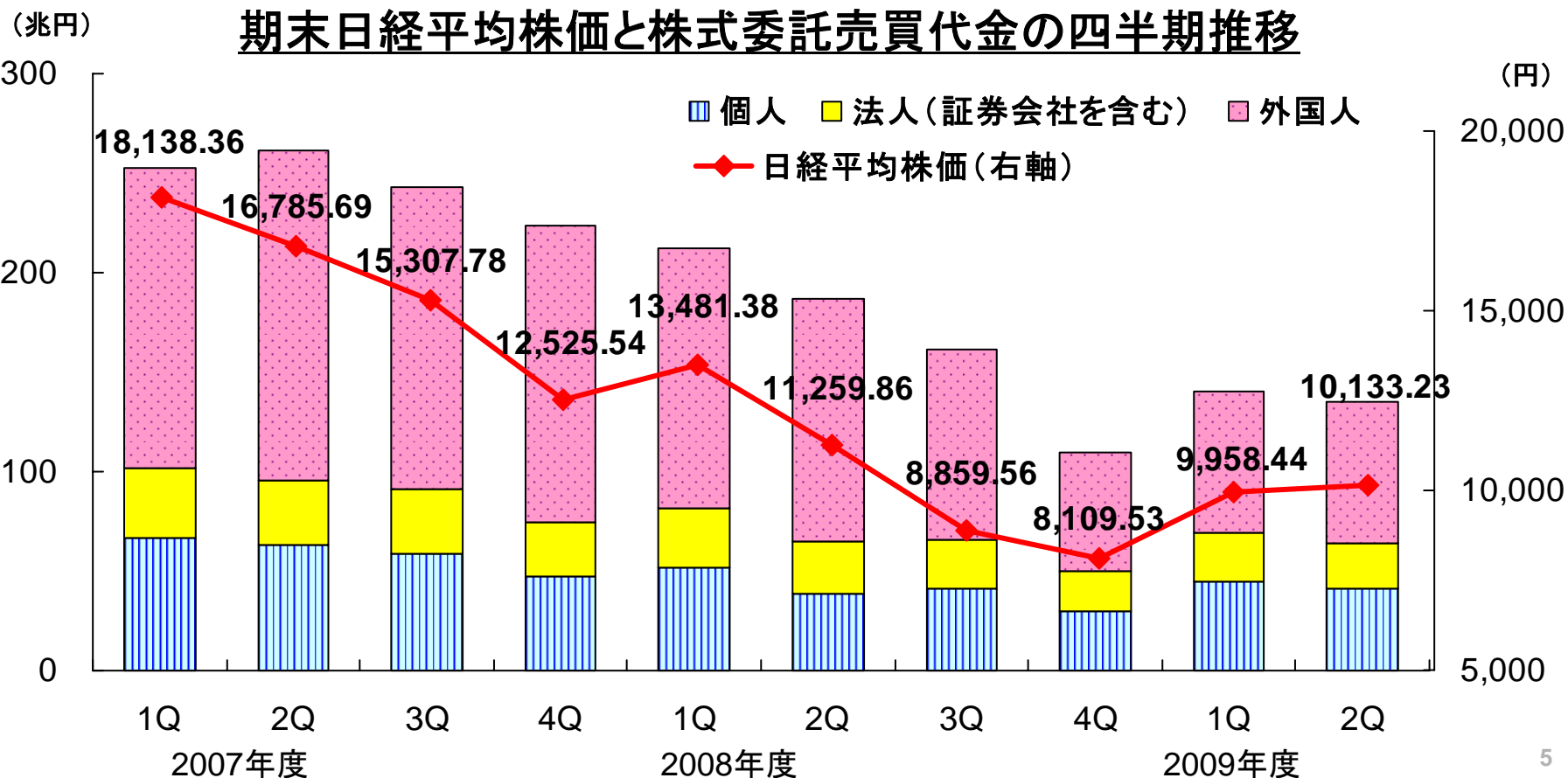
最悪の状態を脱するも 本格的な回復には至っていない日本の株式市場

(2010年3月期上半期の株式市場)

2009年9月末 日経平均株価: 10,133円23銭 (2008年9月末比 ▲10.0%)

上半期累計株式委託売買代金: 276兆864億円 (前年同期比 ▲30.7%)

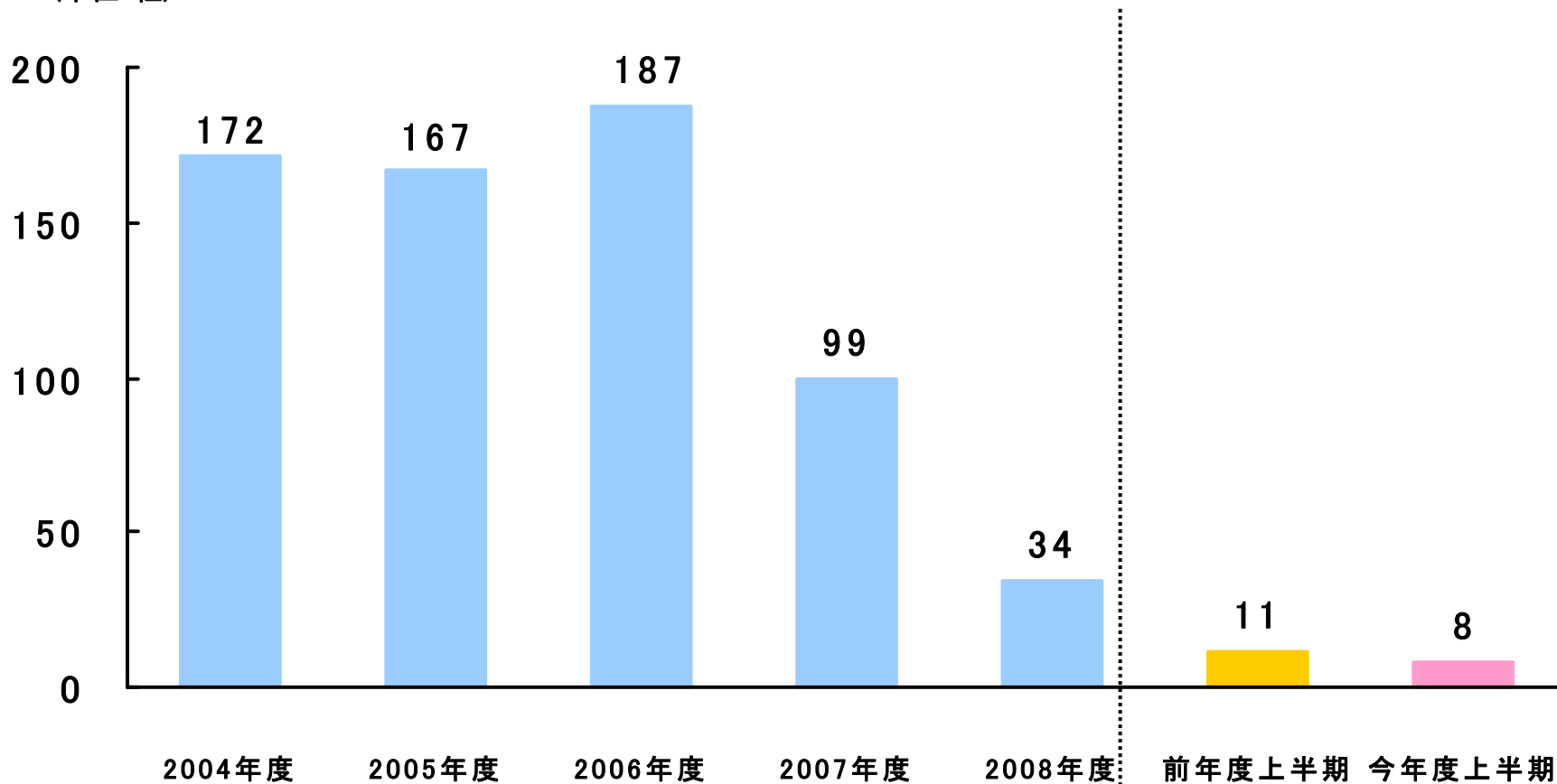
うち、外国人の株式委託売買代金: 141兆9,641億円 (前年同期比 ▲43.7%)



国内の新規上場会社数の推移

2008年度の上場会社数は2007年度をさらに大きく下回る34社で着地。
今年度上半期では、前年同期を下回る8件となり、低調に推移している。

(単位:社)



出所:各取引所

回復の兆しが見え始めるものの 引き続き低迷する国内不動産市場

東証REIT指数(配当込み)の推移(2008年1月～現在)



(2) 2010年3月期上半期 連結業績

連結決算のポイント ①

上半期として2期ぶりに最終黒字を達成

- ・ ゼファー社向け貸付金に対する貸倒引当金繰入14億円を特別損失に計上したが、今年度上半期の当期純利益は前年同期の▲15億円から8億円に回復
- ・ 本格的な回復には至っていないものの、最悪の事業環境であった前年度下半期に比べ業績は持ち直す

2010年3月期上半期 連結決算業績

(単位:百万円)

| | 2009年3月期 上半期連結決算 | 2010年3月期 上半期連結決算 | 前年同期比 増減率(%) |
|-------|---------------------|---------------------|-----------------|
| 売上高 | 71,747 | 63,153 | ▲12.0 |
| 営業利益 | 6,330 | 3,752 | ▲40.7 |
| 経常利益 | 4,773 | 2,012 | ▲57.8 |
| 税引前利益 | ※1,2 1,275 | ※3 1,074 | ▲15.8 |
| 当期純利益 | ▲1,523 | 822 | 黒字転換 |

※1 民事再生手続開始の申立てを行ったゼファー社株式に対して関係会社株式売却損94億円を特別損失に計上

※2 E*TRADE Korea株式の譲渡に伴い、104億円の特別利益を計上

※3 ゼファー社向け貸付金に対して貸倒引当金繰入14億円を特別損失に計上

半期連結業績推移

(単位:百万円)

| | 2009年3月期 | | 2010年3月期 |
|-------|----------------------|----------------------------|----------------------|
| | 前上半期 (2008年4月～9月) | 前下半期 (2008年10月～2009年3月) | 当上半期 (2009年4月～9月) |
| 売上高 | 71,747 | 59,175 | 63,153 |
| 営業利益 | 6,330 | ※4 ▲1,926 | 3,752 |
| 経常利益 | ※1 4,773 | ※1 ▲4,735 | 2,012 |
| 税引前利益 | ※2、3 1,275 | ※5 ▲17,407 | ※6 1,074 |
| 当期純利益 | ▲1,523 | ▲16,852 | 822 |

※1 前年度通算で、持分法による投資損失 25億円(住信SBIネット銀行 18億円[08年3月期は31.7億円]、SBIジャパンネクスト証券 5億円等)、ネットした金融費用 10億円(受取利息・受取配当金等と支払利息等の差し引き)、が含まれます。

※2 民事再生手続開始の申立てを行ったゼファー社株式に対して関係会社株式売却損94億円を特別損失に計上

※3 E *TRADE Korea株式の譲渡に伴い、104億円の特別利益を計上

※4 SBIキャピタルが運営するSBI ValueUp Fund 1号を通じて保有するVSN株式に対し、評価損15億円を営業投資有価証券売上原価に計上

※5 ゼファー社向け貸付金に対して貸倒引当金繰入24億円、住友信託銀行株式に対して投資有価証券評価損67億円、ブロードメディアの持分法投資損失13億円を特別損失として計上

※6 ゼファー社向け貸付金に対して貸倒引当金繰入14億円を特別損失に計上

連結決算のポイント ②

株式市場が本格的な回復に至っていない中、
アセットマネジメント事業及び証券事業では
同業他社を大きく上回る利益を確保

- ・ 国内IPOが低迷し、同業他社のジャフコが第2四半期累計で18億円の営業赤字となるなど厳しい事業環境が続く中、当社のアセットマネジメント事業はアジア地域の株式市場が日米欧に先行して回復した恩恵を享受し、21億円の営業利益を確保
- ・ 引き続き好調なFX取引による収益寄与も大きく、SBI証券の連結営業利益は、同業他社の中には前年同期比マイナスとなったところがある中、17.1%増の75億円と業績を牽引

セグメント別 営業利益の半期毎推移

(単位:百万円)

| | 2009年3月期 | | 2010年3月期 |
|-------------------------|----------------------|----------------------------|----------------------|
| | 前上半期 (2008年4月～9月) | 前下半期 (2008年10月～2009年3月) | 当上半期 (2009年4月～9月) |
| アセットマネジメント | 2,525 | ※1 68 | 2,123 |
| ブローカレッジ & インベストメントバンキング | ※2 4,654 | ※2 1,059 | ※2 5,985 |
| ファイナンシャル・サービス | 755 | 736 | 304 |
| 住宅不動産関連 | 1,349 | ※3 ▲425 | ※4 ▲586 |
| システムソリューション | ▲241 | ▲61 | ▲351 |

※1 SBIキャピタル運営のSBI ValueUp Fund 1号を通じて保有するVSN株式評価損15億円など、営業投資有価証券 評価損24億円を計上

※2 SBI証券の完全子会社化に伴い新たに発生したのれんの償却が含まれます。

(2009年3月期上半期:698百万円、2009年3月期下半期以降:2,096百万円)

※3 連結子会社のセムコーポレーション(SBIホールディングスに加えSBIキャピタル運営のSBI ValueUp Fund 1号を通じて保有)において不動産評価損245百万円、貸倒引当金繰入659百万円を計上。

※4 SBIホールディングスにおいて、たな卸不動産評価損 516百万円、セムコーポレーションにおいて貸倒引当金繰入 199百万円を計上。

当社アセットマネジメント事業と上場VC各社の 2010年3月期上半期業績比較

(単位:百万円、%)

| | 売上高 | 前年同期比 増減率 | 営業利益 | 前年同期比 増減率 |
|------------------|--------|--------------|--------|--------------|
| SBI アセットマネジメント事業 | 12,118 | +38.7 | 2,123 | ▲15.9 |
| JAFCO (※自己持ち分方式) | 7,163 | ▲49.2 | ▲1,788 | — (注2) |
| 日本アジア投資 | 5,367 | +1.2 | ▲4,590 | — (注3) |

(注1) JAFCOは自己持ち分方式で開示、その他は決算に採用しているファンド連結後の数値

(注2) 前年同期の営業利益は1,568百万円となっております。

(注3) 前年同期の営業利益は▲9,117百万円となっております。

(注4) 大和SMBCキャピタルは本年9月15日をもって上場を廃止したため、業績開示をおこなっておりません。

主要オンライン証券の 2010年3月期第2四半期累計・連結業績比較



- 2009年3月期第2四半期にはE*TRADE Koreaの業績(営業収益3,171百万円、営業利益1,121百万円)が含まれることから、連結では前年同期比で減収となっているものの、FX取引の好調から営業増益。また単体では増収・営業増益を達成。
- 営業収益、営業利益ともに同業他社を大きく上回る

主要オンライン証券各社の2010年3月期第2四半期累計連結業績 (単位:百万円、%)

| | 営業収益 | 前年同期比 増減率 | 営業利益 | 前年同期比 増減率 |
|--------------|--------|--------------|-------|--------------|
| SBI証券連結 | 24,533 | ▲8.0 | 7,499 | +17.1 |
| うち、SBI証券単体 | 24,359 | +4.0 | 7,468 | +41.0 |
| 楽天 | 12,246 | ▲0.7 | 3,123 | +19.6 |
| マネックス | 11,380 | ▲18.4 | 2,842 | ▲28.9 |
| カブドットコム(非連結) | 8,131 | ▲6.6 | 2,849 | ▲13.9 |
| 松井 | 13,386 | ▲10.9 | 6,380 | ▲1.6 |

SBI証券の証券業界におけるポジショニング

(2009年度第2四半期累計連結業績)



口座数ランキング 単位:口座

| | | |
|----|------------|------------------|
| 1 | 野村 ※1 | 4,520,000 |
| 2 | 大和 | 3,323,000 |
| 3 | 日興コーディアル | 2,481,000 |
| 4 | SBI | 1,956,746 |
| 5 | マネックス | 926,672 |
| 6 | 楽天 | 881,390 |
| 7 | 松井 | 782,183 |
| 8 | カブコム ※3 | 682,289 |
| 9 | 岡三 | 460,246 |
| 10 | 東海東京 | 386,323 |

(出所:主要証券各社開示資料より当社にて把握しうる限りの情報を基に作成)

※ みずほ、みずほインベスターズ、SMBCフレンド、三菱UFJは非開示
(参考:三菱UFJ 2007年6月末時点 120.7万口座)

※1 残あり口座数

※2 2009年5月7日に新光証券とみずほ証券は合併しみずほ証券に

※3 非連結

※4 野村は米国会計基準。営業収益は収益合計、当期利益には野村ホールディングスに帰属する四半期純利益を使用

※5 2009年度第一四半期で発生した負のれん発生益110,219百万円を含む

営業収益ランキング 単位:百万円

| | | |
|----|------------|---------------|
| 1 | 野村 ※4 | 719,065 |
| 2 | 大和 | 237,750 |
| 3 | 三菱UFJ | 192,322 |
| 4 | みずほ ※2 | 175,698 |
| 5 | 日興コーディアル | 85,632 |
| 6 | SMBCフレンド | 37,349 |
| 7 | 岡三 | 35,222 |
| 8 | 東海東京 | 30,125 |
| 9 | みずほインベ | 26,062 |
| 10 | SBI | 24,533 |
| 11 | 松井 | 13,386 |
| 12 | 楽天 | 12,246 |
| 13 | マネックス | 11,380 |
| 14 | カブコム ※3 | 8,131 |

(出所:主要証券各社開示資料より当社集計)
(連結、百万円未満は切り捨て)

当期利益ランキング 単位:百万円

| | | |
|----|------------|--------------|
| 1 | みずほ ※5 | 135,711 |
| 2 | 野村 ※4 | 39,135 |
| 3 | 日興コーディアル | 31,574 |
| 4 | 三菱UFJ | 22,448 |
| 5 | 大和 | 19,861 |
| 6 | SMBCフレンド | 9,371 |
| 7 | みずほインベ | 4,415 |
| 8 | SBI | 4,398 |
| 9 | 松井 | 4,086 |
| 10 | 東海東京 | 3,766 |
| 11 | 岡三 | 2,532 |
| 12 | 楽天 | 2,139 |
| 13 | マネックス | 2,036 |
| 14 | カブコム ※3 | 1,808 |

(出所:主要証券各社開示資料より当社集計)
(連結、百万円未満は切り捨て)

(注) 営業収益ならびに当期利益のランキングは、主要オンライン証券5社ならびに営業収益100億円以上の証券会社におけるランキング

連結決算のポイント ③

2009年9月末における現預金残高(連結ベース)は1,174億円と高水準を維持しており、引き続き財務健全性を堅持

- ・ ユーロMTNによる発行可能限度額も300億円増枠して800億円としており、機動的な債券発行による安定的な資金調達環境もあわせて構築
- ・ 証券会社特有の資産・負債勘定の影響を考慮した実質的な財務指標は、引き続き健全とされる水準を維持

社債の償還と今後の資金調達について

直近に償還を終えた社債

| | 金額(億円) | 償還日 |
|---------------------|--------|-------------|
| SBIホールディングス 無担保普通社債 | 300.0 | 2009年9月25日 |
| 『第1回 SBI債』(ユーロMTN) | 45.0 | 2009年10月22日 |
| 『第3回 SBI債』(ユーロMTN) | 55.0 | 2009年10月23日 |

みずほコーポレート銀行等からの融資と自己資金にて全て償還済



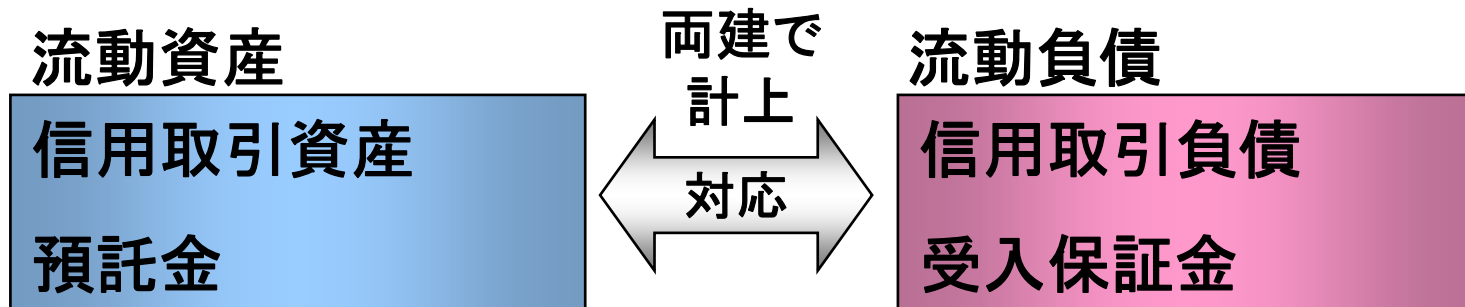
- 2009年9月末現預金残高(連結ベース): 1,174億円
- ユーロMTN※プログラムに基づく社債発行
発行総額: 500億円 (10月28日発行の100億円含む)
未発行枠: 300億円 ➤ 今後機動的に債券発行し、安定資金を確保

財務健全性は引き続き堅持

※2009年10月に300億円増枠し、発行可能限度額は現在800億円

当社の連結貸借対照表の特徴(1)

当社の連結総資産は、子会社のSBI証券における預託金等の顧客資産勘定が含まれるため、実態より膨らんでいる



(2009年9月末)

合計5,852億円 ←→ 合計4,394億円

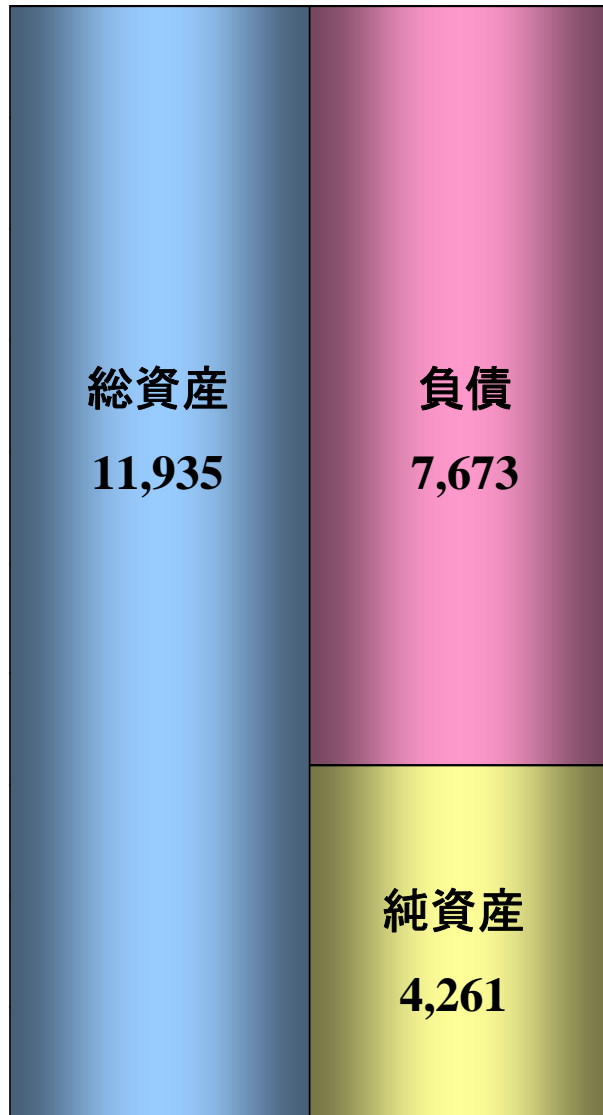
差分は主に、SBI証券の自己資金を用いた信用取引貸付であり、本来は証券金融会社等からの信用取引借入にて賄うことが可能

顧客への信用取引貸付を、全て証券金融会社からの信用取引借入にて賄う場合、流動資産(キャッシュ)が更に増加する

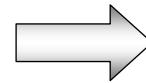
当社の連結貸借対照表の特徴(2)

(2009年9月末)

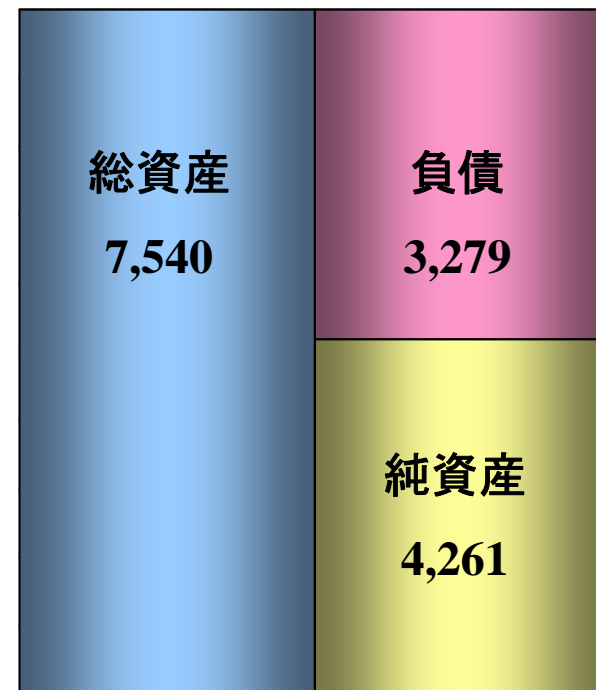
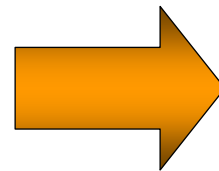
(単位:億円)



- 証券会社特有の資産・負債勘定をそれぞれ控除
- 顧客への信用取引貸付を全て証券金融会社からの信用取引借入にて賄ったとみなし、資産勘定と負債勘定の差分を流動資産として加算



負債勘定合計額相当を、流動資産、流動負債からそれぞれ控除することと一致

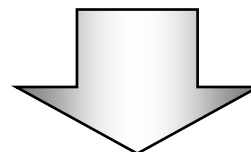


SBIホールディングスの財務安定性

SBIホールディングスの連結財務指標（％）

| | 08年3月末 | 08年9月末 | 09年3月末 | 09年9月末 |
|------------|--------|--------|--------|--------|
| 流動比率 ※1 | 144.4 | 135.9 | 136.6 | 130.7 |
| 有利子負債比率 ※2 | 101.0 | 70.1 | 37.1 | 50.8 |
| 自己資本比率 ※3 | 19.8 | 30.0 | 32.8 | 29.8 |

証券会社特有の資産・負債勘定の影響を
考慮した実質的な数値



引き続き健全とされる
水準を維持

| | 08年3月末 | 08年9月末 | 09年3月末 | 09年9月末 |
|------------|--------|--------|--------|--------|
| 流動比率 ※1 | 201.3 | 173.3 | 204.0 | 177.3 |
| 有利子負債比率 ※2 | 101.0 | 70.1 | 37.1 | 50.8 |
| 自己資本比率 ※3 | 30.0 | 43.3 | 52.4 | 47.2 |

※1 流動資産÷流動負債で算出しており、150%以上※4が望ましいとされています。

※2 有利子負債÷自己資本(株主資本+評価換算差額)で算出しており、100%以下※5が望ましいとされています。
なお有利子負債には証券事業に係る信用取引負債等は含んでおりません。

※3 自己資本(株主資本+評価換算差額)÷総資産で算出しており、30~50%※4が望ましいとされています。

※4 『会社「経理・財務」入門』(金児昭著、日本経済新聞出版社)における基準

※5 『財務会計』(斎藤静樹編著、有斐閣)における基準

資本増強に関する基本的な考え方

(2009年11月20日現在)

現在の事業展開等に最低限必要な投資資金は、ユーロMTNプログラムに基づく資金調達や銀行借入れを含む現状のキャッシュフローで賄うことが十分可能

増資を実施する場合の前提条件

戦略的提携に伴う株式割当等の場合を除き、

増資による希薄化の前後において、

1株当たり当期純利益(EPS)が減少しない

※

(3) 経営の一層の効率化を目指した組織再編成

経営の一層の効率化を目指した SBIグループ内の組織再編成①

完全子会社化

SBIフューチャーズ

国内商品先物市場の市場規模縮小等、事業環境が著しく悪化している為、商品取引受託業務を廃止し(7月31日)、株式交換により完全子会社化(効力発生日:8月1日)

売却

SBIカードプロセッシング

ノン・コア事業であることからカード事業と切り離し、合併パートナーであったSilverlake Axis Limitedへの保有株式の譲渡契約を締結(10月6日)

事業効率を高めるため他の企業グループへ

インテクストラ(旧SBIインテクストラ)

インテクストラの実施した第三者割当増資に日本ユニシスが応じ、同社の子会社に(8月24日)。なお引き続き同社株式の45%を保有。

経営の一層の効率化を目指した SBIグループ内の組織再編成②

より成長できる環境への事業移管等

SBIライフリビング(旧リビングコーポレーション)

新たな事業モデルの構築と、収益の多様化による事業規模の拡大を図るべく、7月1日付でSBIホールディングスの生活関連ネットワーク事業の一部および不動産サービス事業を移管。

SBIイコール・クレジット

関連する事業を一体的に運営することで事業効率を高めることを目指し、SBIカードとの統合を予定

② SBI証券と楽天証券の手数料引き下げ競争の記事を見ましたが、SBI証券はどのような戦略なのでしょう？

- (1) SBI証券における手数料引き下げについて
- (2) 引き続き同業他社を圧倒するSBI証券の事業規模
- (3) SBI証券の更なる成長を促すグループシナジー

(1) SBI証券における手数料引き下げについて

SBI証券における手数料一部引き下げの概要

8月10日約定分より、現物取引のスタンダードプランにおいて、
本年7月末時点の手数料と比較して最大27.5%引き下げ

引き下げ対象の
手数料プラン

SBI証券の株式委託売買手数料プラン

現物取引
スタンダードプラン

現物取引
アクティブプラン

信用取引
スタンダードプラン

信用取引
アクティブプラン

手数料改定に伴うSBI証券のベースス変動

2009年3月期通期
3.1ベースス

2010年3月期第1四半期
3.7ベースス

2009年9月(単月)
3.5ベースス

※1 スタンダードプラン：1注文の約定代金に対して手数料がかかります。
アクティブプラン：1日の約定代金合計額に対して手数料がかかります。

※2 ベースス：委託手数料÷委託売買代金 で算出(インターネット部門のみ)

SBI証券と楽天証券の手数料比較①

<現物取引>

| 約定代金(例) | 1注文の約定代金に対する手数料 | | 1日の約定代金合計に対する手数料 | |
|---------|--------------------|-------------------|-------------------|-----------------|
| | SBI (スタンダードプラン) | 楽天 (ワンショットコース) | SBI (アクティブプラン) | 楽天 (1日定額コース) |
| 10万円 | <u>145円</u> | <u>145円</u> | <u>100円</u> | 450円 |
| 50万円 | <u>358円</u> | <u>358円</u> | <u>450円</u> | 450円 |
| 100万円 | <u>639円</u> | <u>639円</u> | <u>800円</u> | 900円 |
| 500万円 | <u>1,209円</u> | <u>1,209円</u> | <u>2,480円</u> | 5,250円 |
| 1,000万円 | <u>1,209円</u> | <u>1,209円</u> | <u>4,580円</u> | 10,500円 |
| 5,000万円 | <u>1,277円</u> | <u>1,277円</u> | <u>21,380円</u> | 52,500円 |
| 1億円 | <u>1,277円</u> | <u>1,277円</u> | <u>42,380円</u> | 105,000円 |



引き下げを実施した手数料プラン

スタンダードプラン：1注文の約定代金に対して手数料がかかります。
 アクティブプラン：1日の約定代金合計額に対して手数料がかかります。

※ 2009年8月17日現在

SBI証券と楽天証券の手数料比較②

<信用取引>

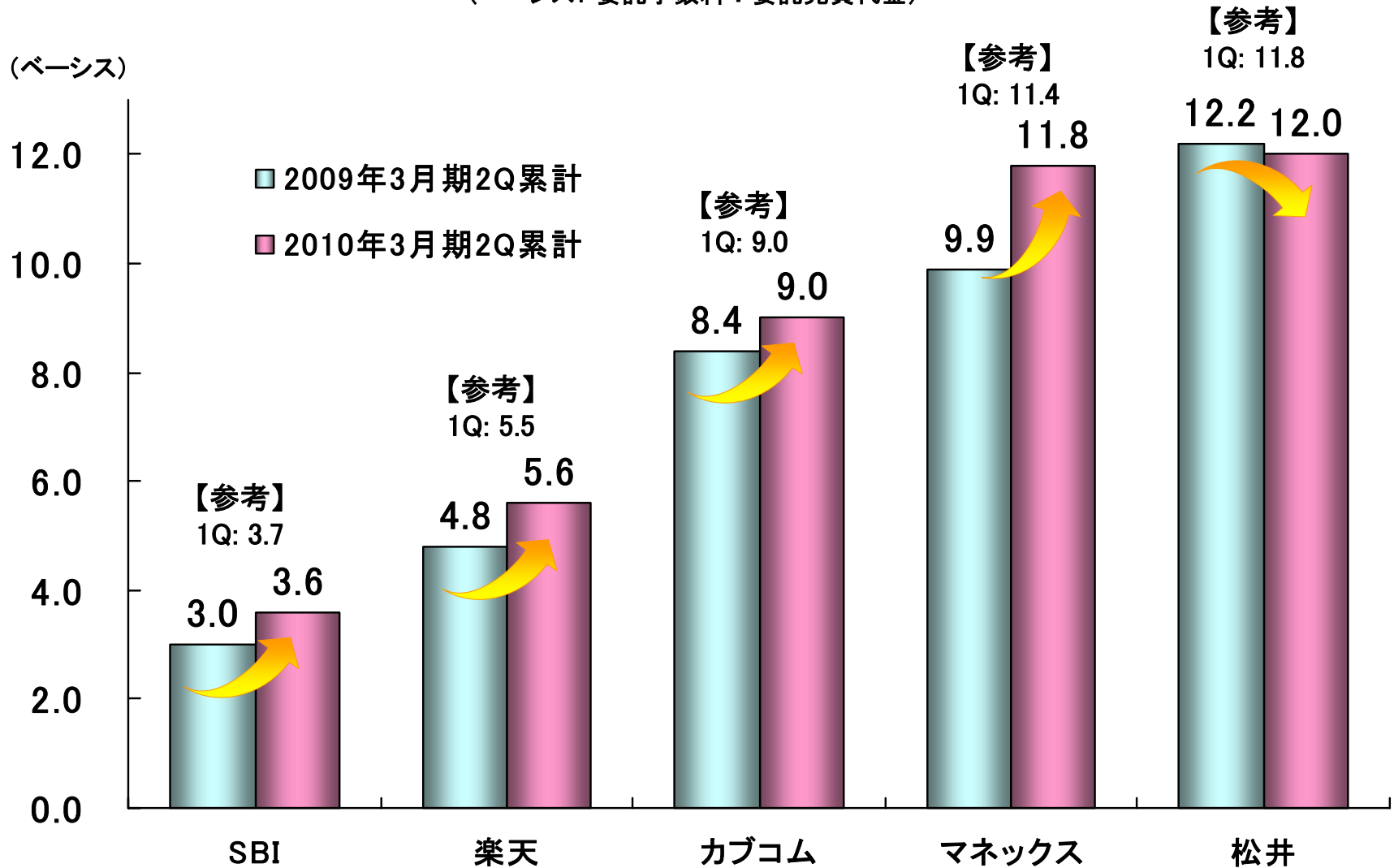
| 約定代金(例) | 1注文の約定代金に対する手数料 | | 1日の約定代金合計に対する手数料 | |
|---------|--------------------|-------------------|-------------------|-----------------|
| | SBI (スタンダードプラン) | 楽天 (ワンショットコース) | SBI (アクティブプラン) | 楽天 (1日定額コース) |
| 10万円 | <u>150円</u> | 262円 | <u>100円</u> | 450円 |
| 50万円 | <u>200円</u> | 472円 | <u>250円</u> | 450円 |
| 100万円 | <u>400円</u> | 472円 | <u>500円</u> | 900円 |
| 500万円 | <u>400円</u> | 472円 | <u>2,180円</u> | 5,250円 |
| 1,000万円 | <u>400円</u> | 472円 | <u>4,280円</u> | 10,500円 |
| 5,000万円 | <u>400円</u> | 472円 | <u>21,080円</u> | 52,500円 |
| 1億円 | <u>400円</u> | 472円 | <u>42,080円</u> | 105,000円 |

スタンダードプラン：1注文の約定代金に対して手数料がかかります。
 アクティブプラン：1日の約定代金合計額に対して手数料がかかります。

※ 2009年8月17日現在

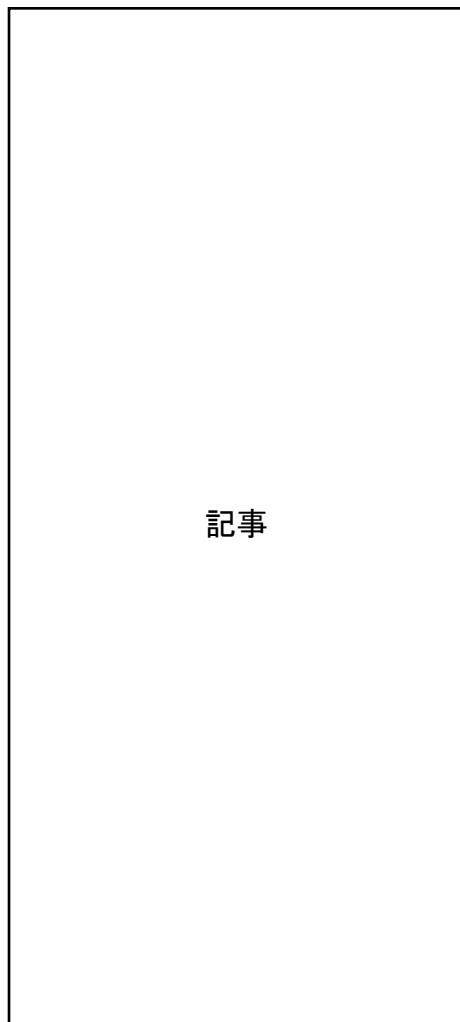
主要オンライン証券5社のベースス比較

(ベースス: 委託手数料 ÷ 委託売買代金)



出所: 各社決算資料、月次開示資料等より当社作成
 委託手数料は決算短信より単体数値を使用
 SBI証券はインターネット部門のみの数値を使用

手数料引き下げ発表に関するメディア報道



記事

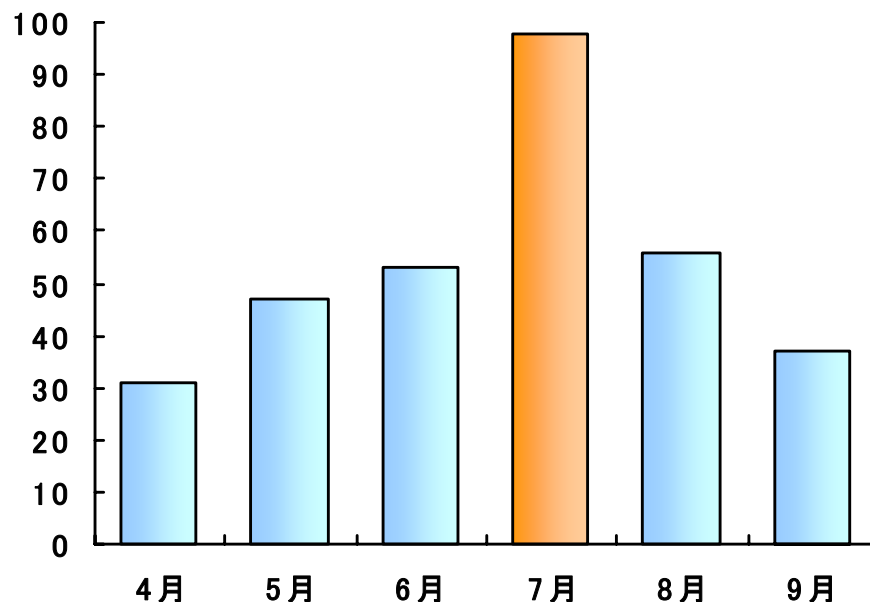


記事

2009年7月17日 朝日新聞 朝刊

2009年7月17日 日本経済新聞 朝刊

SBI証券のメディア掲載数



出所：日経テレコンデータベース

手数料引下げを発表した7月には、
SBI証券がメディアに取り上げられた
頻度が従来に比べほぼ倍増

10月に入り急増した株券入庫額

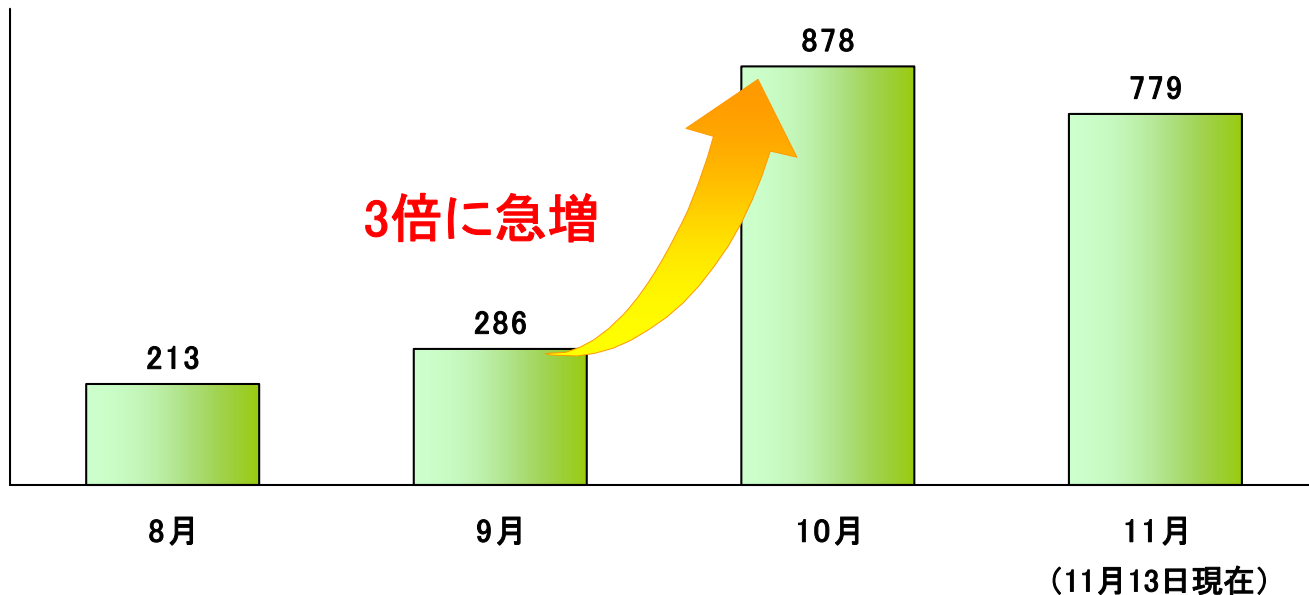
野村ホールディングス

2009年1月27日 野村証券とジョインベスト証券の統合検討を発表

2009年9月18日 本年11月23日付けでの統合を正式発表

SBI証券における一日平均株券入庫額(入庫額-出庫額)

(単位:百万円)

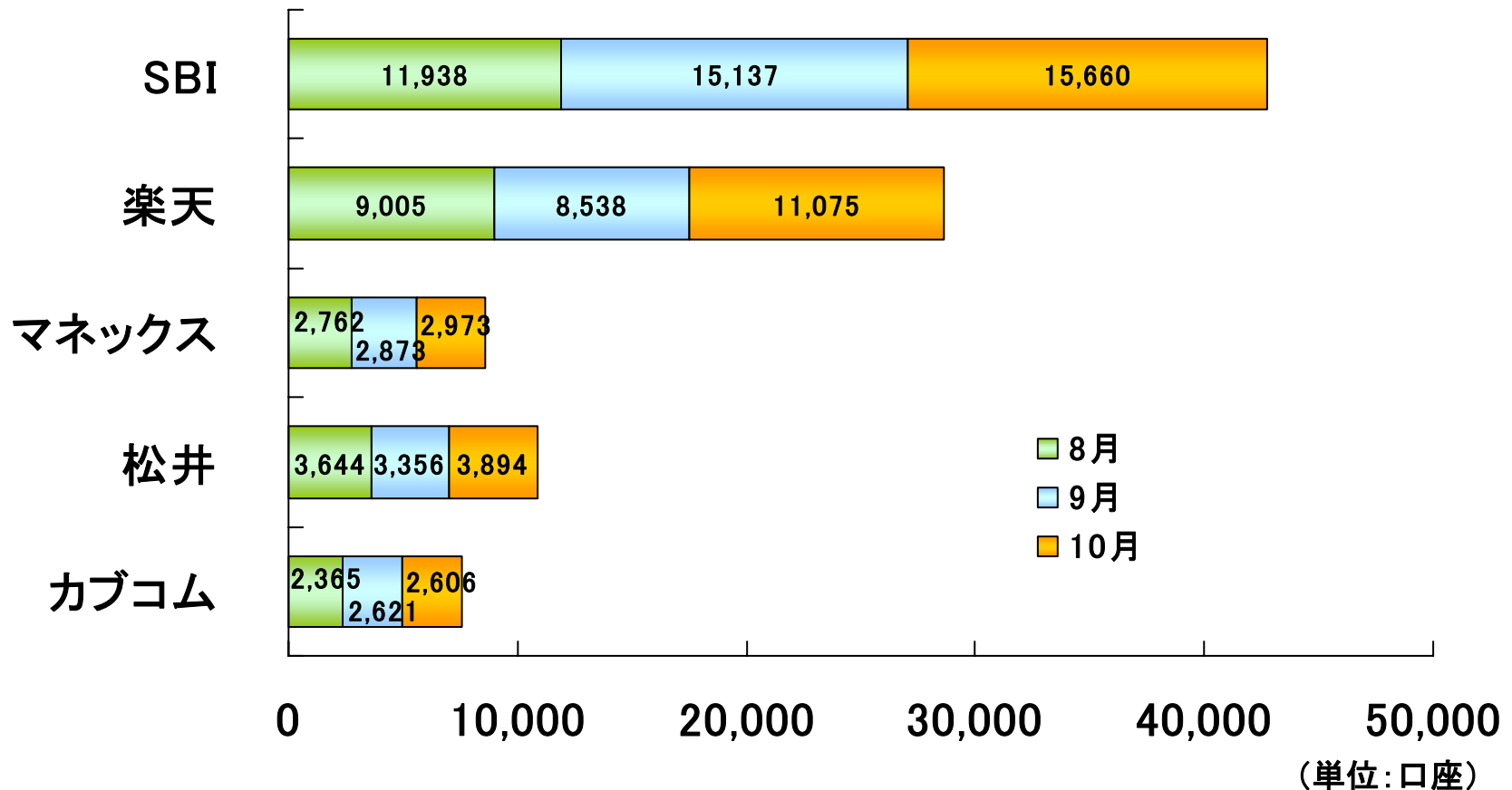


7月に発表した手数料引き下げも奏功し、10月に入りジョインベスト証券から多数の顧客がSBI証券に流入

同業他社を大きく上回る新規口座開設数

安価な手数料だけでなく、多様な商品・サービスの提供が、顧客基盤の拡大につながる

主要オンライン証券5社の直近3ヶ月間における口座開設数

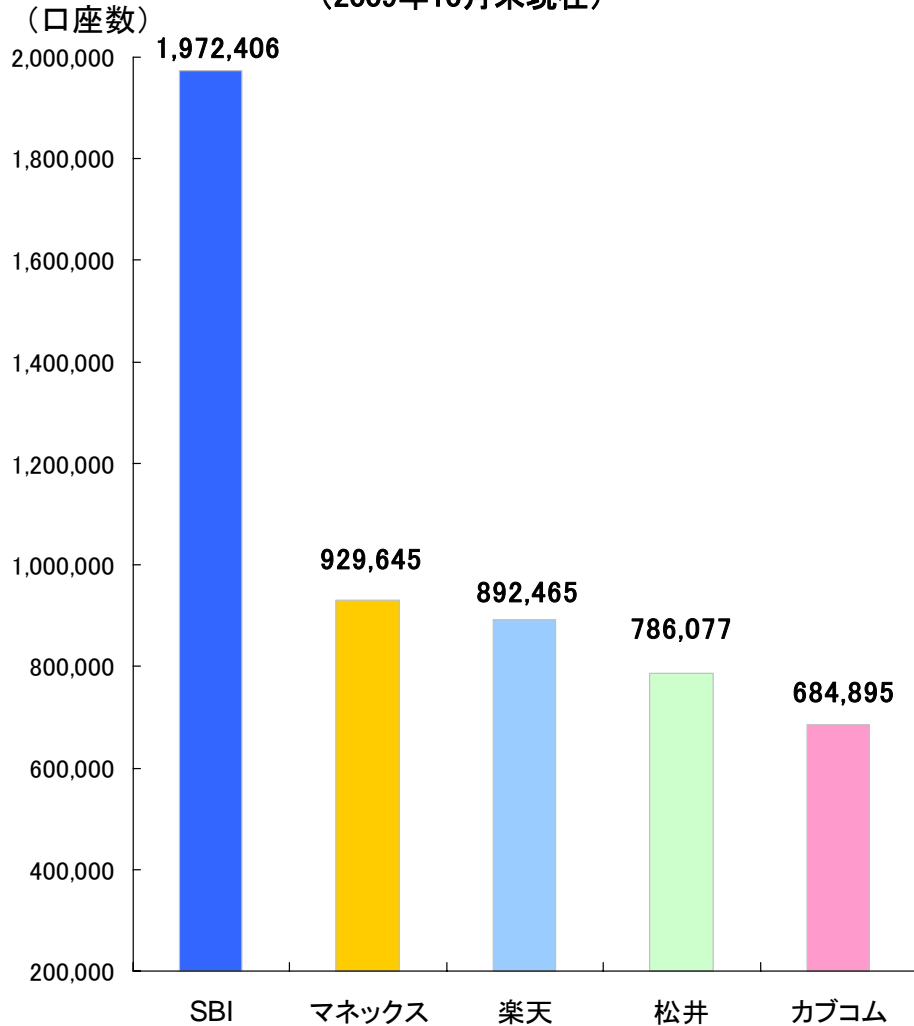


(2) 引き続き同業他社を圧倒するSBI証券の事業規模

主要オンライン証券の口座数比較

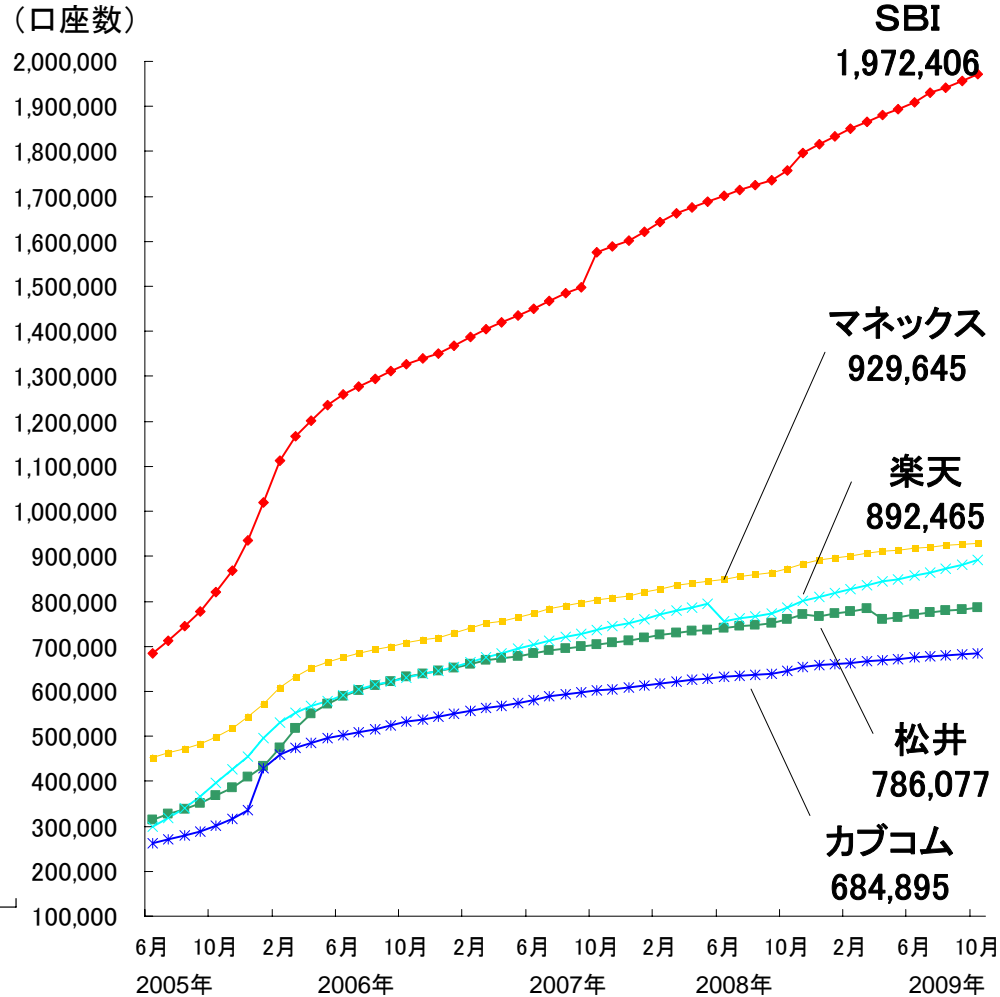
主要オンライン証券5社の口座数

(2009年10月末現在)



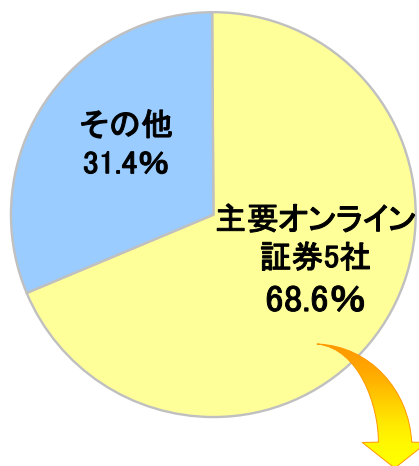
主要オンライン証券5社の口座数推移

(2009年10月末現在)



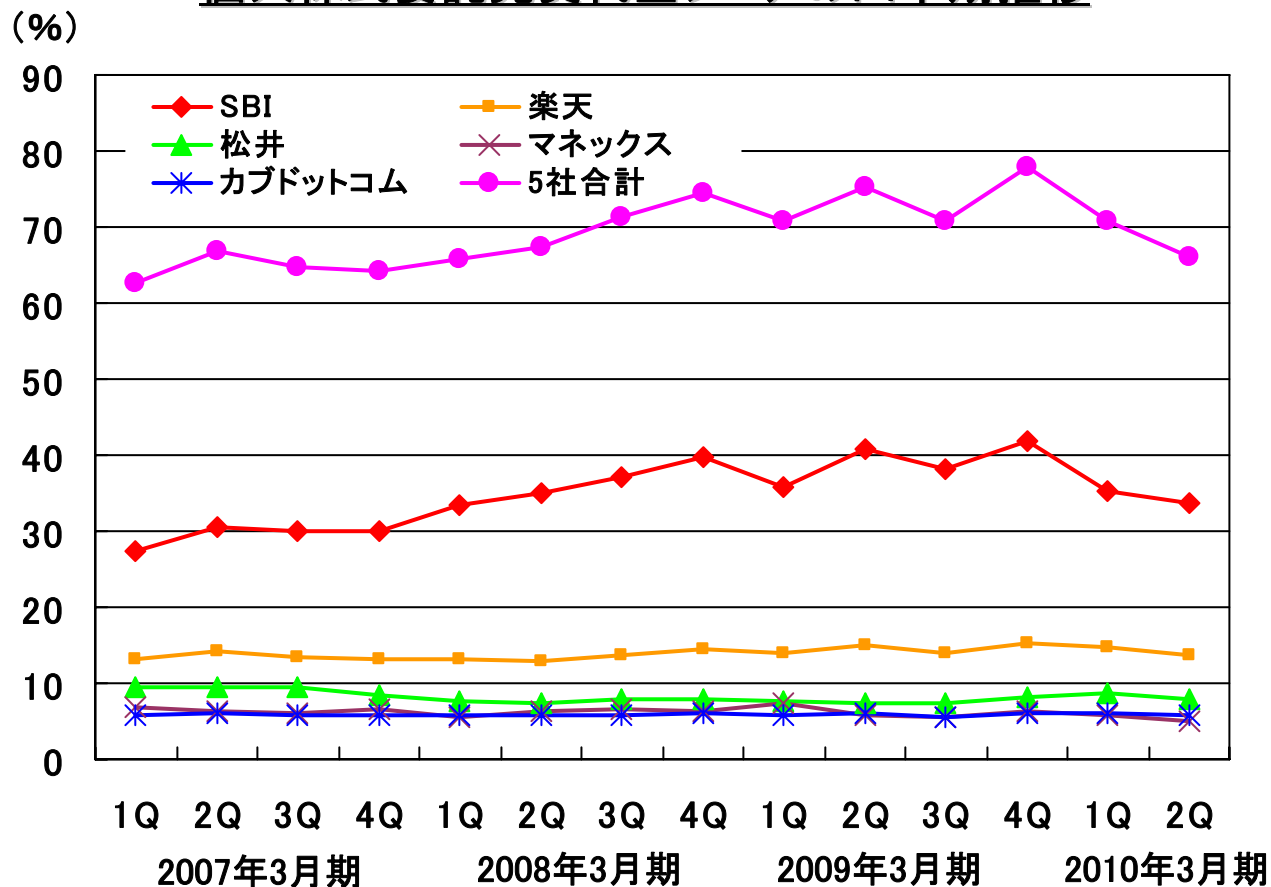
主要オンライン証券の個人株式委託売買代金シェア

2010年3月期 2Q累計シェア (2009年4月～2009年9月)



| | |
|---------|-------|
| SBI証券 | 34.6% |
| 楽天証券 | 14.2 |
| 松井証券 | 8.3 |
| カブドットコム | 5.8 |
| マネックス | 5.5 |

個人株式委託売買代金シェアの四半期推移

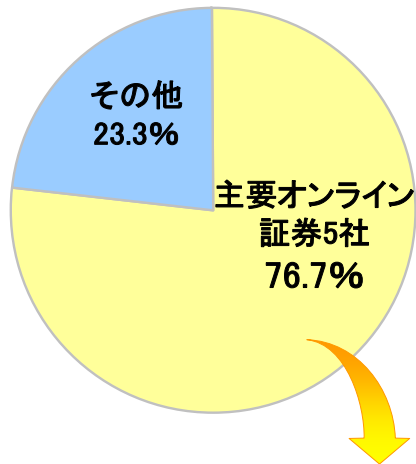


出所：東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ホームページ等公表資料より当社にて集計
 ※ 個人株式委託売買代金は3市場(1・2部)とJASDAQを合算

SBI証券はインターネット取引のみで算出

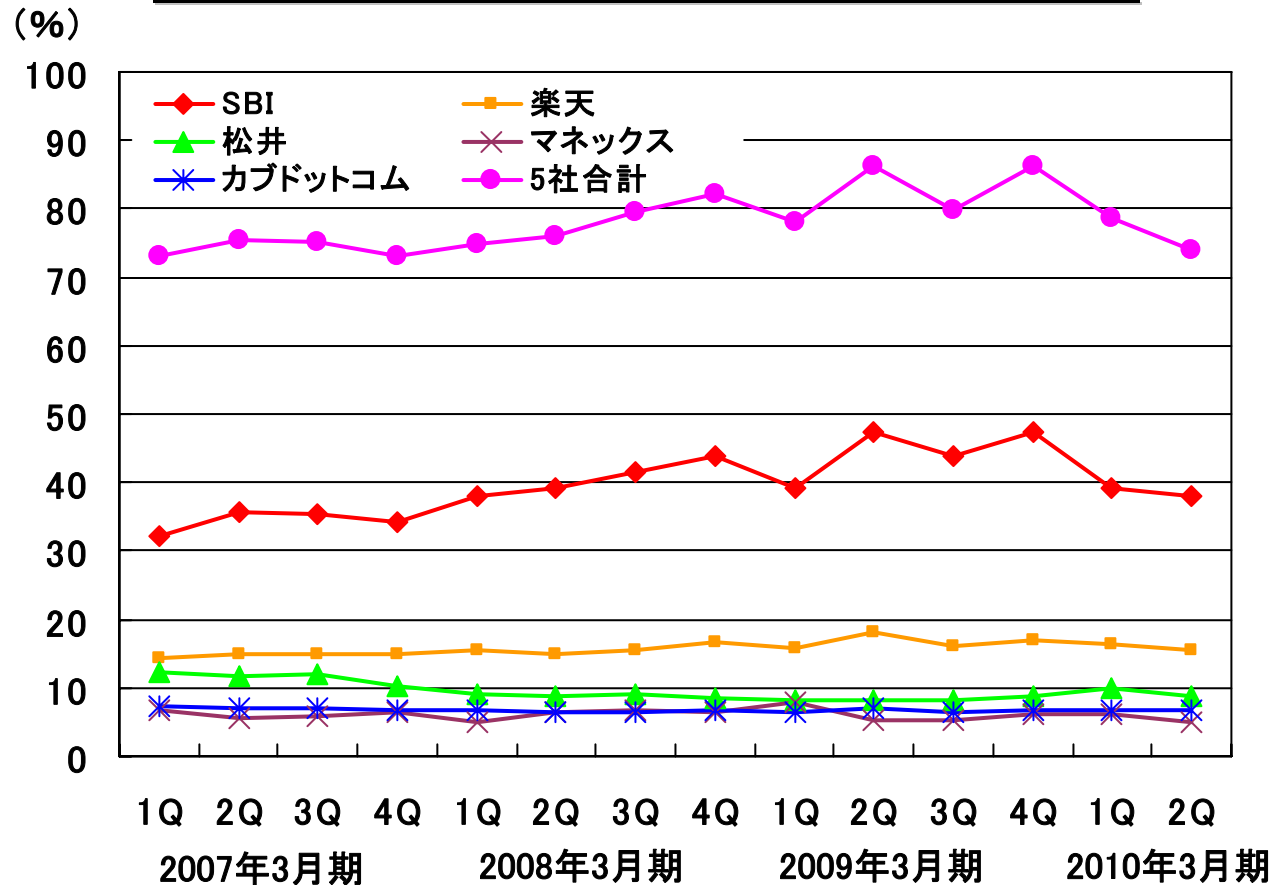
主要オンライン証券の個人信用取引委託売買代金シェア

2010年3月期 2Q累計シェア (2009年4月～2009年9月)



| | |
|---------|-------|
| SBI証券 | 38.7% |
| 楽天証券 | 16.1 |
| 松井証券 | 9.4 |
| カブドットコム | 6.8 |
| マネックス | 5.6 |

個人信用取引委託売買代金シェアの四半期推移



－ 手数料について －

1 注文の約定代金に対する手数料の比較

オリックス証券(28万口座)

| 約定代金(例) | 現物取引 | 信用取引 |
|---------|--------|------|
| 10万円 | 200円 | 315円 |
| 50万円 | 420円 | 315円 |
| 100万円 | 800円 | 315円 |
| 500万円 | 1,500円 | 315円 |
| 1,000万円 | 1,500円 | 315円 |
| 5,000万円 | 1,575円 | 315円 |
| 1億円 | 1,575円 | 315円 |

マネックス証券(93万口座)

| 約定代金(例) | 現物取引 | 信用取引 |
|---------|----------|----------|
| 10万円 | 1,050円 | 1,050円 |
| 50万円 | 1,050円 | 1,050円 |
| 100万円 | 1,050円 | 1,050円 |
| 500万円 | 5,250円 | 5,250円 |
| 1,000万円 | 10,500円 | 10,500円 |
| 5,000万円 | 52,500円 | 52,500円 |
| 1億円 | 105,000円 | 105,000円 |



合併する2社の手数料体系を統一する際に、
オリックス証券の顧客にとって手数料値上げとなった場合、

オリックス証券の顧客は、『より安価な手数料』を提供する
証券会社へ移動すると考えられる

マネックス証券とオリックス証券の合併に関する考察②

－ 売買代金シェアについて －

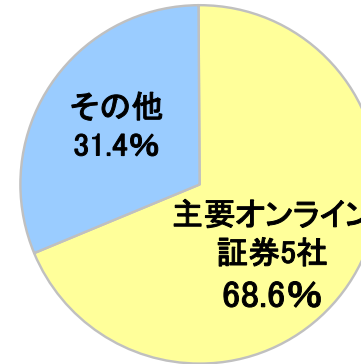
業界2位以降の勢力に変動が想定されるものの、
SBI証券の事業規模は引き続き同業他社を大きく上回る

主要オンライン証券の経営規模

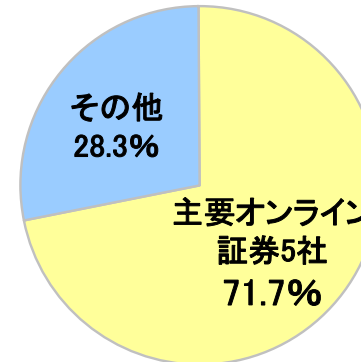
2010年3月期 上半期シェア

(2009年4月～2009年9月)

| | 証券会社名 | 営業収益 (億円) | 口座数 (万件) |
|---|-------------|--------------|-------------|
| 1 | SBI | 475 | 197 |
| | マネックス+オリックス | 318 | 121 |
| 2 | 松井 | 267 | 79 |
| 3 | マネックス | 248 | 93 |
| 4 | 楽天 | 233 | 89 |
| 5 | カブドットコム | 167 | 68 |
| 6 | クリック | 81 | 8 |
| 7 | オリックス | 70 | 28 |
| 8 | ジョインベスト | 60 | 34 |



| | |
|------------|--------------|
| SBI | 34.6% |
| 楽天 | 14.2 |
| 松井 | 8.3 |
| カブドットコム | 5.8 |
| マネックス | 5.5 |



| | |
|-------------|--------------|
| SBI | 34.6% |
| 楽天 | 14.2 |
| マネックス+オリックス | 8.6 |
| 松井 | 8.3 |
| カブドットコム | 5.8 |

出所：東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ホームページ等公表資料より当社にて集計

※1 順位は2009年3月期の営業収益(億円未満は四捨五入)ベース

※2 口座数(万件未満は四捨五入)は2009年10月末時点

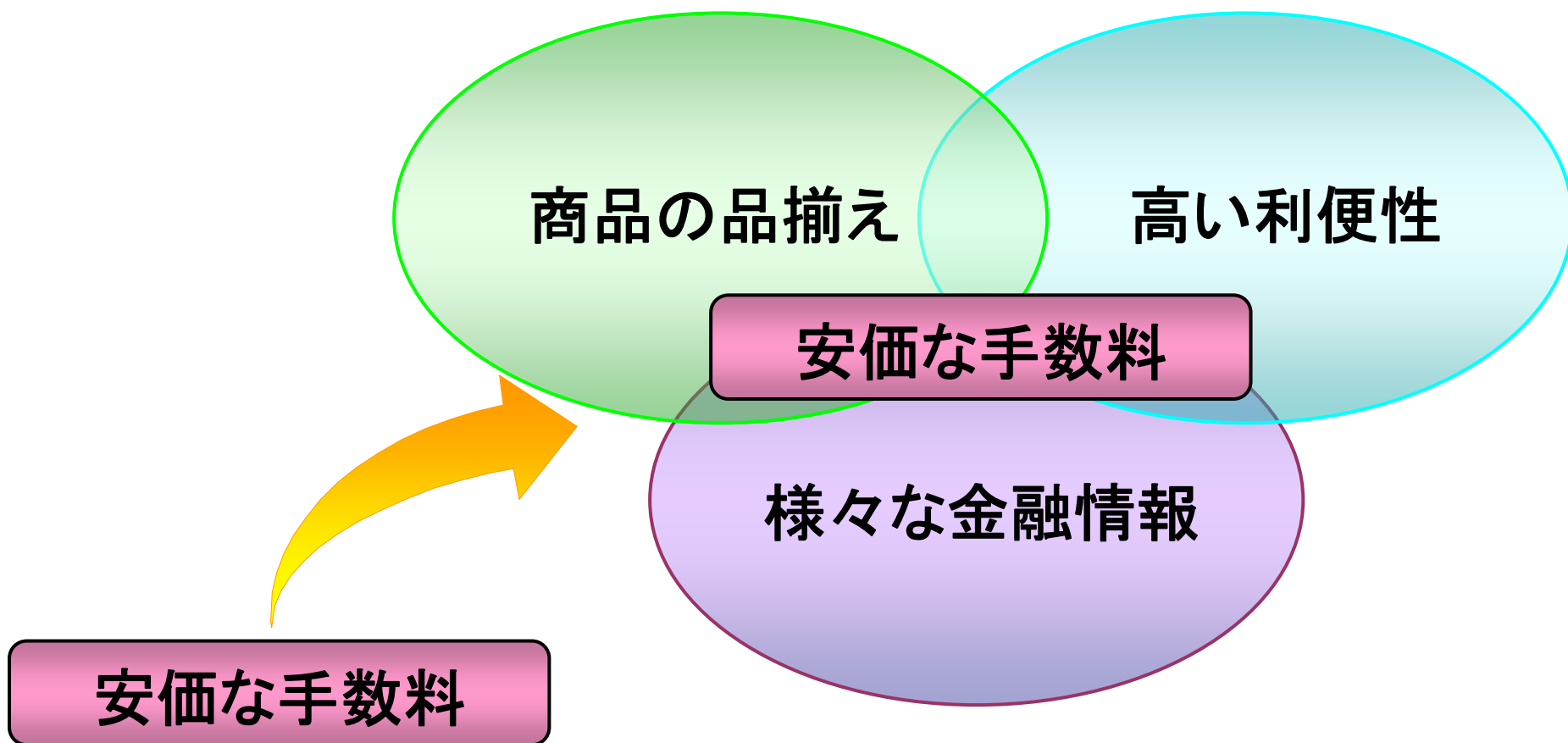
※ 個人株式委託売買代金は3市場(1・2部)とJASDAQを合算
SBI証券はインターネット取引のみで算出

(3) SBI証券の更なる成長を促すグループシナジー

「手数料」競争から「手数料＋総合力」競争へ

顧客の成長とともに、オンライン証券選択の基準は
「安価な手数料」から

「安価な手数料」＋「豊富な金融商品・サービス・情報」へと変化



SBI証券における同業他社との差別化要因

グループシナジーを最大限に発揮することで、更なる成長を目指す



利便性の高いFX取引環境を提供する SBIリクイディティ・マーケット

SBI証券での取引拡大がもたらす、
SBIリクイディティ・マーケット成長のための好循環

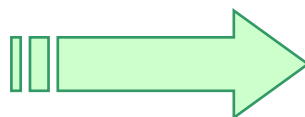
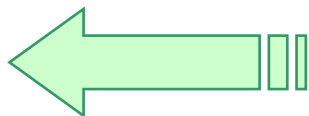
SBI証券

SBI FX α 口座数

137,315口座

(09年10月末)

有利な為替情報の
提供・レート表示



売買注文

SBI Liquidity Market

シティバンク、ドイツ銀行、ゴ
ールドマン・サックス証券等計15行
(計19行となる予定)に及ぶ欧米
主要金融機関及び国内主要銀
行との取引ライン

取引量の拡大
口座数の増加



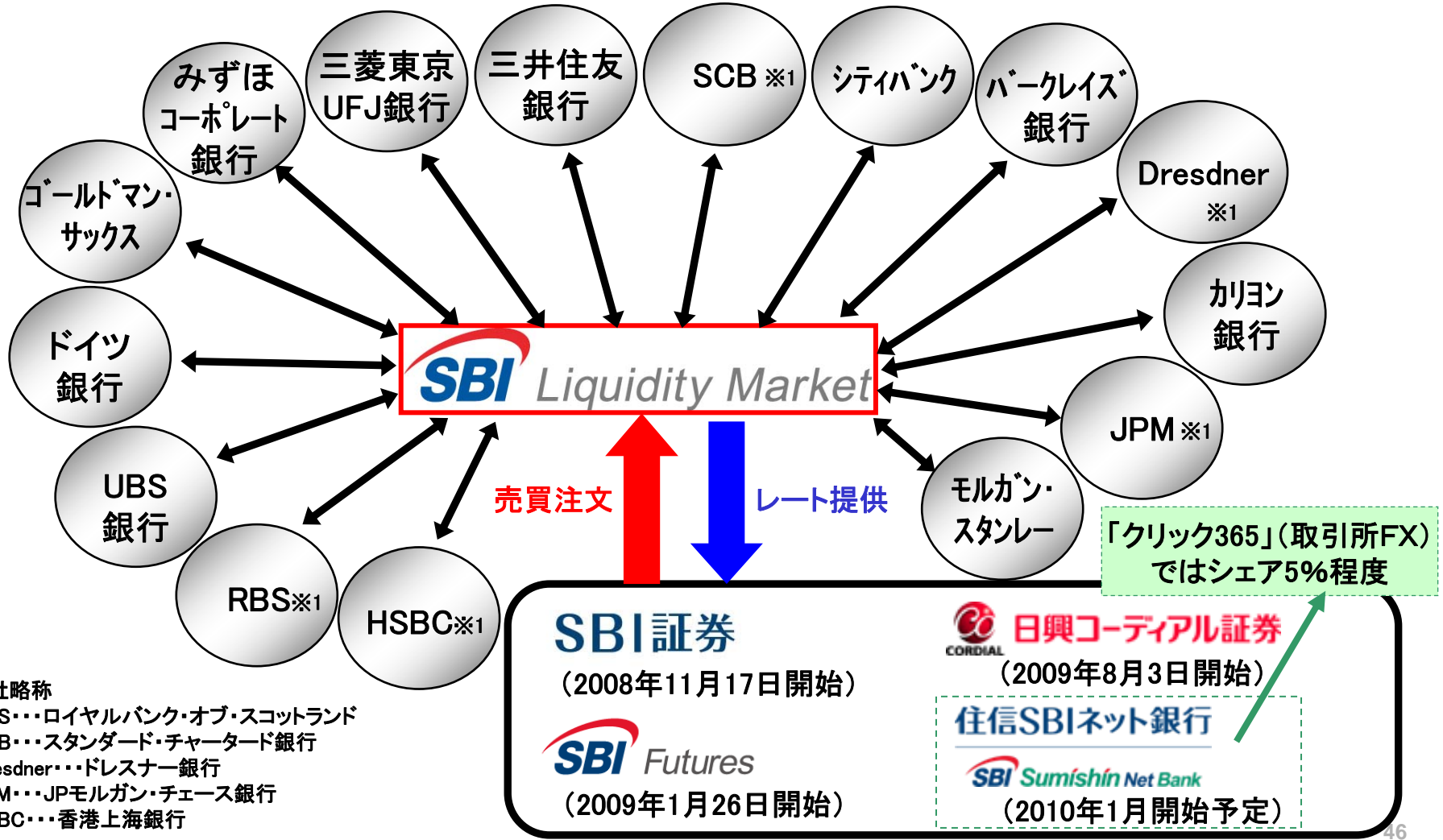
流動性の向上

SBI証券の取引量の拡大により、SBIリクイディティ・マーケットの流動性が高まる。流動性が高まれば、顧客はより利便性の高いFX取引の環境を得られ、個人投資家のFX取引の市場規模がますます大きくなる。

欧米主要金融機関及び国内大手銀行計15行※の カウンターパーティー群により、安定した取引機会を提供

(※ この他、4金融機関と交渉中)

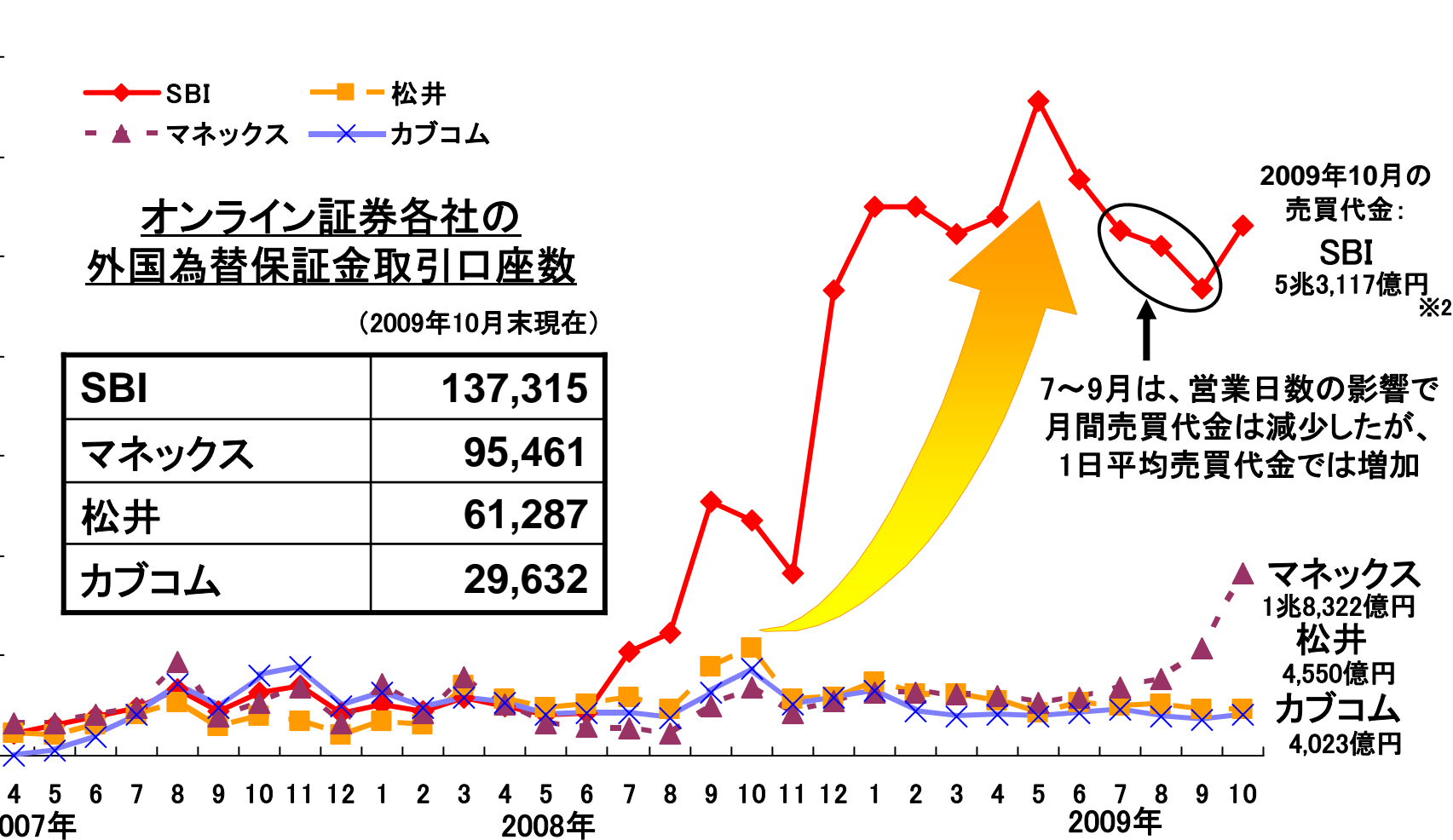
今年度に入り新たに3行(みずほコーポレート銀行、三菱東京UFJ銀行、三井住友銀行)が
カウンターパーティーとして参加



※1 各社略称
 RBS・・・ロイヤルバンク・オブ・スコットランド
 SCB・・・スタンダード・チャータード銀行
 Dresdner・・・ドレスナー銀行
 JPM・・・JPモルガン・チェース銀行
 HSBC・・・香港上海銀行

ネット証券大手4社※1の 外国為替保証金取引売買代金の推移

SBIリクイディティ・マーケットを活用しサービス内容を拡充したことで、
SBI証券におけるFX取引の売買代金は大きく拡大



※1 SBI証券とデータが開示されているマネックス証券、松井証券、カブコム証券の計4社

※2 2008年11月~2009年2月は、『SBI FX』及び『SBI FX α』の売買代金合計

SBIリクイディティ・マーケットは、2008年11月17日の
 営業開始から短期間で、連結業績に大きく貢献する子会社に成長

【SBIリクイディティ・マーケットの収益貢献】

(単位:億円)

| | 2009年3月期 | | | 2010年3月期 | | |
|--------------------------------------|----------|------|------|----------|-------------|-------------|
| | 3Q※1 | 4Q | 通期 | 1Q | 2Q | 累計 |
| 営業収益(売上高) | 5.5 | 23.5 | 29.0 | 28.2 | <u>27.9</u> | <u>56.1</u> |
| 内、SBI証券の トレーディング益 (SBI証券:営業利益) | 3.5 | 14.9 | 18.3 | 17.9 | <u>17.6</u> | <u>35.5</u> |
| 営業利益 | 1.1 | 7.3 | 8.4 | 8.6 | <u>8.4</u> | <u>17.0</u> |

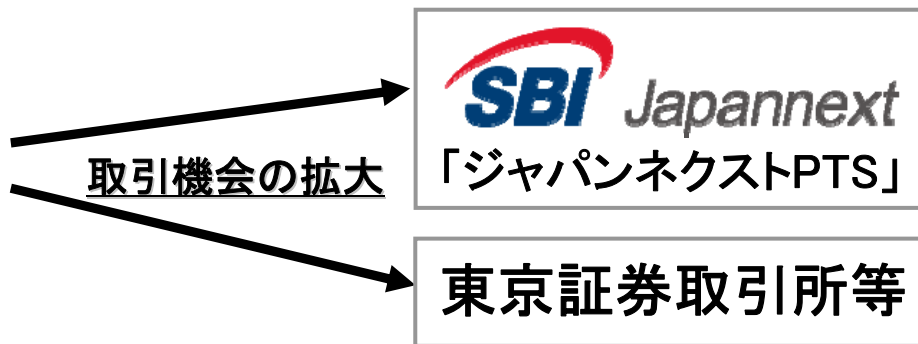
※1 営業期間は11月17日からの約1.5ヶ月間

接続する事業者の拡充により、
 更なる流動性(取引量)の拡大と収益の増加を図る

顧客に取引機会の拡大をもたらす ジャパンネクストPTS

SBI証券

2007年8月より夜間取引を開始／2008年12月より昼間取引を開始



市場ごとに売買価格は異なるため、有利な価格に気付いた顧客がPTS市場を利用

SBI証券:

PTS利用者の増加

(累計PTS口座数: 212,235口座)※

口座数の増加



ジャパンネクストPTS
の取引拡大

～SBI証券のPTS事業は黒字を堅持～

急拡大する私設取引市場

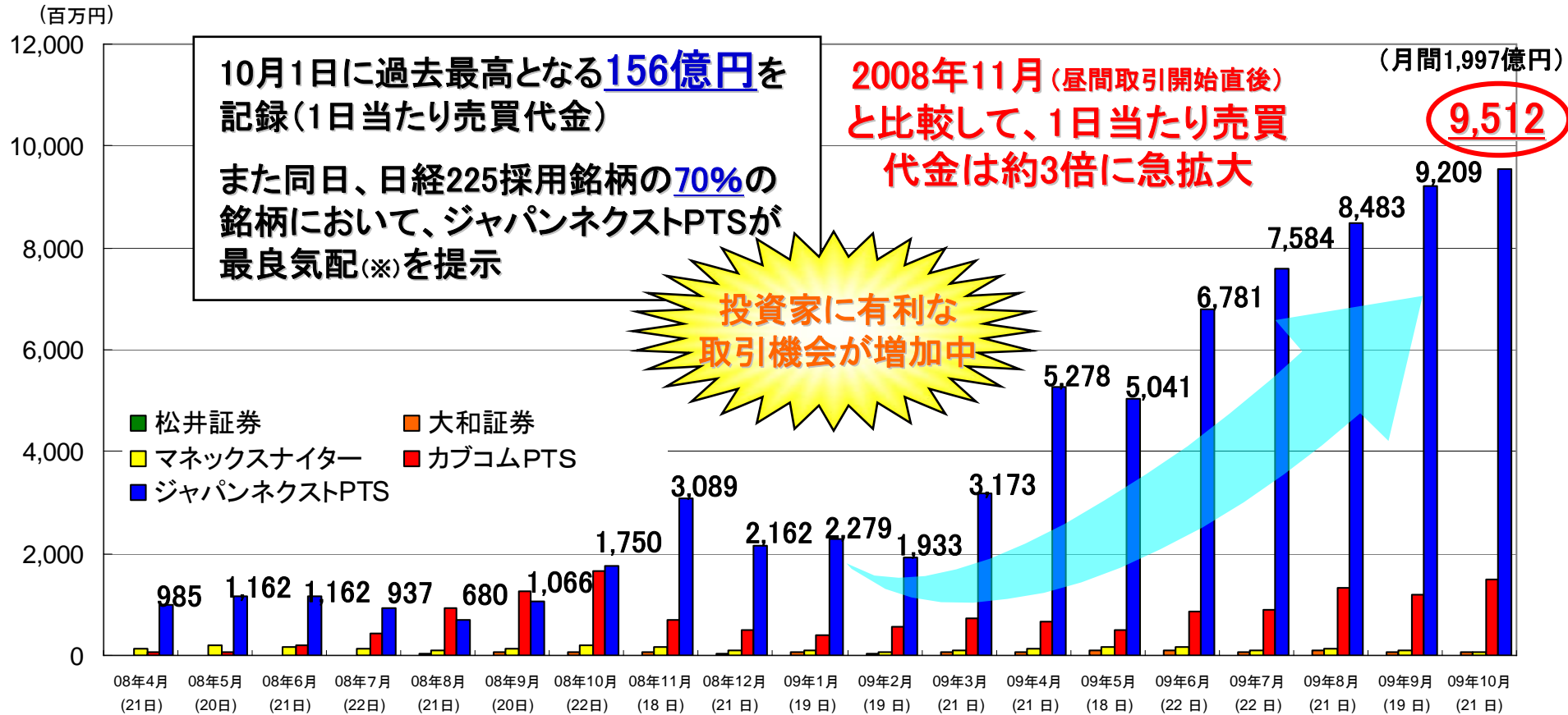
記事

証券取引所を使わずに株式を取引する私設取引システム(PTS)の取引規模が急拡大している。

6つの国内PTSの売買代金の合計は、10月に昨年同月比2.1倍の3016億円に達し、ジャスダック証券取引所と並んだ。

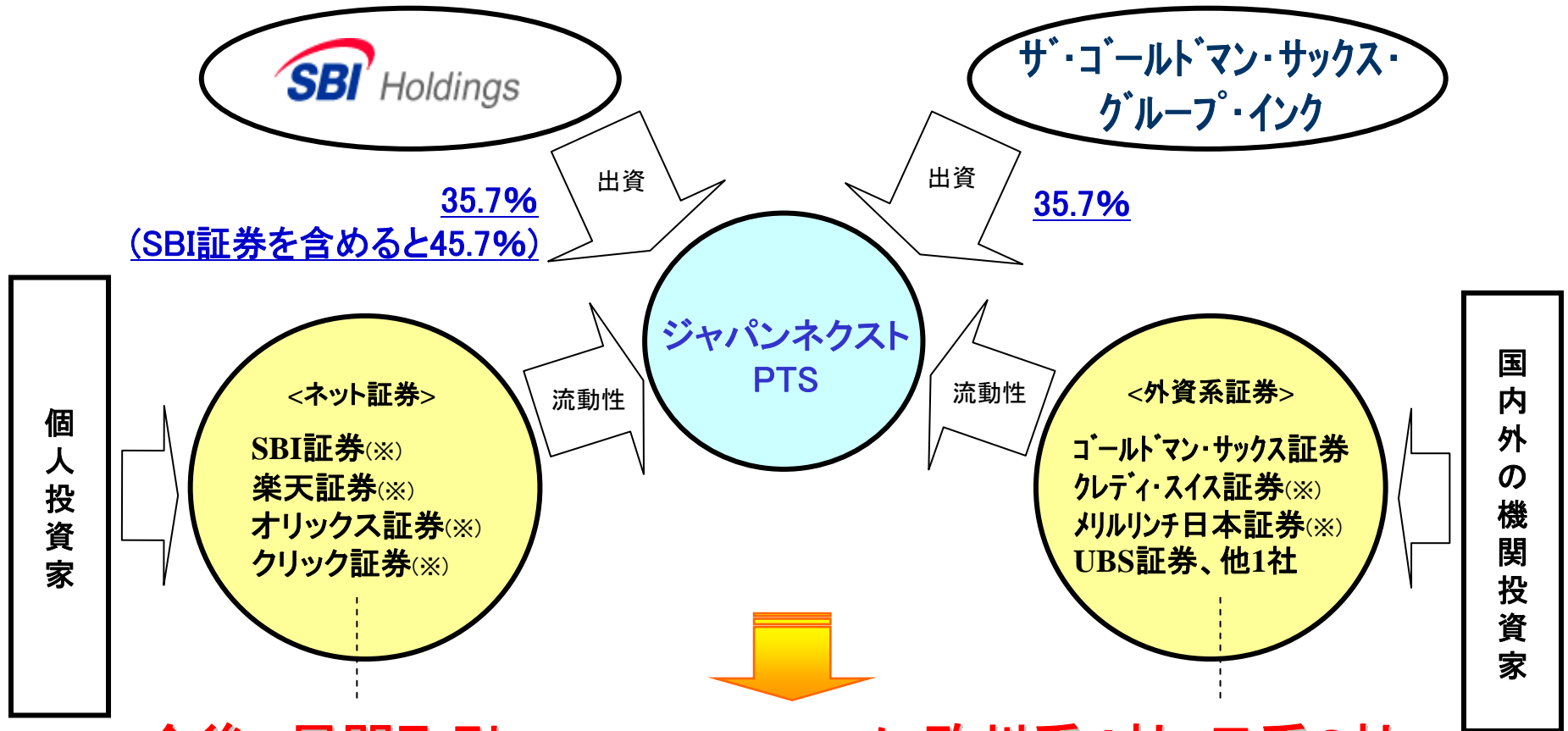
SBIジャパンネクストは日本最大規模の 私設取引市場に

1日当たり売買代金比較 (2008年4月～)



(※)取引所よりも有利な気配値段、トムソンロイターにて確認 売買代金は各社HP、日本証券業協会HP、日経QUICKより当社にて集計
なお売買代金は当社独自に集計したものであり、各社の今後の公表数値とは異なる場合があります。
シングルカウントとなっており、売りと買いの合計ではありません

新たな接続証券会社の参加により期待される ジャパンネクストPTSの取引拡大



**今後、昼間取引(8:20AM ~ 4:30PM)に欧州系4社・日系2社、
夜間取引(7:00PM ~ 11:59PM / 0:30AM ~ 2:00AM)に
欧州系1社が取引参加を予定**

住信SBIネット銀行との連携サービスにより SBI証券の利便性は更に向上

預金・決済
機能

住信SBIネット銀行

 SBI Sumishin Net Bank



資産運用機能

連携サービス例: アグリゲーション機能

住信SBIネット銀行でSBI証券の残高を同時に表示。株式情報へのリンクでSBI証券での証券取引も可能。

追加保証金等自動振替サービス

追加保証金が必要な場合に、代表口座の円普通預金からSBI証券口座に自動的に振替えるサービス。

SBIハイブリッド預金(証券取引の売買代金自動入出金サービス)

SBI証券専用銀行口座(SBIハイブリッド預金)残高を、SBI証券における株式等の現物取引の買付余力の計算、信用取引における信用建余力の計算、現引可能額の計算に利用可能。

口座開設同時申込

SBI証券の口座開設と同時に住信SBIネット銀行の口座開設手続きが可能。

(SBI証券の銀行代理業)

小規模・地域密着型の代理店網を今後の営業戦略の要に

オンラインのみならず、代理店網の構築により
ネットとリアルとの融合を推進する



SBI証券・支店

全23店舗



SBI証券・代理店
(対面型金融仲介業者)

74拠点

日本インベスターズ証券

会計士・税理士・FPなどのネットワーク

SBIフィナンシャルショップ

住宅ローンショップを運営 等

金融商品に加え、グループ商品のクロスセル
(住宅ローン、保険等)を行う。

SBI証券のみでの店舗展開



日本インベスターズ証券、SBIフィナンシャル
ショップ、その他仲介業者の活用



目標拠点数(年度内): 150拠点超
(SBI証券の23店舗を含む)

投資に有用な情報をいち早く提供する ウォール・ストリート・ジャーナル日本版」サイトの開設

12月15日(火)にいよいよ開始!

(下記は11月11日にオープンした予告サイトのイメージ:)

運営:
ウォール・ストリート・ジャーナル・
ジャパン株式会社
(出資比率)
SBIホールディングス 40%
Dow Jones & Company 60%

創刊120年を誇る金融経済紙ウォール・ストリート・ジャーナルの日本版ウェブサイトでは、世界各地にいる約1,800名の記者によって集められた質の高い情報の中から、日本の読者向けに記事を厳選して翻訳・編集します。

これまで原文の英語でしか読むことができなかった分析記事や鋭い論説を、日本語にて幅広く提供いたします。



経済再建に取り組むオバマ政権



大統領はディテール好き

これまでの大統領の多くは、様々な問題のディテールを避けながら、高所から見下ろす形で政策を実行してきた。しかしオバマ大統領は違ったスタイルを持つ。特にそれは、大恐慌以来、最悪の金融危機に直面する米国の経済に対する大統領の取り組みを見ると顕著だ。

オバマ流外交



【寄稿】APEC: 持続成長への道筋

ティモシー・ガイナー米財務長官、スリムルヤニ・インドラワティ・インドネシア財務相、ターマン・シヤムガラトナム・シンガポール財務相

未曾有の経済危機を経験した世界は、各国の相互依存関係を改めて認識させられた。今後は持続成長と不均衡を正に向けて一層の協力が必要となる。



オバマ大統領、目標を下げて臨むアジア歴訪

米オバマ大統領は12日、アジア4カ国歴訪へと旅立つ。だが、政府関係者は、大統領が目下の最重要課題に対して具体的な譲歩や成果を得られる可能性は低いとみている。手付かずの課題は手付かずのまま終わる公算が大きい。

URL <http://japan.wsj.com/>

**③ 国内のIPO(新規上場)は少ないですが、
今年度の投資関連事業の状況は？**

(1)今年度の実績及び見通し

(2)海外の成長力をSBIの成長力へ

(1) 今期の実績及び見通し

アセットマネジメント事業における IPO・M&A実績と見込み

国内のIPOマーケットは低調に推移しているが、
中国などの経済成長著しい新興国に積極的な投資をした成果が結実しつつある

| | 事業開始から 2008年3月期まで | 2009年3月期 通期実績 | 2010年3月期 | |
|-----------|----------------------|------------------|----------|--------|
| | | | 上半期実績 | 下半期見込み |
| IPO・M&A社数 | 111 | 0 | 3 | 12 ※ |

上半期には以下の3社がIPO・M&Aに至っております

6月23日 GCL Solar Energy Technology Holdings Inc. (M&A) ※

6月30日 China Cord Blood Services Corporation (M&A)

7月29日 BBMG (香港) ※

★ **第3四半期見込み：6社** (下記3社のほかに3社のIPO・M&Aを見込んでおります。)

10月23日 (株)デ・ウエスタン・セラピテクス研究所 (ジャスダックNEO)

11月10日 Helixir Co., Ltd (M&A)

11月20日 (株)エフオーアイ (東証マザーズ)

★ **第4四半期見込み：6社**

※ LP出資しているNew Horizon Capital(2号ファンド) に組入れられている銘柄からのExit社数(6社)を含みます。LP出資しているNew Horizon Capital(2号ファンド) に組入れられている銘柄からのExit社数(6社)を含みます。上記3社のうち、GCL Solar Energy Technology Holdings Inc.とBBMGは2号ファンドからの投資です。なお、6社のうち上期中に2社Exitしており、さらに第3四半期に2社、第4四半期に2社のExitを見込んでおります。

※ IPO予定件数は、毎週開催しております「案件会議」での検討に基づき、投資先5段階評価において最上位に区分されたものが含まれておりますが、これら投資先の評価およびIPO予定の見通しは当社独自判断に基づいたものであり、今後のIPOを保証するものではありません。尚、過去実績のIPO・M&A社数はすでに売却済みのもを含みます。

相場の低迷を好機と捉え、積極的な投資を継続

2010年3月期 第2四半期の投資実行額

単位:百万円
(投資会社数)

| | 投資実行額 | | | |
|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|------------------|
| | 当2Q (7月~9月) | 当上期累計 (4~9月) | (参考) 前上期累計 | (参考) 前通期累計 |
| 【ファンドによる投資分】 | 13,867 (43社) | 29,214 (77社) | 40,053 (61社) | 82,013 (105社) |
| 内 株式等 | 3,163 (28社) | 9,431 (53社) | 11,502 (30社) | 26,277 (57社) |
| 内 その他 (社債等) | 10,704 (15社) | 19,783 (24社) | 28,551 (31社) | 55,736 (48社) |
| 【直接投資分】 | 679 (2社) | 1,789 (5社) | 10,663 (10社) | 13,165 (13社) |
| 内 株式等 | 679 (2社) | 689 (4社) | 10,583 (9社) | 11,224 (11社) |
| 内 その他 (社債等) | — | 1,099 (1社) | 80 (1社) | 1,940 (2社) |
| 【合計】 | 14,547 (45社) | 31,003 (82社) | 50,716 (71社) | 95,179 (118社) |
| 【比較:JAFCO】 | 9,750 (37社) | 11,125 (60社) | 23,027 (64社) | 32,546 (106社) |

注) 1社に対し各第1、第2四半期にわたって複数回投資実行した場合は、累計において1社とカウントし重複を排除しています。
(データ出所:各社開示資料より当社にて集計)

(2) 海外の成長力をSBIの成長力へ

底堅い上昇を続ける海外株式市場(1)

日本株が出遅れる一方で中国等のアジア株式市場は堅調に上昇

記事

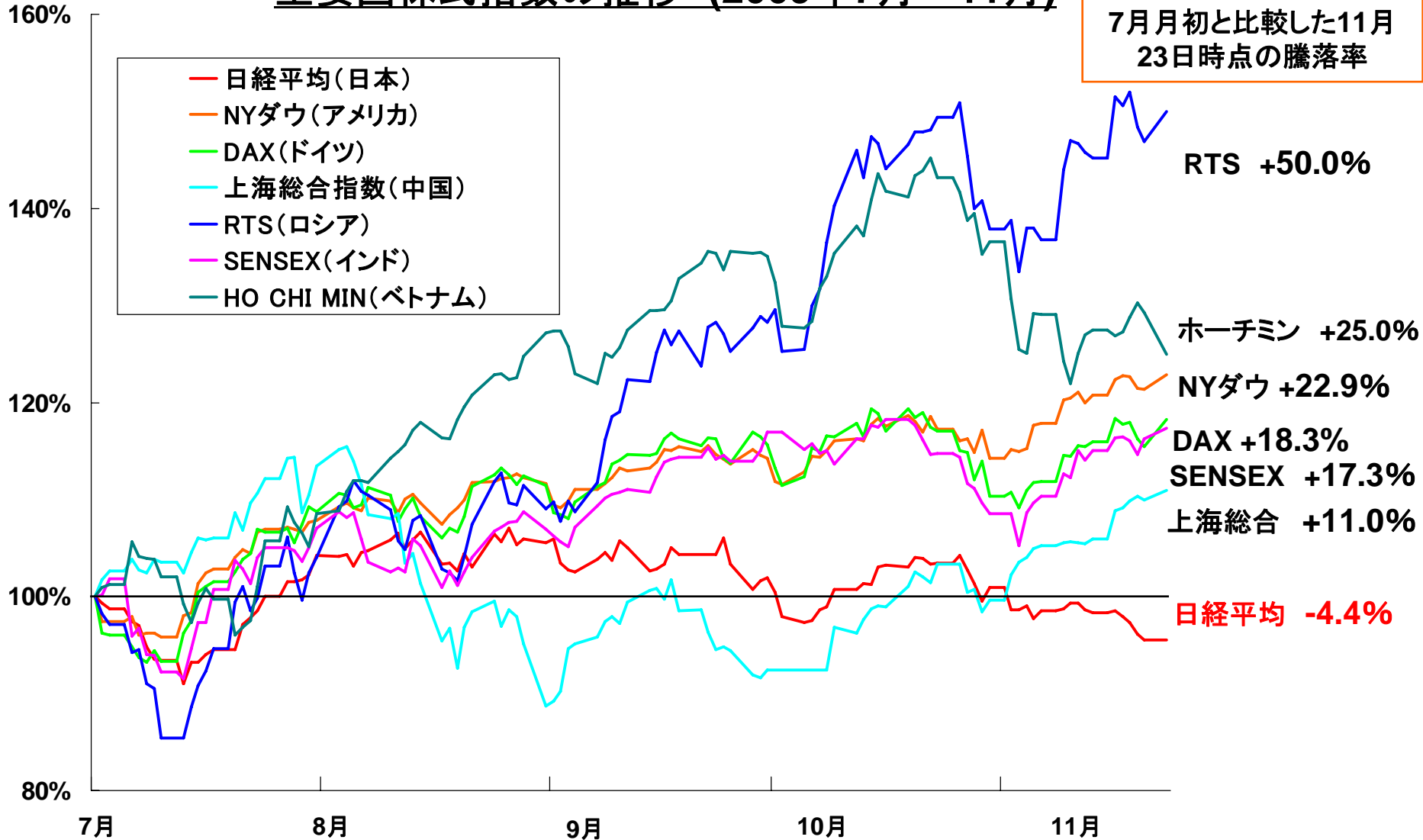
～アジアの株式市場で日本株の下落が目立つ。前週末の米国株安を受けた2日の東京市場で、日経平均株価は大幅反落し、再び1万円を割った。一方、上海市場は経済指標の改善などで株価が上昇。韓国市場なども底堅かった。日本は円高もあってアジア各国に比べて生産の回復が遅れており、輸出競争力の低下が株安の一因との見方が出ている。～

※ 2009年11月3日 日本経済新聞より抜粋

底堅い上昇を続ける海外株式市場(2)

主要国株式指数の推移 (2009年7月~11月)

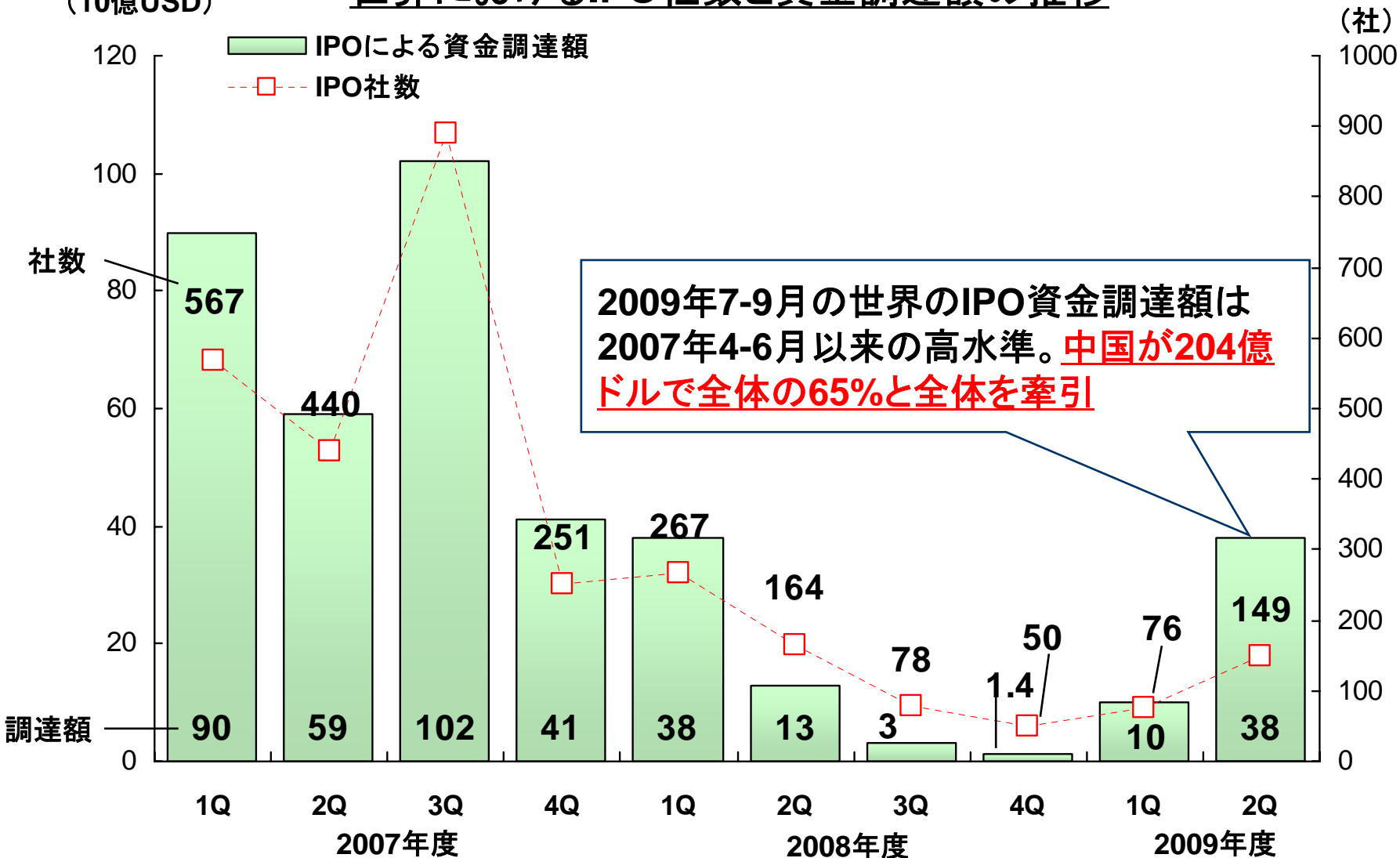
7月月初と比較した11月
23日時点の騰落率



中国に牽引され増加する世界のIPO

世界におけるIPO社数と資金調達額の推移

(10億USD)



2009年7-9月の世界のIPO資金調達額は2007年4-6月以来の高水準。**中国が204億ドルで全体の65%と全体を牽引**

期待が高まる中国の新興株式市場

中国ベンチャー企業向け市場
「創業板(中国版ナスダック)」が10月30日に取引開始

※1

～第1弾として上場した28社の上場初値は全社が公募価格を上回り、うち6社は2倍を突破。株価急騰を受け、当局は全銘柄について売買を一時停止する措置をとった。～

記事

記事

※2

New Horizon Fund(1号ファンド)の運用状況

- 2005年5月の運用開始から、投資先10社のうちこれまでに7社が上場
- 設立から2009年度2Qまでの累計営業利益では**94億円**
- この環境下でも当社持分で**約54億円**(11/20現在)の含み益を有しており、最良の売却タイミングを見計らって利益極大化を図る

(単位:百万USDドル)

| 投資先名 | 投資残高 | 種類 | IPO/M&A 予定 | キャピタルゲイン | | |
|---|-------------|-------|---------------|--------------|--------------|--------------|
| | | | | 2008年 3月末 | 2009年 3月末 | 11月20日 現在 |
| Sichuan Meifeng Chemical Industry | 8.3 | A株 | | 63.7 | 26.4 | 23.8 |
| Changsha Zoomlion Heavy Industry Science & Technology Development | 2.6 | A株 | | 144.6 | 66.6 | 77.9 |
| China Printing & Dyeing Holding | - | 普通株 | | 0.2 | - | ※1 - |
| Yingli Green Energy Holding | - | 普通株 | | 4.5 | - | - |
| Kingsoft | - | 普通株 | | 2.3 | 4.4 | - |
| Goldwind Science and Technology | 0.5 | A株 | | 124.9 | 29.9 | 12.2 |
| China Cord Blood Corporation | 4.1 | 普通株 | | 17.6 | 17.6 | 10.8 |
| Jiangsu Ealong Biotech | - | - | - | 5.6 | 5.6 | - |
| Shineway Group | 20.4 | プレIPO | 2010 | 15.0 | 15.0 | 15.0 |
| Cathay Industrial Biotech | 12.0 | プレIPO | 2011 | 79.1 | 79.1 | 79.1 |
| 合計 | 47.9 | | | 457.5 | 244.6 | 218.8 |

IPO済
時価評価

IPO/M&A
未済
予想評価

(約458億円) (約240億円) (約195億円)

【当社受領分配金額】※2

【09年度3Q以降の見積額】(2009年11月20日現在の見込)

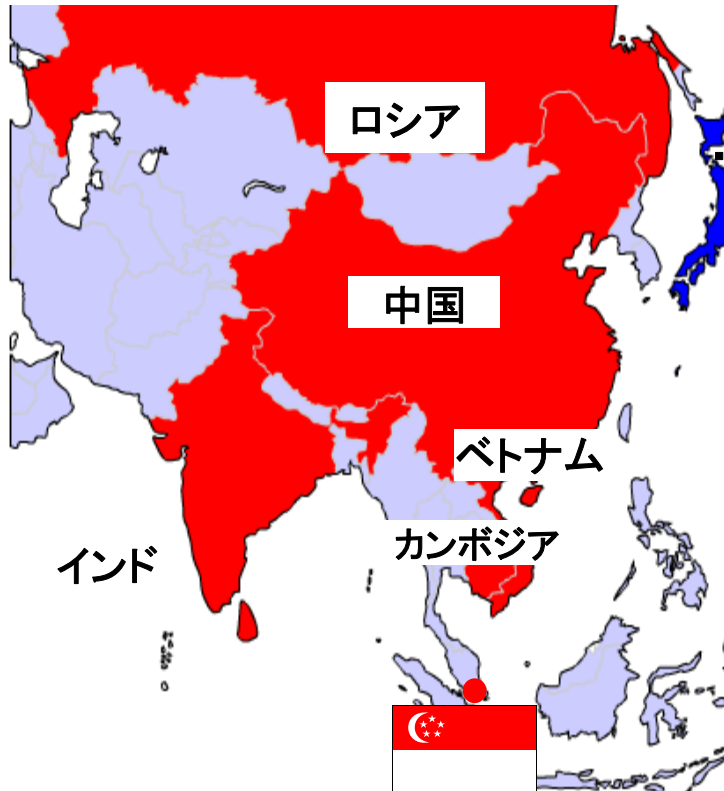
| 設立~2007年度 | 2008年度 | 2009年度 1-2Q累計 | 2009年度3-4Q | 2010年度 | 2011年度 | 09年度3Q以降の 総分配見積額 |
|-----------|--------|------------------|------------|--------|--------|---------------------|
| 9億円 | 61億円 | 32億円 | 47億円 | 25億円 | 30億円 | 102億円 |

注: 分配金見積額は、現在及び将来上場もしくは売却する株式の予想時価から見積もった金額で、これらの金額が確定しているわけではありません。

※1 清算中 ※2 売却額より売却に付随する費用を差し引いた額。

アジアの成長力をSBIの成長力へつなげる

～ ファンド運営事業を軸に様々な金融事業へ拡大 ～



SBI VEN CAPITAL PTE. LTD.
(シンガポール拠点)

・中国: 中国大手損保への出資を予定



・カンボジア: 昨年9月に開業したプノンペン商業銀行は順調に利益拡大を続け、創業2期目にして累積損失の解消を見込む



・ベトナム: 09年8月にベトナムのティエン・ホン銀行の新株発行増資を引き受け、合計で同社発行済み株式の20%持分相当を取得



▼ **設立初年度である2008年12月期に黒字化達成**

- ・2008年5月の開業後8ヶ月間: 税引き後利益2.8百万USD
- ・2009年12月期1-3Q(2期目): **同7.3百万USD**

・インド: インドの金融機関と、インドにおける証券会社の設立を検討中



・ロシア: ファンド提携先のIFC METROPOL社傘下の銀行への出資に向けて条件交渉中



バイオ関連事業も海外連携により成長加速へ

SBIバイオテック

中国の医薬開発ベンチャーHuapu社との提携による核酸医療プロジェクトは、臨床試験(フェーズⅠ)を患者の同意を得られ次第開始へ

米国ベイラー研究所との提携による免疫細胞療法は、米国にて臨床試験(フェーズⅡ)治験中。現在、日本における臨床研究も準備中

ALAPLUS+マーク

SBIアラプロモ

「SBIアラプロモが品質規格に基づき認証した商品」に使用



2009年6月、欧州での医薬品開発のためドイツのメダック社と共同でアラファーマ社を設立。国内ではハンドクリームに次ぐ美容クリーム等を販売中。2009年11月より、「ALA(5-アミノレブリン酸)」の医療・健康分野における研究のため、東京工業大学に寄付講座を開設。

クォーク・ファーマシューティカルズ社 (SBIグループ出資比率:24.87%)

ファイザー社へ世界規模独占的なライセンス供給を行っている合成siRNA分子PF4523655 (RTP801) ※ の根幹となる知的財産権に対し、日本の特許が登録される。PF4523655 (RTP801)は現在、フェーズⅡ aの試験中。

SBIバイオテックが来年1月よりTVショッピングを開始

韓国Helixir社(当初SBIグループ出資比率約37%)との提携により開発した健康補助食品「ノースっとサルナシ」のTVショッピングを、来年1月よりCS放送にて開始予定



スツキリのヒミツは
サルナシ抽出エキス

「ノースっと サルナシ」は、サルナシ抽出パウダーを
日常生活で手軽に摂取できるサプリメントです。
外出が気になる春先や、様々な季節の変化に負けない体づくりを
サポートし毎日を快適に過ごすお手伝いをしてまいります。

サルナシ抽出エキス配合
ノースっとサルナシ

“ムズ”かしい季節に、“鼻歌”まじりの快適ライフ!

『ノースっとサルナシ』は、キウイフルーツのルーツ「サルナシ」の実から抽出したサルナシエキス配合のサプリメント。

花粉などへの過剰な反応は、体の免疫を働かせる細胞バランスが崩れることで起きるといわれています。

サルナシエキスは、アレルギーに負けない身体づくりをサポートします。

④ ネット銀行やネット保険などの新規事業の状況は？

(1) 住信SBIネット銀行

(2) SBI損保

(3) SBIアクサ生命

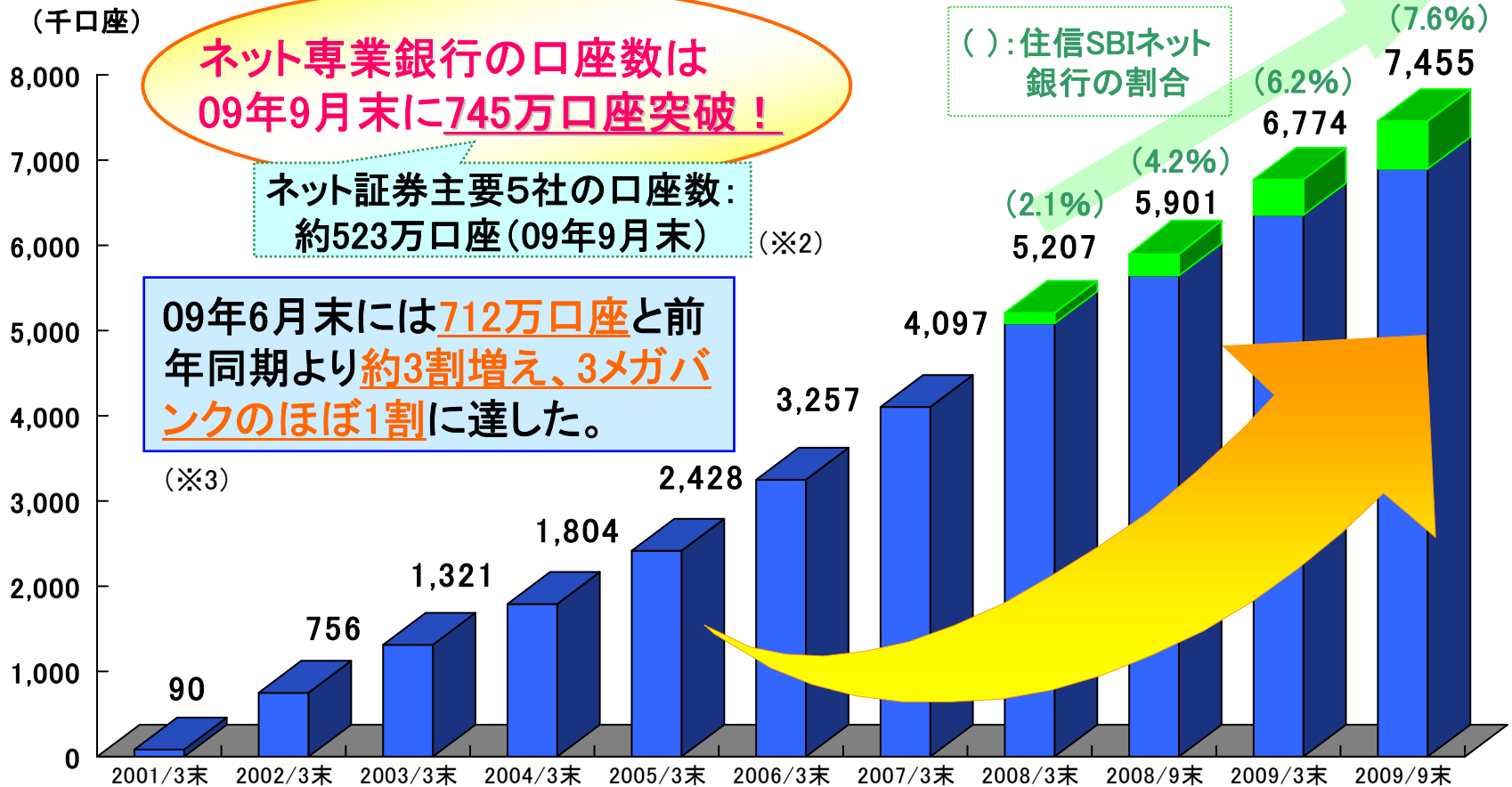
(4) SBIカード

(1) 住信SBIネット銀行

拡大するネット専門銀行の顧客基盤

インターネット専門銀行5行の口座数推移

(2001年3月末～2009年9月末) (※1)



(※1) 各行公表資料より当社にて集計。なお、インターネット専門銀行は住信SBIネット銀行、ジャパンネット銀行、ソニー銀行、イーバンク銀行、じぶん銀行。住信SBIネット銀行は07年9月開業。じぶん銀行は08年7月開業。

(※2) SBI証券、マネックス証券、楽天証券、松井証券、カブドットコム証券の5社

(※3) 2009年8月16日付 日経ヴェリタス

低金利・不況時代のネット銀行の活用

普通預金(100万円未満)の金利の違い

| | 大手都市銀行 3行平均 | 住信SBIネット | ソニー | イーバンク | ジャパンネット |
|-------|----------------|----------|------|-------|---------|
| 年利(%) | 0.04 ←→ 0.08 | 0.08 | 0.02 | 0.05 | 0.06 |

100万円を1年間預けた場合(定期預金)の利息

| | 大手都市銀行 3行平均 | 住信SBIネット | ソニー | イーバンク | ジャパンネット |
|-------|----------------|----------|-------|-------|---------|
| 利息(円) | 1,100 ←→ 4,630 | 4,630 | 4,300 | 4,400 | 4,400 |

(いずれも税引き前、2009年11月11日現在)

～マネー誌「あるじゃん」(2009年10月号)でのネット銀行サービス比較～

★ 毎月2回、他行宛に振込みした場合の1年間の手数料は？(1回3万円以上の場合)

⇒ **第1位 住信SBIネット銀行** (0円、月3回まで無料) 窓口では1件
 当たり840円
 掛かる銀行も。

★ 投資信託に挑戦したいけれど、取扱本数が多いのは？

⇒ **第1位 住信SBIネット銀行** (400本、2位はイーバンク銀行の296本)



順調に拡大する住信SBIネット銀行の顧客基盤



2009年10月末時点 ※確定値、()内は2009年11月23日時点

の速報値

口座数: 591,457口座 (606,047口座)

預金量: 8,454億円 (8,442億円)

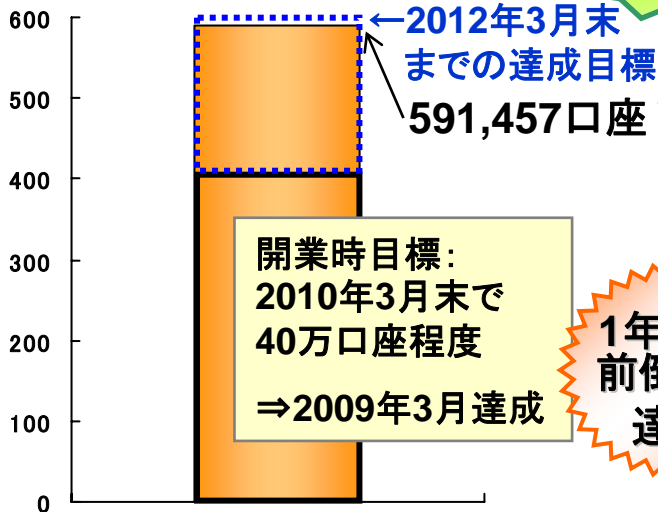
貸出金残高: 3,314億円 (3,387億円)

(住宅ローン+ネットローン)

<2009年10月末での目標達成状況>

口座数

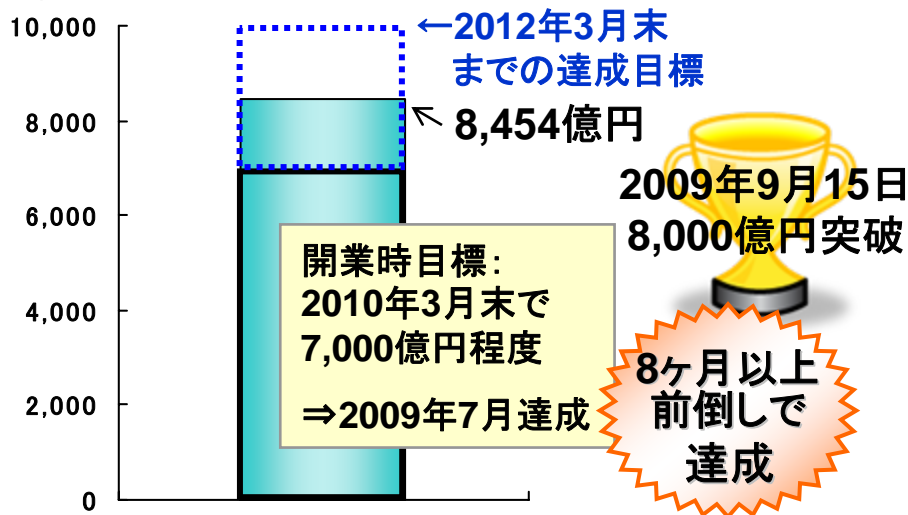
(千口座)



次なる目標: 2012年3月末で60万口座程度

預金量

(億円)



次なる目標: 2012年3月末で1兆円程度

預金残高は開業から723日で8,000億円を突破

競争力のある金利の設定、個人顧客に対する手数料無料でのATM入出金・振込取引の提供のほか、各種キャンペーンの展開により、2007年9月24日の開業から723日で預金残高が8,000億円を突破した。

各行が預金残高8,000億円突破に要した日数

| | 開業日 | 預金残高が 1,000億円を 超えた時期 (注1) | 開業からの 日数 | 預金残高が 8,000億円を 超えた時期 (注1) | 開業からの 日数 | 預金残高 (注2) |
|-------------------|------------------|------------------------------------|--------------|------------------------------------|--------------------------------|----------------|
| イーバンク銀行 | 2001/7/23 | 2003/10/1～ 2004/3/31 | 801～ 983日 | — | — | 6,866億円 |
| ジャパンネット銀行 | 2000/10/12 | 2002/10/1～ 2003/03/31 | 720～ 901日 | — | — | 4,357億円 |
| ソニー銀行 | 2001/6/11 | 2002/3/1～ 2002/03/31 | 264～ 294日 | 2007/7/1～ 2007/7/31 | <u>2,212～</u> <u>2,242日</u> | 13,410億円 |
| 住信SBIネット銀行 | 2007/9/24 | 2007/11/19 | 57日 | 2009/9/15 | <u>723日</u> | 8,454億円 |

- ・2008年8月に4,000億円突破！⇒ 2008年9月末(開業から1年)にはジャパンネット銀行を抜く
- ・2009年7月に7,000億円突破！⇒ 2009年7月末(開業から2年足らず)にはイーバンク銀行を抜く

(注1) 各行公表資料より、預金残高がそれぞれの金額を超えたことが判明した時期

(注2) イーバンク銀行・ソニー銀行・住信SBIネット銀行は2009年10月末の残高、ジャパンネット銀行は2009年9月末の残高

着実に積み上がる住宅ローン実行累計額

～住宅ローン取扱い開始から**719日**で、同実行累計額**3,000億円突破**～
 (2009年9月11日)

(ジャパンネット銀行、イー・バンク銀行は住宅ローン取扱なし)

| | 住信SBIネット銀行 (注1) | ソニー銀行 |
|---------------------|--------------------|------------------------|
| 開業日 | 2007年9月 | 2001年6月 |
| 住宅ローン取扱い開始 | 同上 | 2002年3月 |
| 3,000億円突破に 要した日数 | 719日 | 1931～2023日 (注2) |

インターネット専業銀行としては最速での到達！

銀行開業日からの達成ペース：

2,500億円達成：639日 (約25.56日間で100億円増加のペース)

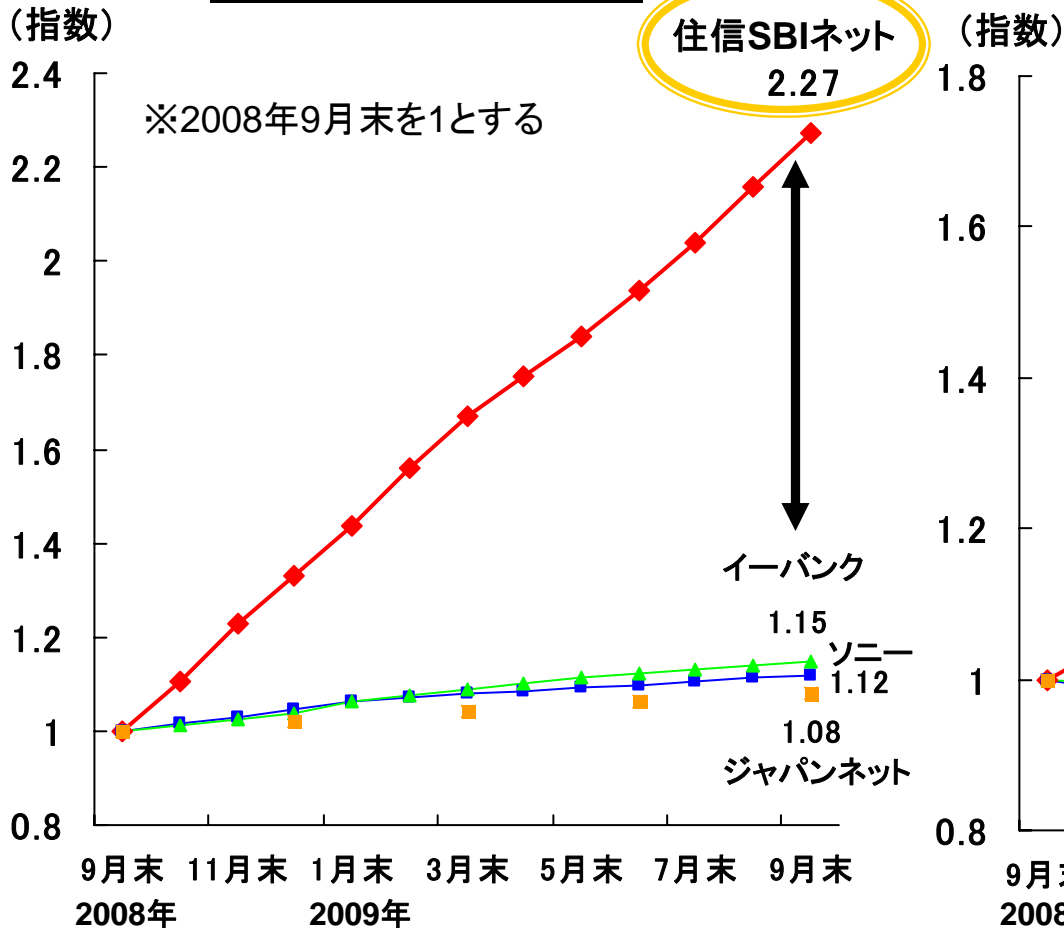
3,000億円達成：719日 (約23.96日間で100億円増加のペース)

(注1)ソニー銀行は約定返済分を反映した実行残高、住信SBIネット銀行は実行金額ベース

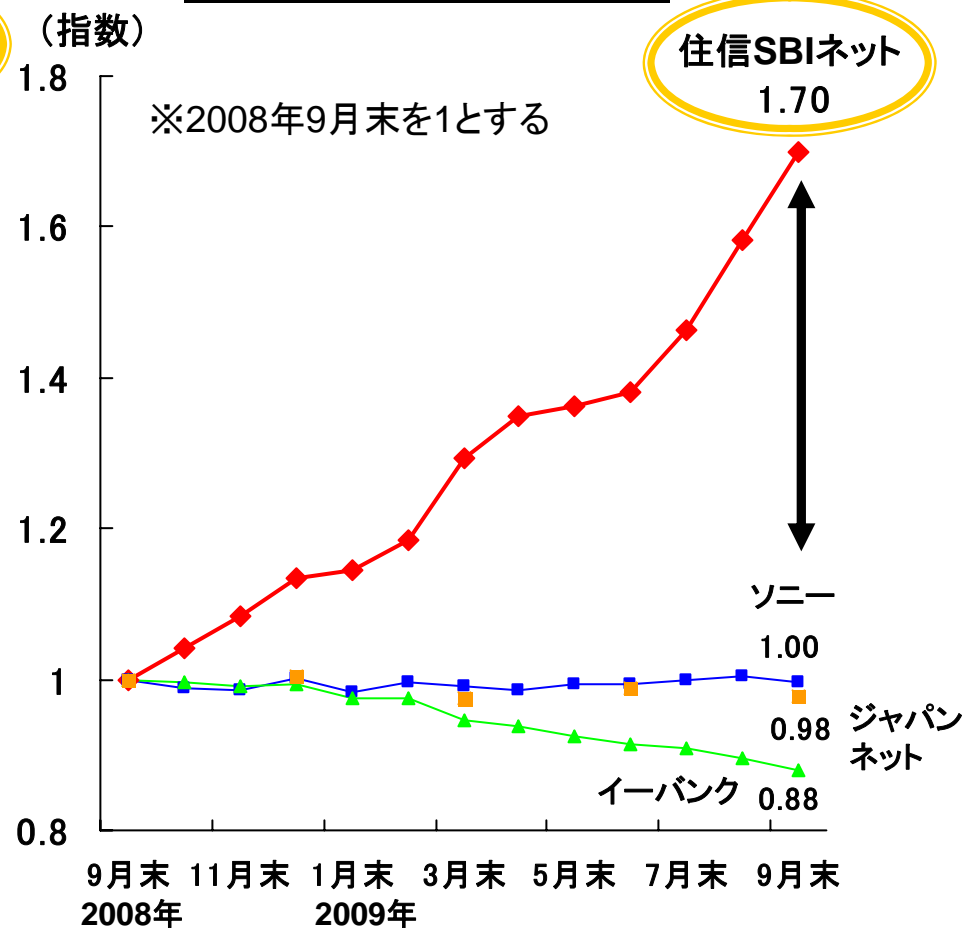
(注2)四半期毎の公表資料より当社にて集計、2007年9月末時点で311,492百万円。

インターネット専業4行の顧客基盤拡大の推移 (直近1年間)

口座数(指数)の推移



預金残高(指数)の推移



住信SBIネット銀行は口座数・預金残高ともに1年前の約2倍に拡大

2010年3月期第2四半期も3四半期連続で 四半期ベースの黒字達成

【経常損失・利益の推移】(単位:億円)

2009年3月期

2010年3月期

| 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q |
|--------------|--------------|-------------|--------------|--------------|--------------|
| 経常損失 17.8 | 経常損失 12.9 | 経常損失 7.5 | 経常利益 1.35 | 経常利益 8.56 | 経常利益 4.38 |

5億円
の改善

5.3億円
の改善

2009年1月に初の単月黒字化を達成。四半期ベースでも初の黒字化(当期利益:1.35億円)を達成!



上期:
13.0億円

2009年3月期 通期
 経常損失: 3,687百万円
 当期純損失: 3,699百万円
 当社営業外損失(持分法による投資損失)として1,849百万円計上

競争が激化するインターネット専門銀行の中で 住信SBIネット銀行は事業を拡大

<直近の業績比較>

※単位:億円、()内は単体の数値

| 当期純利益 | 2010年3月期 | |
|-------------|---------------------|----------------------|
| | 1Q | 2Q |
| | 2009年4月～6月 | 2009年4月～9月 |
| 住信SBIネット銀行 | <u>8.5</u> | <u>12.9</u> |
| ソニー銀行(連結) | 1.7 (2.8) | 8.8 (11.1) |
| イーバンク銀行(連結) | 2.0 (非公表) | 0.8 (1.3) |
| ジャパネット銀行 | 5.5 | 12.6 |

出所:各行公表資料より、四捨五入した数値となります。

預金量増加とともに成功の鍵を握る資金運用

イーバンク銀行はサブプライム関連のリスクの高い証券化商品に投資をし、08年3月期には約112億円、09年3月期には約65億円の損失を計上。

住信SBIネット銀行はグループシナジーを追求することで資金運用の多様化を図る。

預金残高: 8,454億円

(2009年10月末時点、※確定値)

- ・**住宅ローン**: 住宅ローン実行累計額3,000億円突破(2009年9月11日)
- ・**オートローン**: オートローンの実行累計額: 16.7億円(※)⇒更なる拡大を目指す
【2009年7月~】オートローン商品「SBIオートローン」への資金提供も開始
- ・**不動産担保ローン**、**個人向け無担保ローン**、診療報酬債権ファクタリング(レセプトファイナンス)など運用先を拡大中。

<今後の可能性>

(※)2009年11月17日時点

- ・金利スワップ、CP引受、安全かつ利回りの良い証券化商品の組成、など証券分野と融合した業務・運用の多様化
- ・SBIグループの運用機能の活用

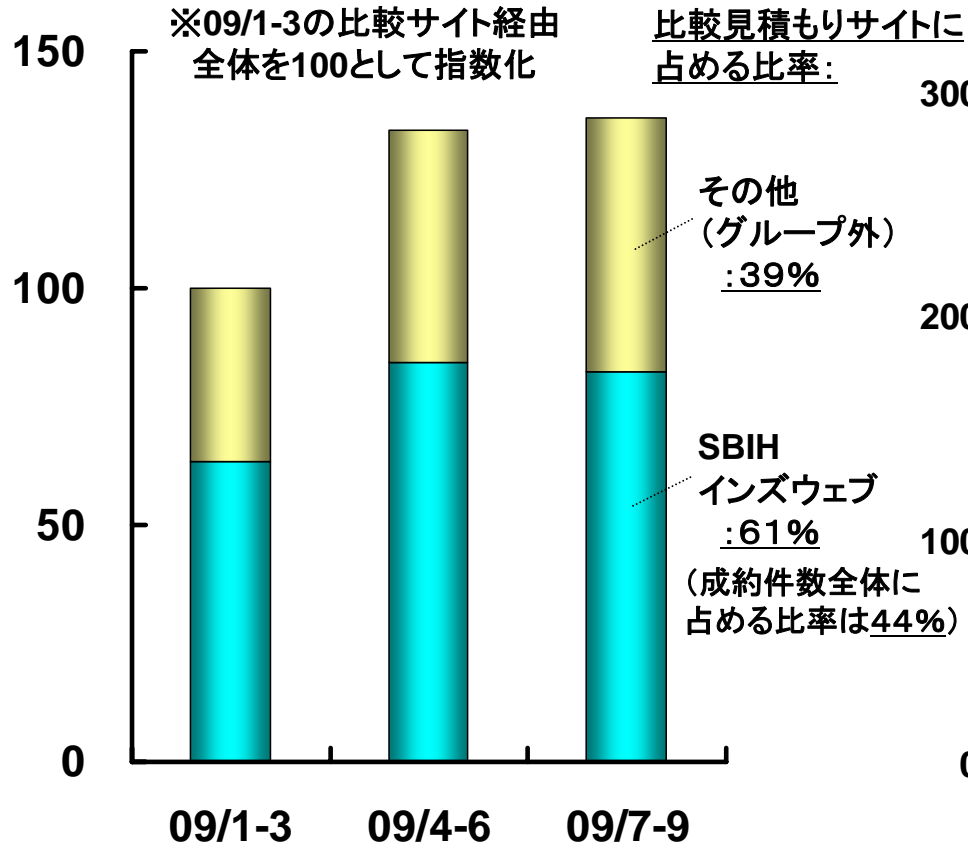
(2) SBI損保

販売チャネル拡大を背景に成約件数が順調に増加

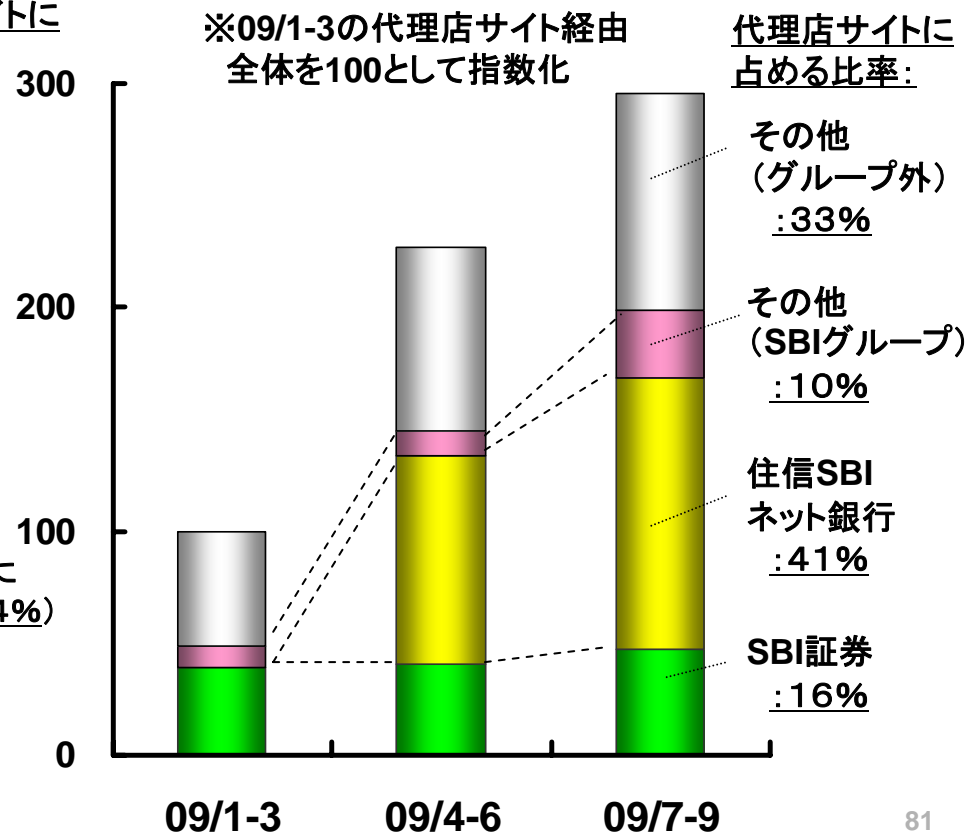
4月より住信SBIネット銀行、7月よりゲオ店舗(一部)、9月よりSBIアクサ生命にて取扱いを開始。10月よりガリバー顧客への紹介も開始する等チャネルを拡充、件数増加を図る

チャネル別のSBI損保の成約件数 四半期比較

比較見積もりサイト



代理店サイト



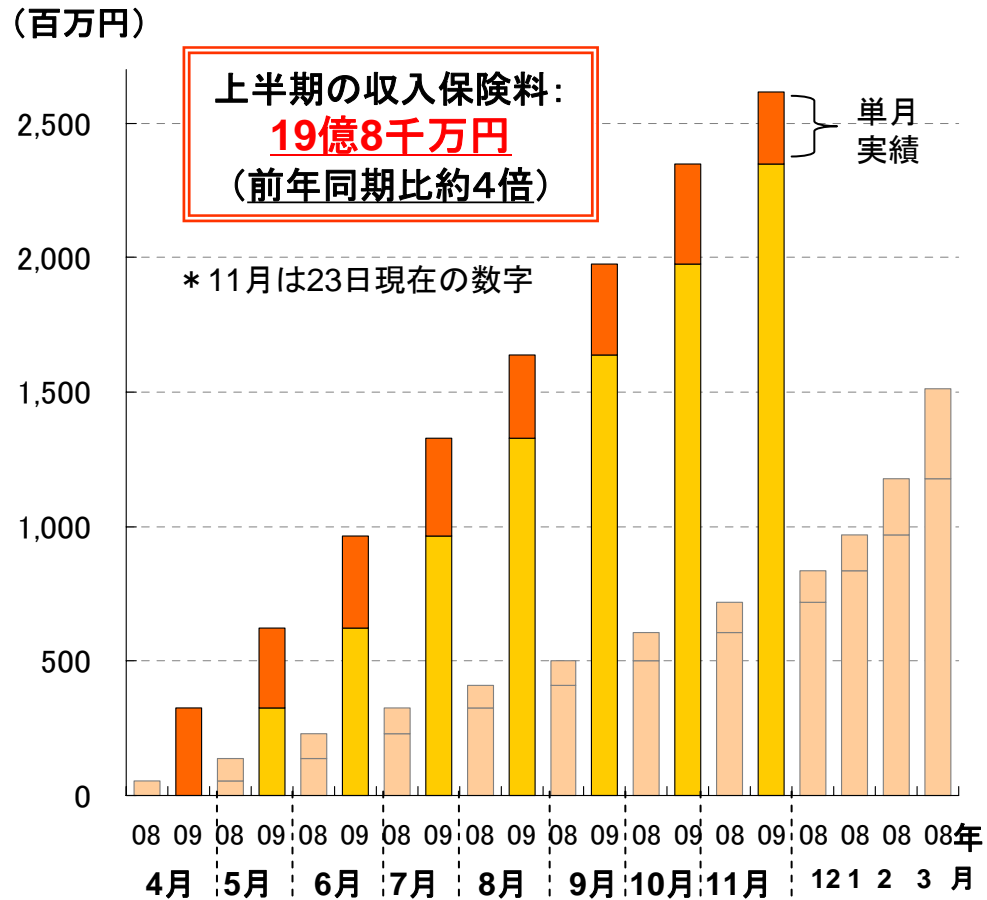
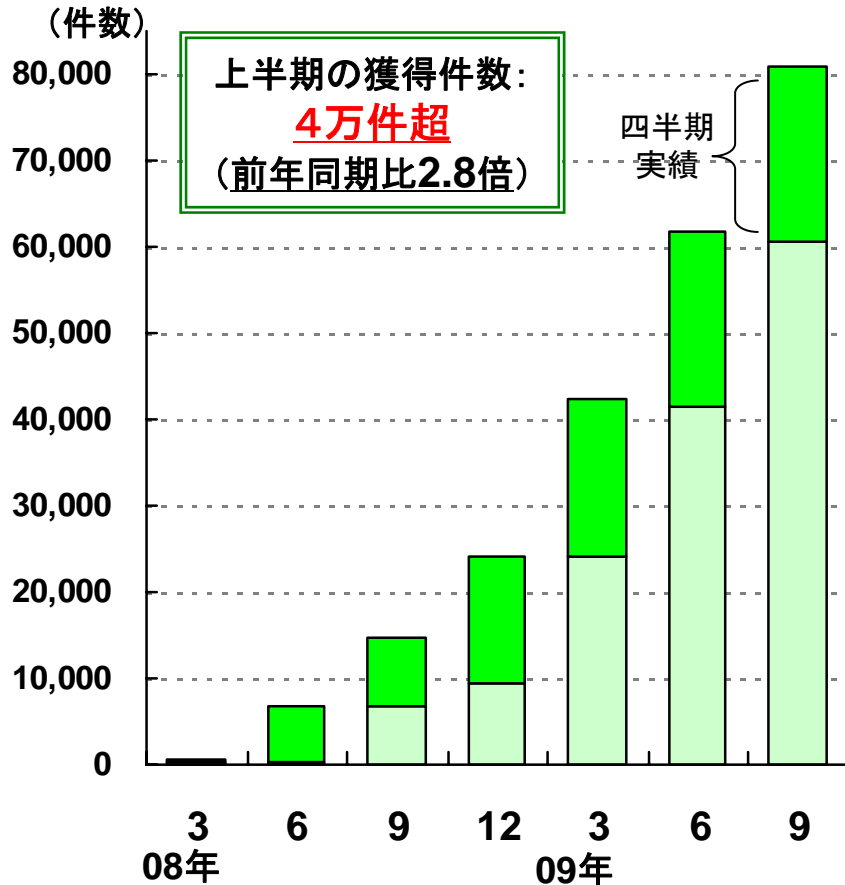
今年度末の成約件数目標15万件に向けた進捗状況

自動車保険 契約数(計上ベース※)・累計

元受収入保険料(計上ベース※)・年間累計

開業来累計成約件数:9万3千件超
(2009年11月23日現在)

2010年3月期(09年4~11月*)の
収入保険料は、26億1千万円に



※計上=保険料の入金完了

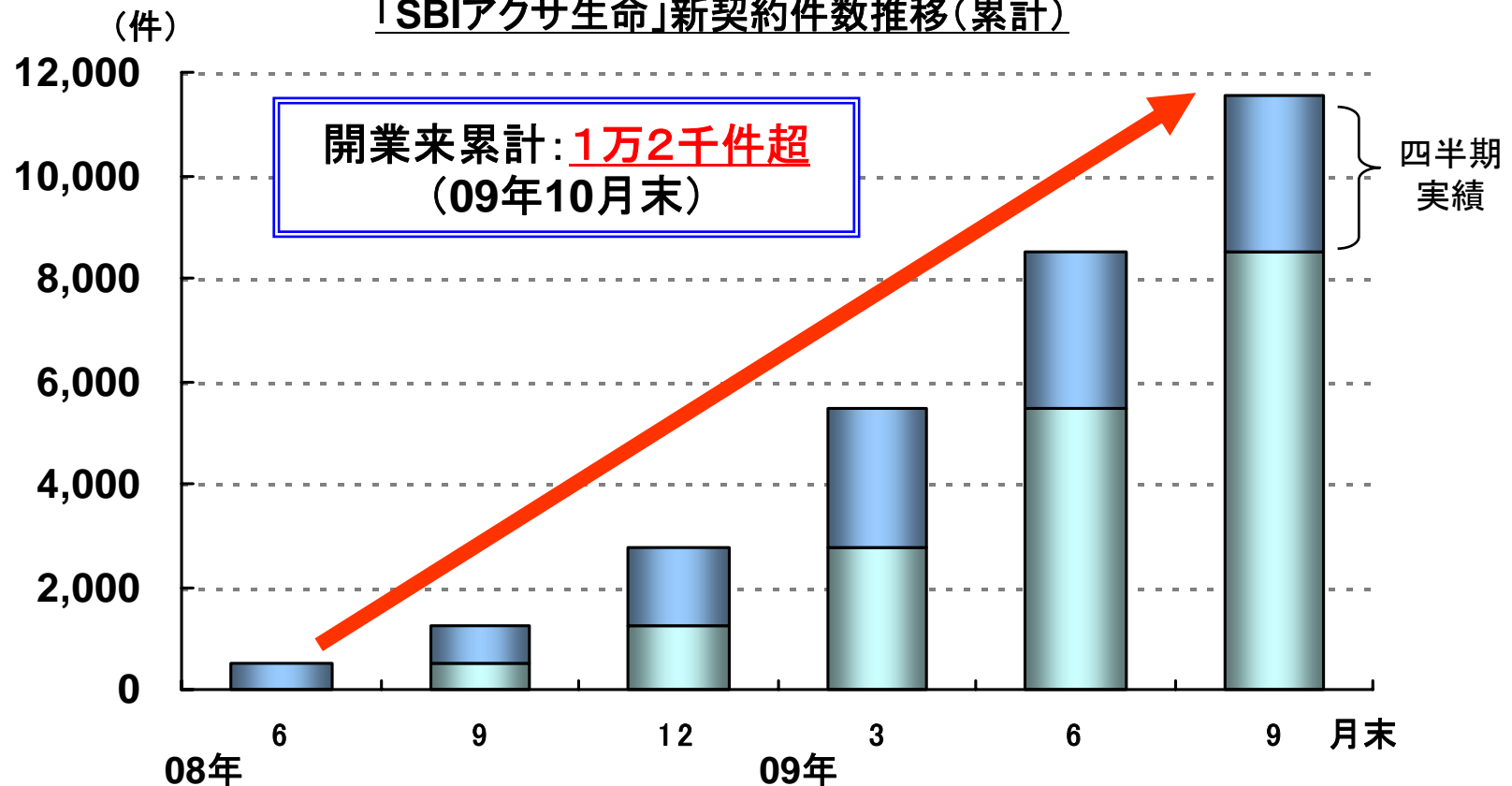
(3) SBIアクサ生命

10月の新契約件数は1,100件超に

前年度上半期(08年4-9月)の月間平均約210件から大きく伸長

既存ダイレクト生保のチューリッヒ生命(月間平均666件)、損保ジャパンDIY生命(同431件)を大きく上回る水準で推移(※)

「SBIアクサ生命」新契約件数推移(累計)



SBIアクサ生命が「総合力で最安値」と評価

週刊エコノミスト増刊号「エコノミストマネー」の『保険を徹底比較！』の中で、SBIアクサ生命の「カチッと定期」が**6社の定期保険中「総合力で最安値」と紹介。**

「2,000万円以上なら若年層でも保険料は最安に」

【インターネットで詳細な情報が得られる代表的な「定期保険」6商品の比較】

| 会社名 | | SBIアクサ生命 「カチッと定期」 (※) | ライフネット 生命 | オリックス 生命 | アフラック | アリコ ジャパン | CO-OP 共済連 |
|----------------------------------|-----|-----------------------------|--------------|-------------|-------|-------------|--------------|
| 病気死亡時の 保険金額 1000万円の 保険料 | 30歳 | 1,530 | 1,328 | 1,840 | 2,380 | 3,370 | 1,700 |
| | 35歳 | 1,940 | 1,764 | 2,250 | 2,810 | 3,810 | 2,200 |
| | 40歳 | 2,690 | 2,580 | 2,980 | 3,600 | 4,640 | 3,100 |
| | 45歳 | 3,870 | 3,923 | 4,220 | 4,910 | 5,980 | 4,600 |
| | 50歳 | 5,620 | 5,898 | 5,960 | 6,690 | 7,790 | 6,900 |
| | 55歳 | 8,200 | 8,722 | 8,400 | 9,210 | 10,370 | 10,000 |

(※)2000万円以上は高額割引あり

(4) SBIカード

SBIカードの今後の展開について

「SBIカードVISA」発行により、グループ各社の新規顧客開拓や取引数の拡大などのシナジー創出を目指す

09年11月18日現在のカード発行枚数:6万件超

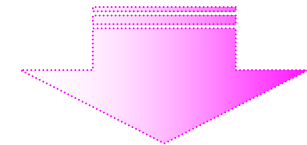
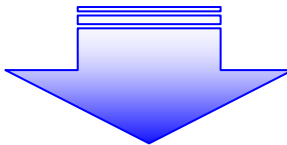
SBIカードVISA
スケジュール:

- ・2009年2月、VISAカードのライセンス取得
- ・2010年6月を目処に、VISAカード発行を開始予定



【SBIカードの特長】

- ・ポイントは、業界トップクラスの最大1.2%のキャッシュバック還元率
- ・11月より開始したポイントモールの利用でさらにボーナスポイントを付与





SBIグループの顧客基盤

提携によるチャネル拡大

SBI証券

住信SBIネット銀行


SBI損保



・・・etc.





⑤ ゲオやガリバーと提携していましたが、
その狙いは？

異業種提携によるチャネルの飛躍的拡大

ネットのみではリーチできなかった顧客層へ効率的にアプローチ

SBI GROUP 【新規事業群】



SBIグループの既存チャネルの例

提携により拡大されたチャネル

SBI証券
(23支店・75拠点)
197万口座

住信SBIネット銀行
60万口座

DVDレンタル大手

・稼働会員: **1,000万超**
・全国964店舗 (FC含む)

中古車売買大手

・年間約25万台の買取
・年間約4万台の小売
・全国417店舗 (FC含む)

中古車オークション会場運営大手

・会員数: 約15,000社
・年間: 約70万台出品



DVDレンタル・ゲーム販売大手のゲオと提携

(2009年8月28日発表)



51%



49%



【SBIグループ】

- ・ネット金融ノウハウ
- ・各種金融商品(保険、銀行、証券、カードetc.)

新合併会社(11月末設立)

- ・当初資本金 : 5,000万円
- ・ゲオグループの会員向けにSBIグループの金融商品・サービスを提供

- ・全国964店舗
(FC含む、09年9月末)
- ・稼働会員 : 1,000万人超

【SBI損保】

- ・09年7月～、ゲオ店舗(当初350店舗)にてSBI損保の自動車保険の紹介と見積り申込受付を開始

【SBIカード】

- ・2010年6月を発行目標に、ゲオグループの会員向け提携カードの発行を準備中

【SBIマネープラザ(各種金融商品)】

- ・ゲオ店舗内にSBIマネープラザを併設。1号店オープンに向け、現在準備中

【SBIベリトランス・住信SBIネット銀行】

- ・ゲオグループのウェブチャネル向けに、決済機能提供を検討中

中古車売買大手のガリバーインターナショナルと提携

(2009年10月7日発表)



【SBIグループの各種金融商品】

- ・自動車保険
- ・オートローン
- ・クレジットカード
- ・リース、etc.

- ・全国417店舗
(直営店+加盟店、09年8月末時点)
- ・年間約25万台の買い取り
- ・年間約4万台の小売

【SBI損保】

- ・09年10月～、ガリバーの車購入顧客に、SBI損保の自動車保険の紹介を開始
- ・09年11月27日～(予定)、中古車売却顧客に、これまでの車の情報に基づき見積りを提示

⇒ 現在払っている自動車保険料との比較が可能に

【住信SBIネット銀行】

- ・ガリバーグループの顧客向けにオートローンの提供を検討中

【SBIカード】

- ・ガリバーグループの顧客向け提携カードの発行を検討中

中古車オークション会場運営大手のJAAと共同設立した SBIオートサポートの中古車販売業者登録数は順調に増加



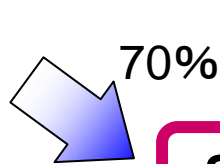
【自動車関連金融商品】

・自動車保険:

SBI損保

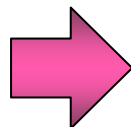
・オートローン:

住信SBIネット銀行

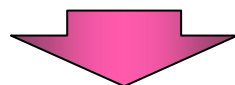


SBIオートサポート(株)

・中古車販売業者を通じた購入者への金融サービス提供を支援

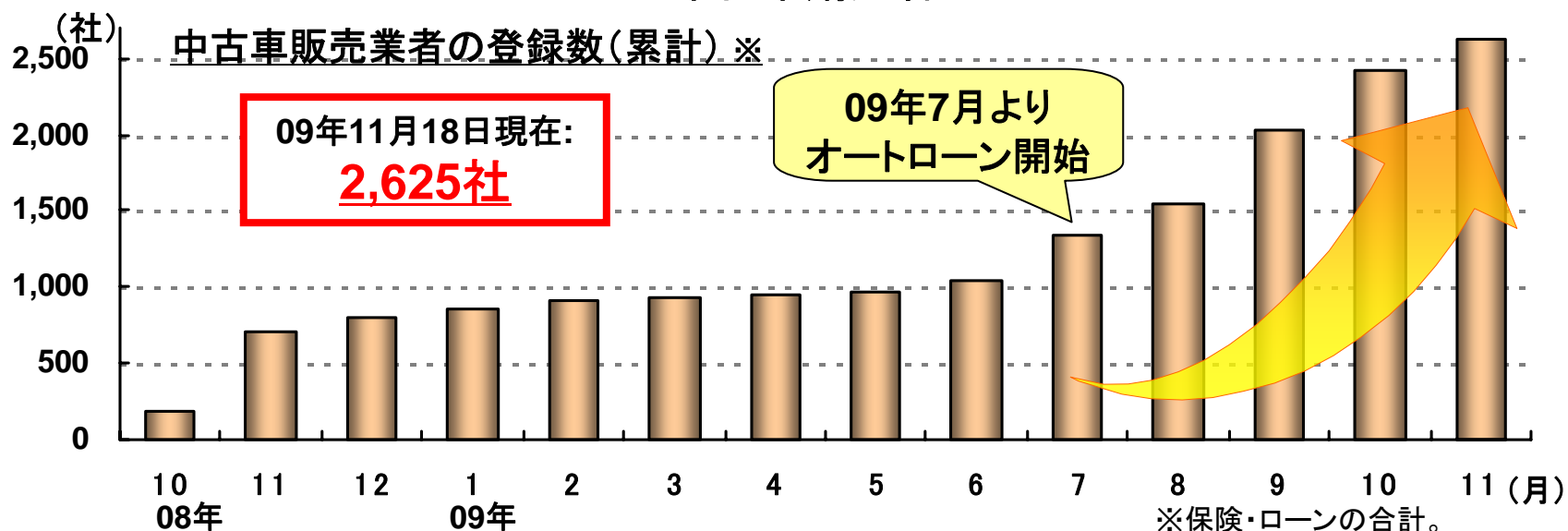


中古車販売業者



中古車購入者

- ・オークション会場運営ノウハウ (国内3ヶ所運営)
- ・会員数: 約15,000社
- ・年間総出品台数: 約70万台



⑥ “SBIマネープラザ構想”の進捗は？

～日本最大の金融商品ディストリビューターを目指して～

SBIマネープラザとは？

SBIグループ内外の低コストな金融商品・サービスを、
対面でワンストップで提供

SBIマネープラザで提供する主なサービス(※)

住宅ローン

・SBIモーゲージ「フラット35」：
業界最低水準金利の2.69%
(35年固定・11月融資実行*)

・長期固定の借換専用
「マイホームローン」

生命保険

「医療保険」「死亡保険」等

「SBIアクサ生命」ほか
約10社の金融機関と提携

1か所で完結！



資産運用(証券仲介)

「SBI証券」の取次等

クレジットカード

「SBIカード」申込取次等

自動車保険

「SBI損保」無料見積り

無料引越し見積り

「サカイ引越センター」
(引越し金額ディスカウント)

今後...

「401K」(近日取扱い開始)など、お客様のニーズに最適な様々な金融商品を、順次拡充予定

(※)店舗により取扱う商品が異なります

*借入金額3,000万円、元利均等返済、ボーナス返済無、繰上返済無、事務手数料率2.1%、団信別の場合

日本最大の金融商品ディストリビューターを目指して①

SBIグループが低コストな金融商品を提供する一方、
グループ外の商品も含めて、「中立的な立場」からお客様に最も適した商品を紹介

例：国内最大級の「保険マーケットプレイス」
インズウェブ



多彩な保険商品の一括資料請求・
一括見積もりサービスを提供

自動車保険

参加損害保険会社等：23社

自動車保険見積もり数：

年間75万件超 (08年度)

生命保険

参加生命保険会社等：20社

火災保険

バイク保険

ドライバー保険

個人年金

学資保険

海外旅行保険

ゴルフ保険

レジャー保険

ペット保険

SBI損保

SBI アクサ生命

その他損害保険会社

その他生命保険会社

その他金融機関等

日本最大の金融商品ディストリビューターを目指して②

低コストで魅力的な金融商品を
「ネット」と「リアル」両面の販売チャネルを通じて幅広く提供

「ネット」チャネルの例

SBI証券

業界最安値水準
の証券手数料、
FX取引

住信SBIネット銀行

SBI Sumishin Net Bank

好金利の預金

SBI損保

業界最安値水準
の自動車保険料

SBI アクサ生命

業界最安値水準
の生命保険料

SBI Card

業界最高水準ポ
イント還元率カード

SBI Mortgage

業界最低水準金
利の長期固定住
宅ローン

「リアル」店舗の例

SBI マネープラザ 38店舗(*)

住宅ローン | 生命保険 | 資産運用

「SBI住宅ローンショップ」 43店舗

「SBI証券」支店 23店舗

全国に店舗展開を行う企業との
提携によるリアルチャネル



全国964店舗
(FC含む)



全国417店舗
(FC含む)

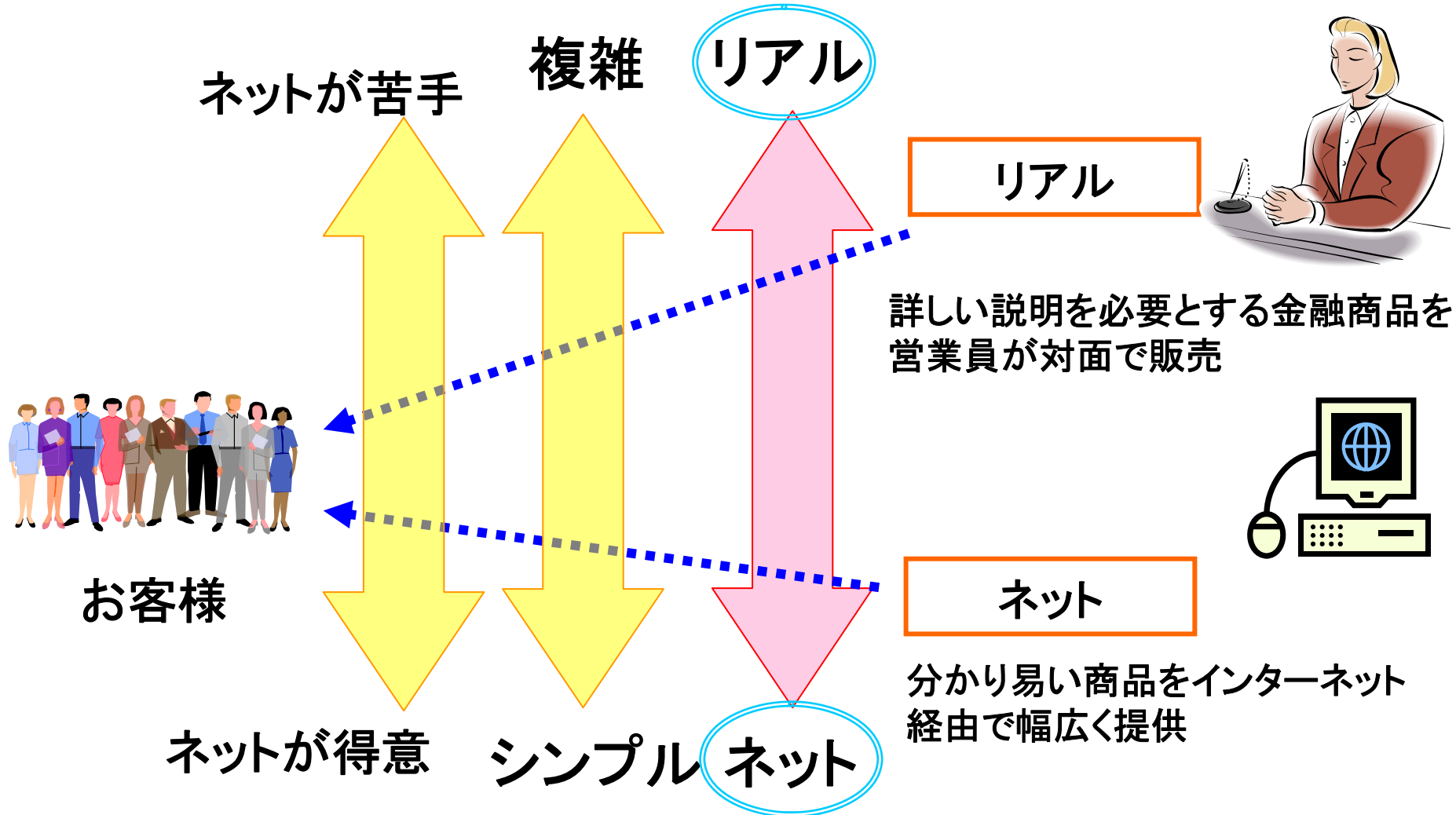
お客様



(*) 2009年11月末までに开店予定の店舗を含む。

真の顧客中心主義実現にはリアルチャネルも必要

複雑かつ高額な金融商品ほどリアル(対面)での説明を
求める顧客も存在する



「SBI住宅ローン／SBIマネープラザ」 インフォメーションミーティング開催各地での展開状況

「SBI住宅ローンショップ」43店舗

「SBI証券」支店: 23店舗



新設・改装



SBI マネープラザ

住宅ローン | 生命保険 | 資産運用

全国38店舗(*)

今年度中に100店舗を目指す

近畿地域: 4店舗

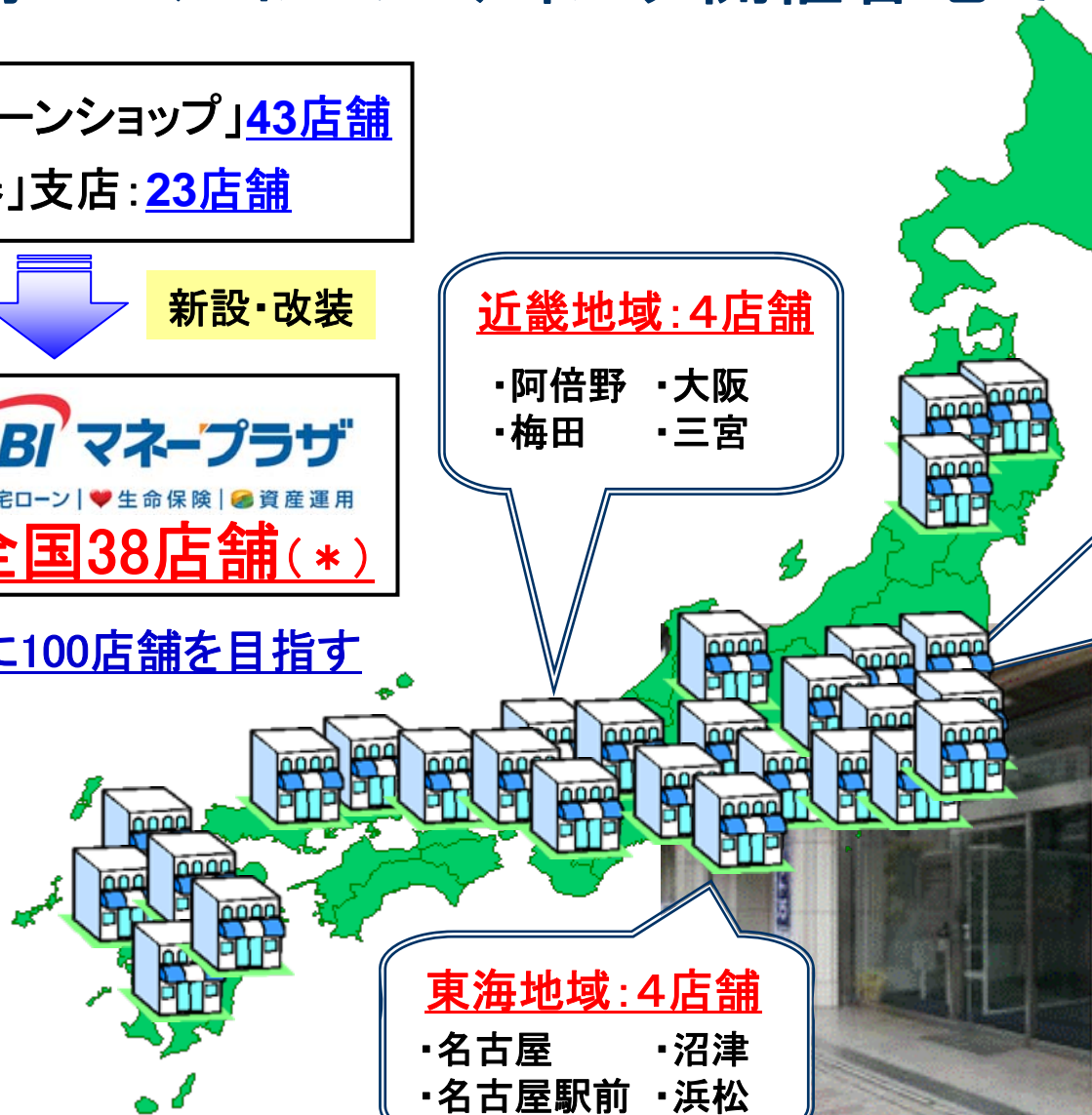
- ・阿倍野
- ・大阪
- ・梅田
- ・三宮

東京近郊: 13店舗

- ・秋葉原
- ・大宮
- ・池袋
- ・川口
- ・銀座
- ・熊谷
- ・自由が丘
- ・柏
- ・新宿
- ・船橋
- ・立川
- ・川崎
- ・町田

東海地域: 4店舗

- ・名古屋
- ・沼津
- ・名古屋駅前
- ・浜松



⑦ SBIグループの目指す方向性は？

インターネット時代においては、企業生態系の構築が最も有効かつ強力な「仕組みの差別化」であり、圧倒的な競争優位性を実現するためには必要不可欠



一企業

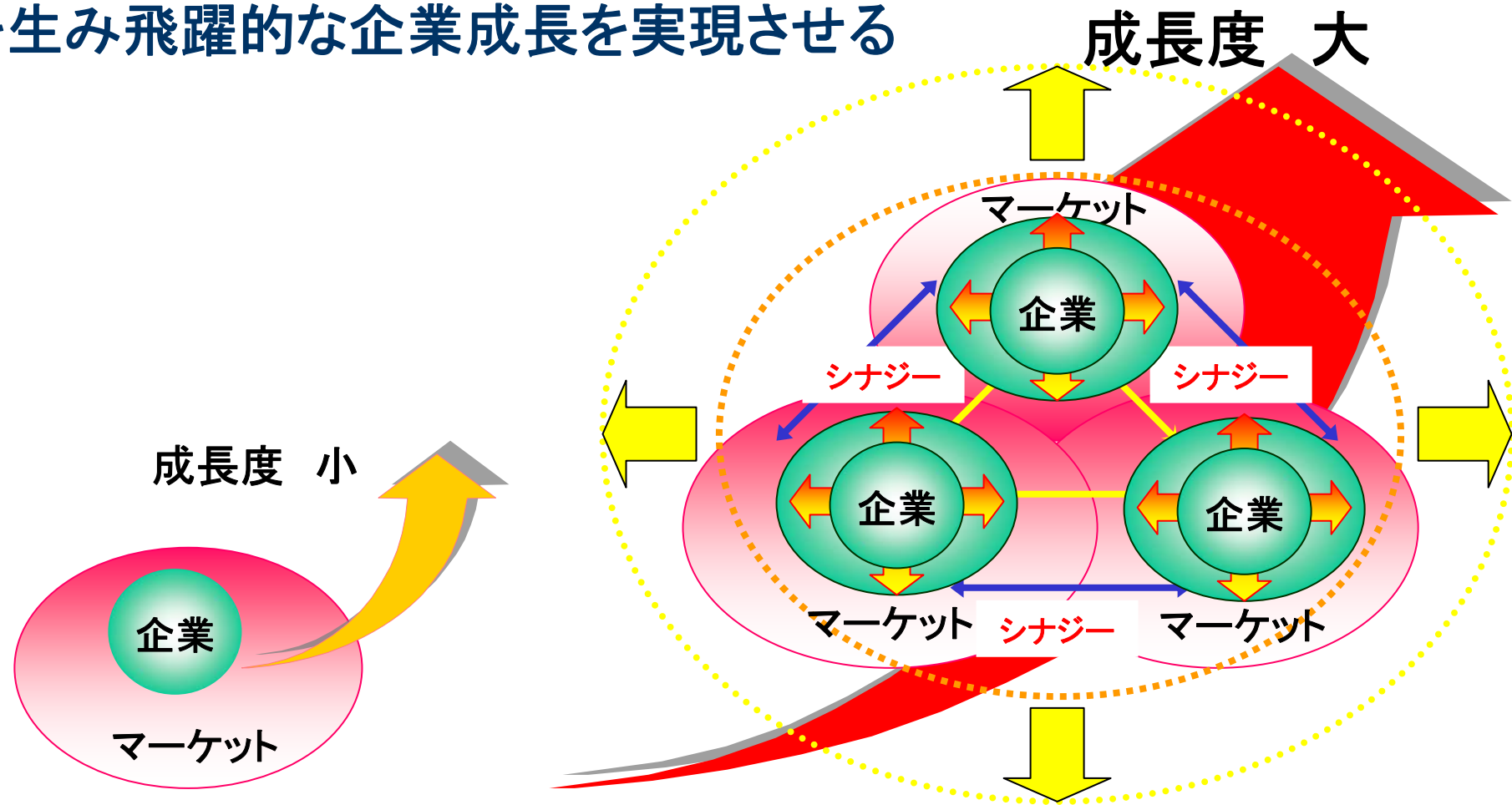
VS



企業生態系

一企業だけでは勝つことはできない!!

企業生態系の形成・発展が構成企業相互の
ポジティブなシナジー効果を促進するとともに、
それぞれのマーケットとの相互進化のプロセス
を生み飛躍的な企業成長を実現させる

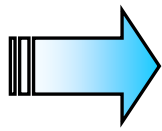


単一の経済主体として
捉えた企業

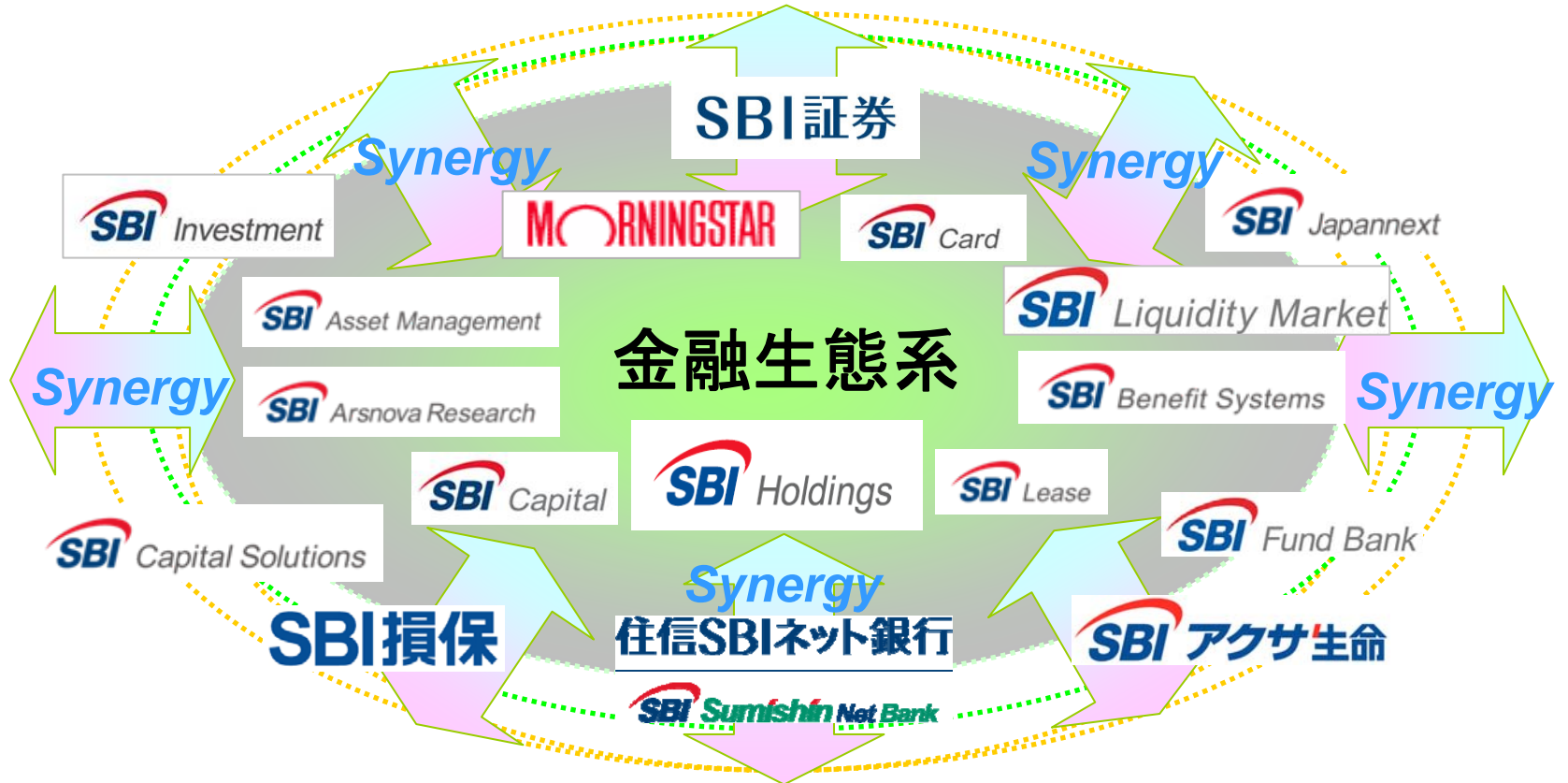
多彩な構成員と結びつき
相互進化がなされる「企業生態系」

SBIグループ＝「(ネット)金融コングロマリット」

SBIグループ設立以降、金融事業分野で有力パートナーとの
ジョイントベンチャーを含む多様な事業会社を設立し金融生態系を拡大



ワンストップ・サービスを実現する、世界でも極めてユニークな、ネット金融を中心とした金融コングロマリットとなる

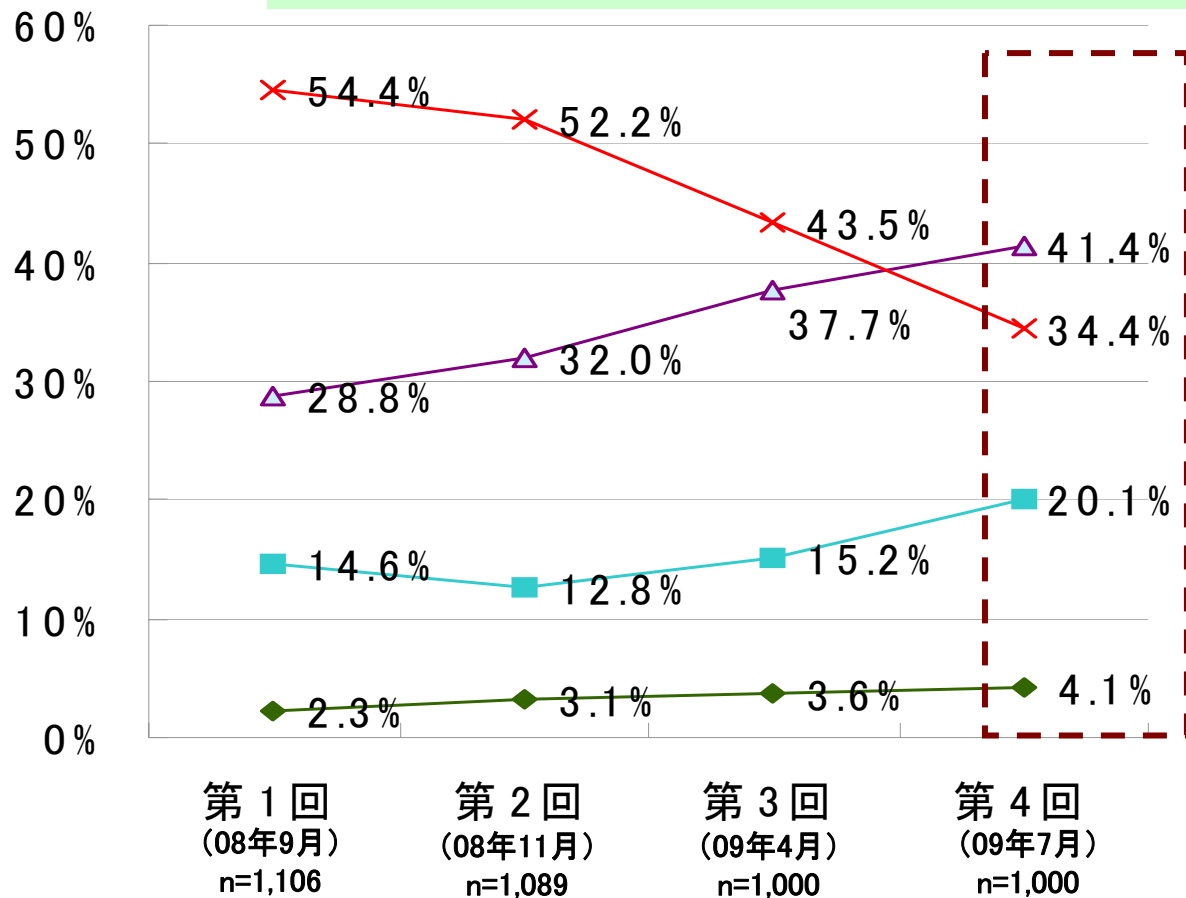


グループ拡大及びPR強化による認知度の高まり

Q. あなたは「SBIグループ」をご存知ですか？

45.7% → 47.9% → 56.5% → 65.6%
 (+2.2ポイント) (+8.6ポイント) (+9.1ポイント)

※SBIグループに対する認知は高まっている
 (下記回答①+②+③)



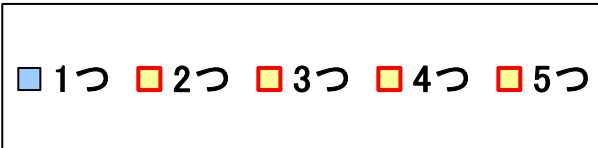
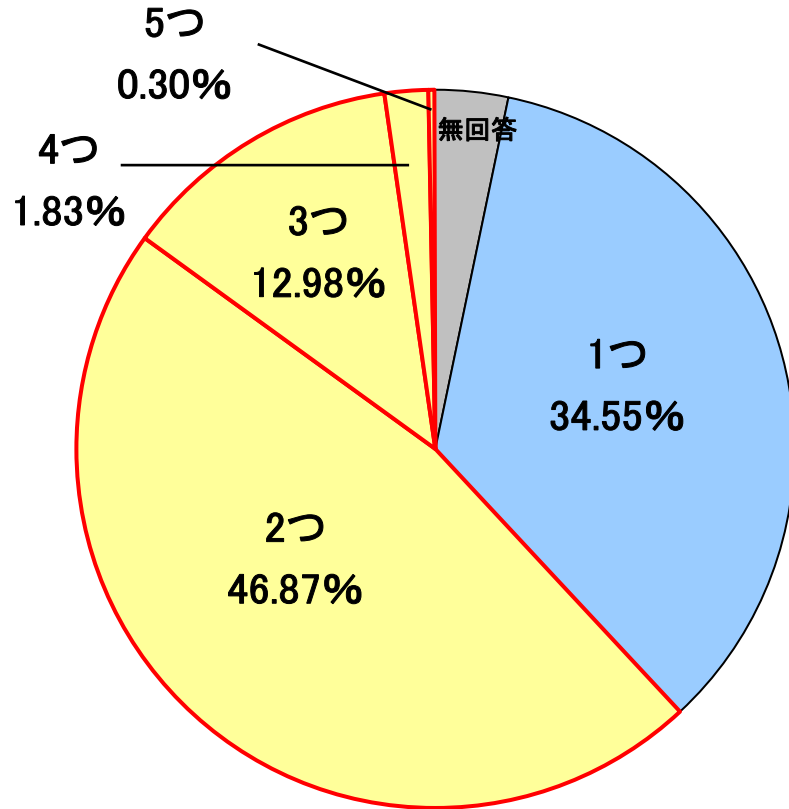
- ③ 名前を聞いたことがある
- ④ 聞いたことがない
- ② だいたい知っている
- ① 詳しく知っている

調査方法: gooリサーチを利用したWebアンケート調査

調査実施期間: 第1回(08年9月9日~9月11日)、第2回(08年11月26日~11月28日)、第3回(09年04月13日~04月16日)、第4回(09年7月1日~7月3日)

グループ内各社サービスの複数利用状況

調査対象企業・・・5社（SBI証券、住信SBIネット銀行、SBI損保、SBIアクサ生命、SBIカード）



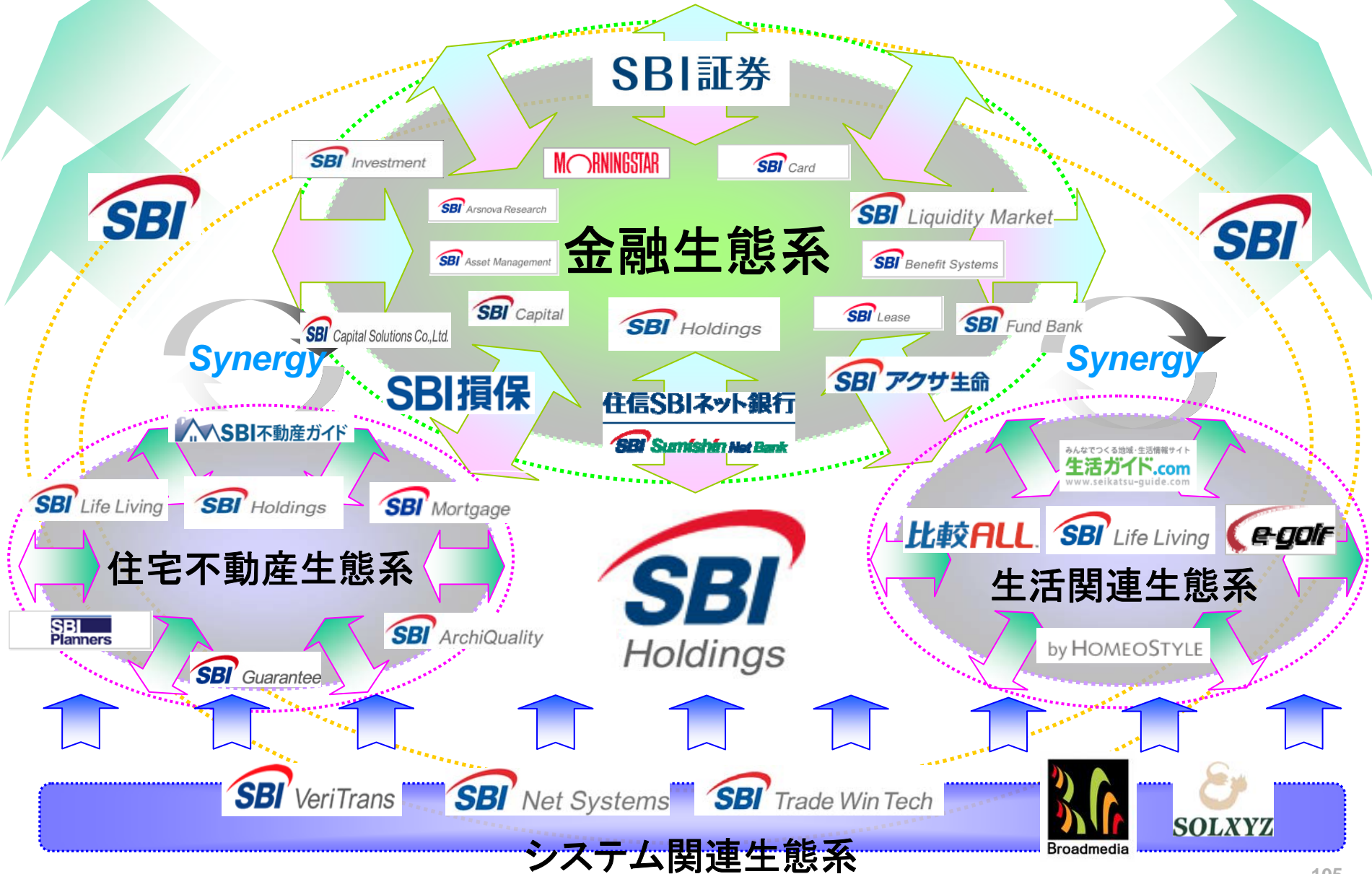
2つ以上のクロスユース(複数利用)が全体の6割を占める



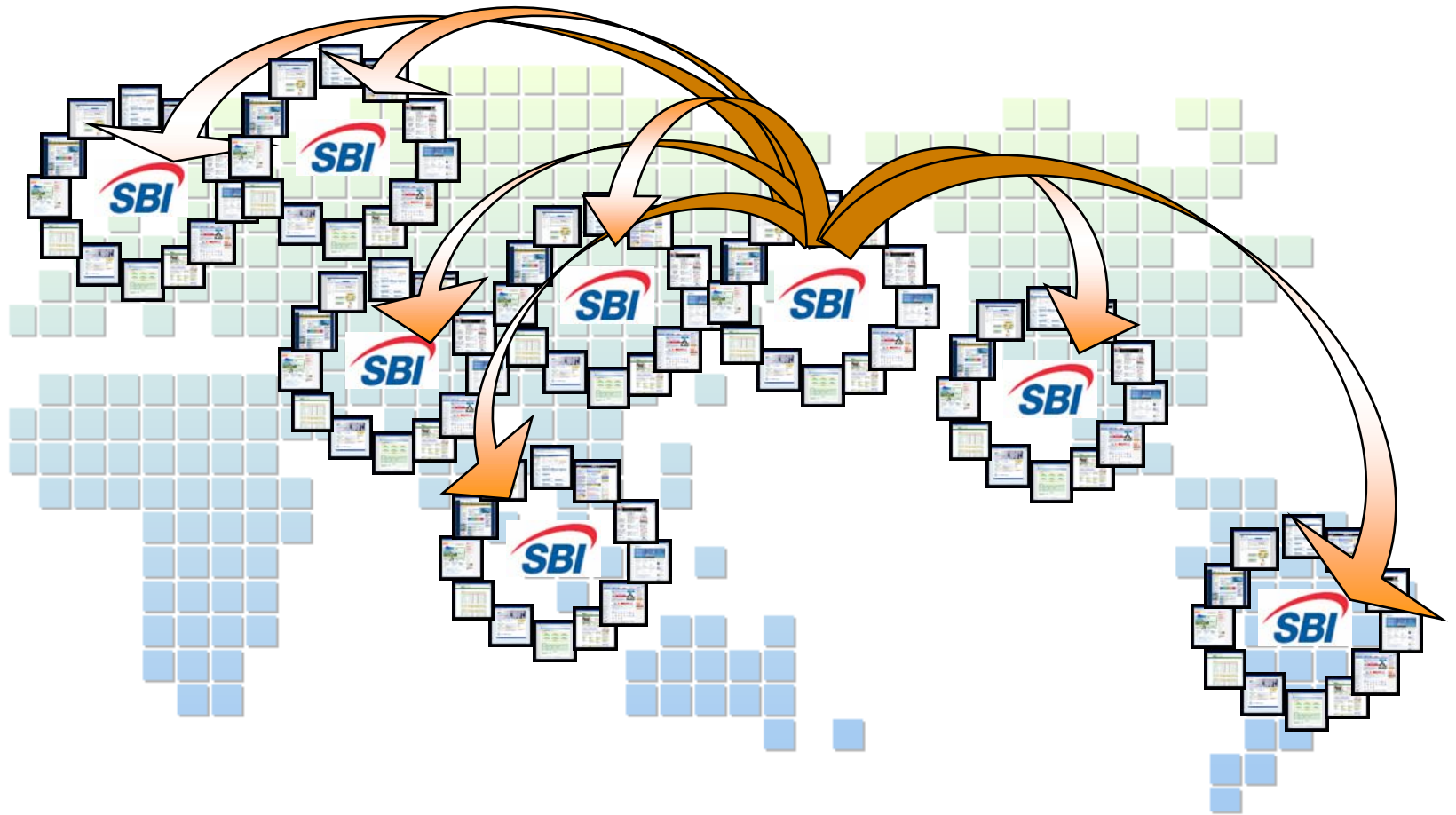
銀行と証券の組み合わせが圧倒的に多い

- ◆調査対象：SBIグループの既存顧客
(SBI証券、住信SBIネット銀行、SBI損保、SBIアクサ生命、SBIカード)
- ◆実施時期：2009年9月
- ◆総回答数：3,536名
- ◆方法：インターネット上でのアンケート調査 (※)

次の発展段階として、住宅不動産、システム関連、生活関連の非金融分野における生態系を拡大



JVファンド設立を通して構築した パートナーシップ等を活用し、アジアをはじめとする新興国に 向けてSBIグループのインターネット金融生態系を移出



⑧ 将来の収益目標はどうなっていますか？

SBIグループのビジョン (2008年4月策定)

- 5年後の2013年3月期は、1,000億円の営業利益を目標とする

その後も継続的に年率15%超の営業利益の成長を目指す。

- 2013年3月期の営業利益の構成は、アセットマネジメント事業
ならびにブローカレッジ&インベストメントバンキング事業で3分
の2、その他の事業で3分の1を目標とする

住宅不動産生態系、生活関連生態系ならびにシステム関連生態系を更に増殖させ、ファイナンシャル・サービス事業を含めた、証券市場の変動による影響が小さい事業分野を拡大し、収益の更なる安定化を目指す。

- 2013年3月期までに、営業利益の2分の1を海外で獲得するグ
ローバル企業への転換を目指す

海外における収益基盤を拡大し、日本のSBIから世界のSBIへ。

証券:

不況時にシェアを伸ばすことが 好況時の大幅な利益拡大をもたらす

中核会社であるSBI証券の営業利益は、株式市場の低迷を受け減少しているが、口座数・個人株式委託売買代金シェアは逆に上昇

2006年3月期
通期

2009年3月期
通期

SBIグループ証券子会社の営業利益

380億円 (合算)

SBIイー・トレード証券(連結): 300億円
旧SBI証券: 80億円

96億円

SBI証券

口座数と
売買代金シェアは
拡大しており、
相場回復時には
大きく利益が
拡大することが
見込まれる

123万口座 ※1

口座数

+74万口座

197万口座

(2009年10月末)

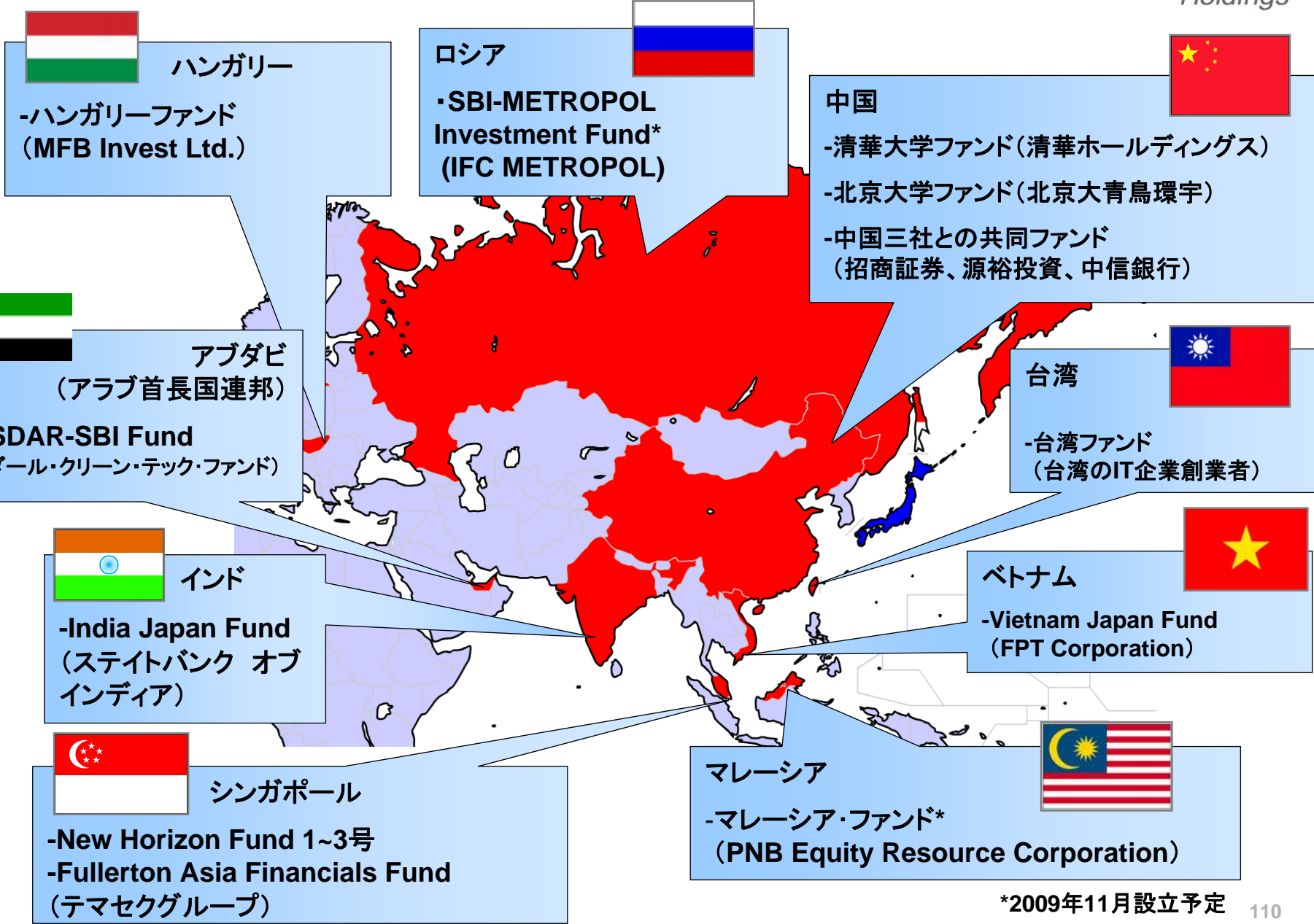
個人株式委託売買代金シェア(年間)※2

| イー・トレード | 23.1% | +15.6%ポイント | SBI証券 | 38.7% |
|---------|-------|------------|---------|-------|
| 楽天証券 | 11.1 | | 楽天証券 | 14.4 |
| 松井証券 | 10.0 | | 松井証券 | 7.7 |
| マネックス | 8.0 | | マネックス | 6.3 |
| カブドットコム | 5.2 | | カブドットコム | 5.9 |

※1 SBIイー・トレード証券と旧SBI証券の合算







出所: 東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ホームページ等公表資料より当社にて集計
※2 個人株式委託売買代金は3市場(1・2部)とJASDAQを合算

海外収益拡大を目指した海外投資事業の拡大



*2009年11月設立予定 110

海外有力企業との提携により設立したファンド一覧

| ファンド名(略称) | 設立時期 | パートナー | 出資金額 | SBIH 出資比率 |
|---|------------------------|---|---|--------------|
| New Horizon Fund  | 05年5月 | TEMASEK | 100百万USD | 50% |
| 清華大学ファンド  | 08年1月 | 清華ホールディングス | 30百万USD | 99% |
| 北京大学ファンド  | 09年2月 | 北京大青鳥環宇 | 100百万USD | 50% |
| 中国三社との共同ファンド  | 09年3月 | 招商証券、源裕投資、中信銀行 | Offshore: 約20.5百万USD (SBIH) Onshore: 約8.8百万USD (中国側) | |
| 台湾ファンド  | 08年10月 | 台湾のIT企業創業者 | 22.5百万USD | 66.7% |
| India Japan Fund  | 08年4月 | ステイトバンク オブ インディア | 100百万USD | 95% |
| Vietnam Japan Fund  | 08年4月 | FPT | 100百万USD | 90% |
| Malaysia Fund  | 09年11月(予定) | PNB Equity Resource Corporation | 50百万USD | 50% |
| SBI-METROPOL Investment Fund  | 09年11月(予定) | IFC METROPOL | 100百万USD | 50% |
| Hungary Fund  | 09年5月 | MFB Invest Ltd. (ハンガリー開発銀行の100%子会社) | 100百万EUR | 60% |
| SBI SOI Fund  | 08年6月 | 慶応大学 | 5億円 | 100% |
| MASDAR-SBI Fund  | 08年12月 | Masdar Clean Tech Fund | 20百万USD | 50% |
| Fullerton Asia Financials Fund  | 08年10月 (09年6月EXIT済) | Fullerton Fund Management Company Ltd (TEMASEKの100%子会社) | 60百万USD | 50% |

すでにNew Horizon Capital(2号ファンド)も高パフォーマンスを見込む

2号ファンドの投資企業14社のうち、すでに2社がイグジット済み
 その他の7社についても今期～来期のIPOまたはM&Aによるイグジットを予定

イグジット済銘柄: 2社

| 会社名 | EXIT形式 | 時期 |
|------|--------|---------|
| GCL | M&A | 2009年6月 |
| BBMG | IPO | 2009年7月 |

イグジット予定銘柄: 7社

※10月20日時点の見込みであり、変更となる可能性があります。

| 会社名 | EXIT形式 | 予定時期 |
|-------------|--------|---------|
| New Century | M&A | 2009年 |
| Meihua | M&A | 2009年 |
| Navinfo | IPO | 2010年1Q |
| YuHeng | IPO | 2010年2Q |
| Rong Sheng | M&A | 2010年 |
| Sunac | IPO | 2010年1Q |
| Sinovel | IPO | 2010年 |

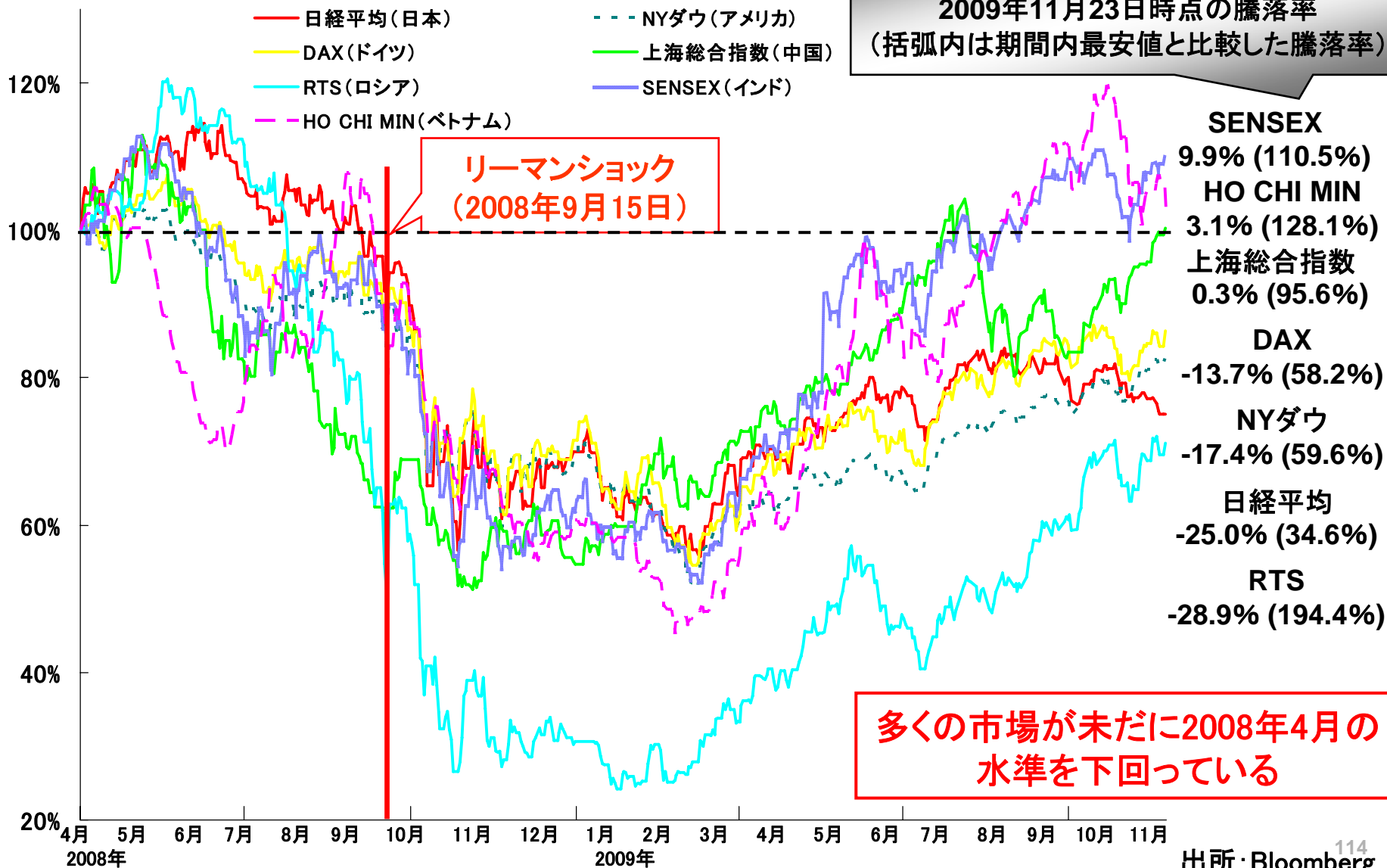
2009年10月、ニューホライズン3号ファンドへの
 40百万米ドル出資(ファンド総額の10%)に関する最終合意を締結

⑨ 株価についてはどう考えていますか？

2008年4月1日以降の各国主要指数の推移

(2008年4月1日 ~ 2009年11月23日)

2008年4月1日と比較した
2009年11月23日時点の騰落率
(括弧内は期間内最安値と比較した騰落率)

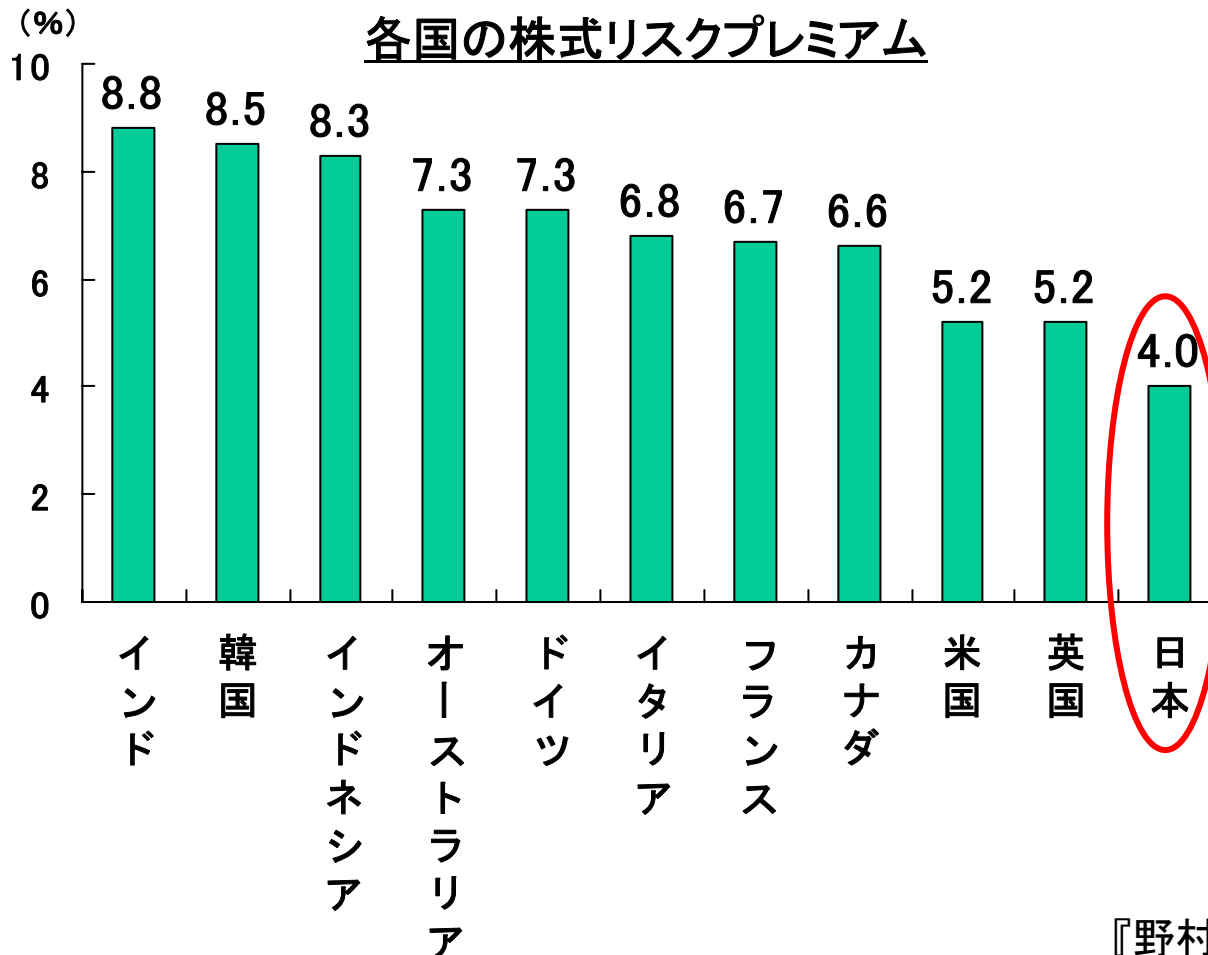


リーマンショック
(2008年9月15日)

多くの市場が未だに2008年4月の水準を下回っている

日本市場の株式リスクプレミアム

「リスクプレミアム」: リスクのある株式に投資をする対価として投資家が要求する、国債などの安全資産からの超過利回りのこと。



プレミアムの低い市場から高い市場に資金が流れ込むことにより、プレミアムの各国差異は収斂する



日本の株式リスクプレミアムが上がってくる可能性がある

世界各国の超金融緩和と大規模な財政支出は 将来のインフレの潜在要因

各国の大規模な財政支出

(例)

中国: 大規模な公共投資を柱とする4兆元
(約53兆円)規模の景気刺激策や金融緩和
策の継続

記事



今後のインフレにつながる



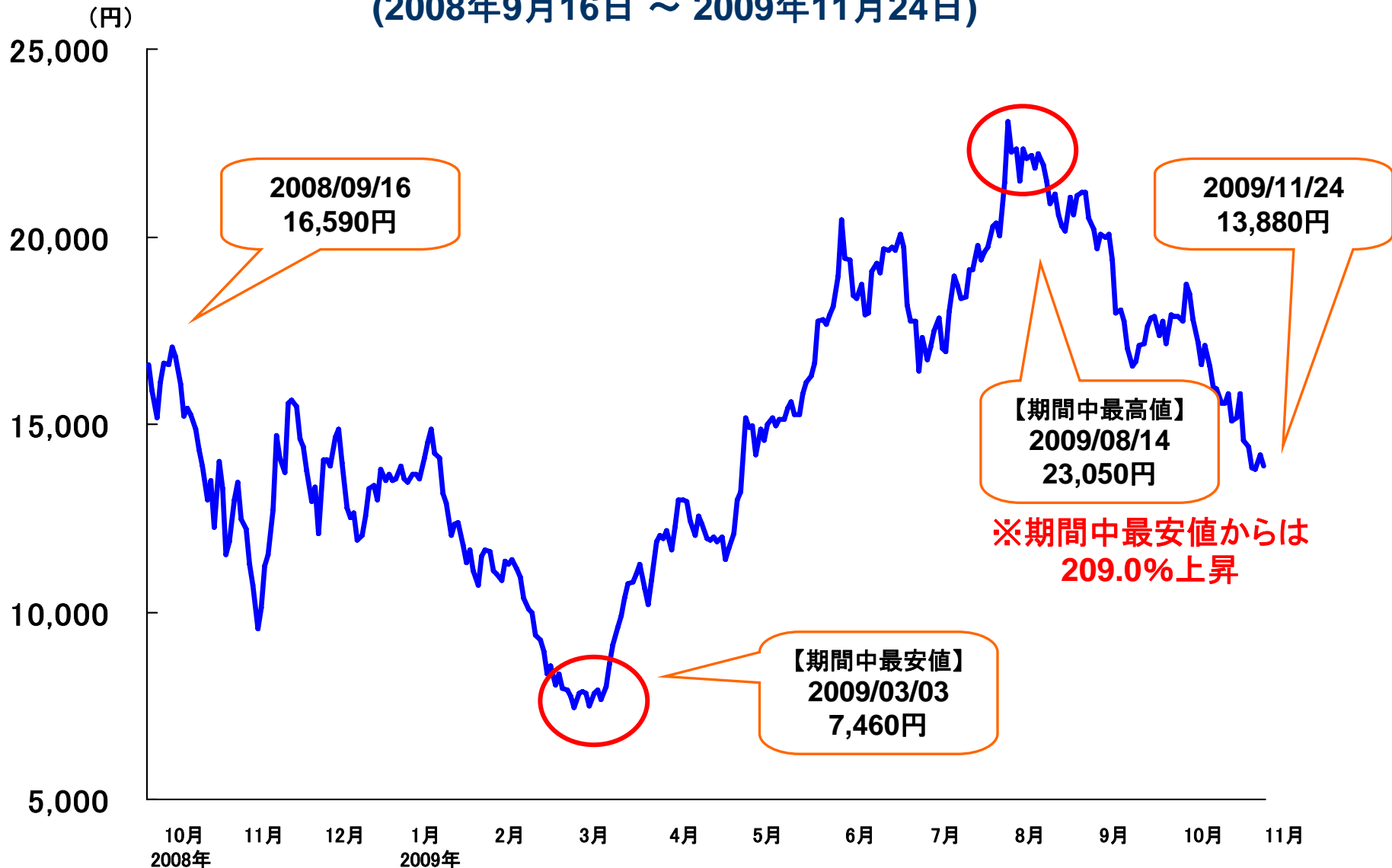
株価の回復へ

2009年4月11日 日経新聞朝刊

リーマンショック以降のSBIホールディングス 株価推移

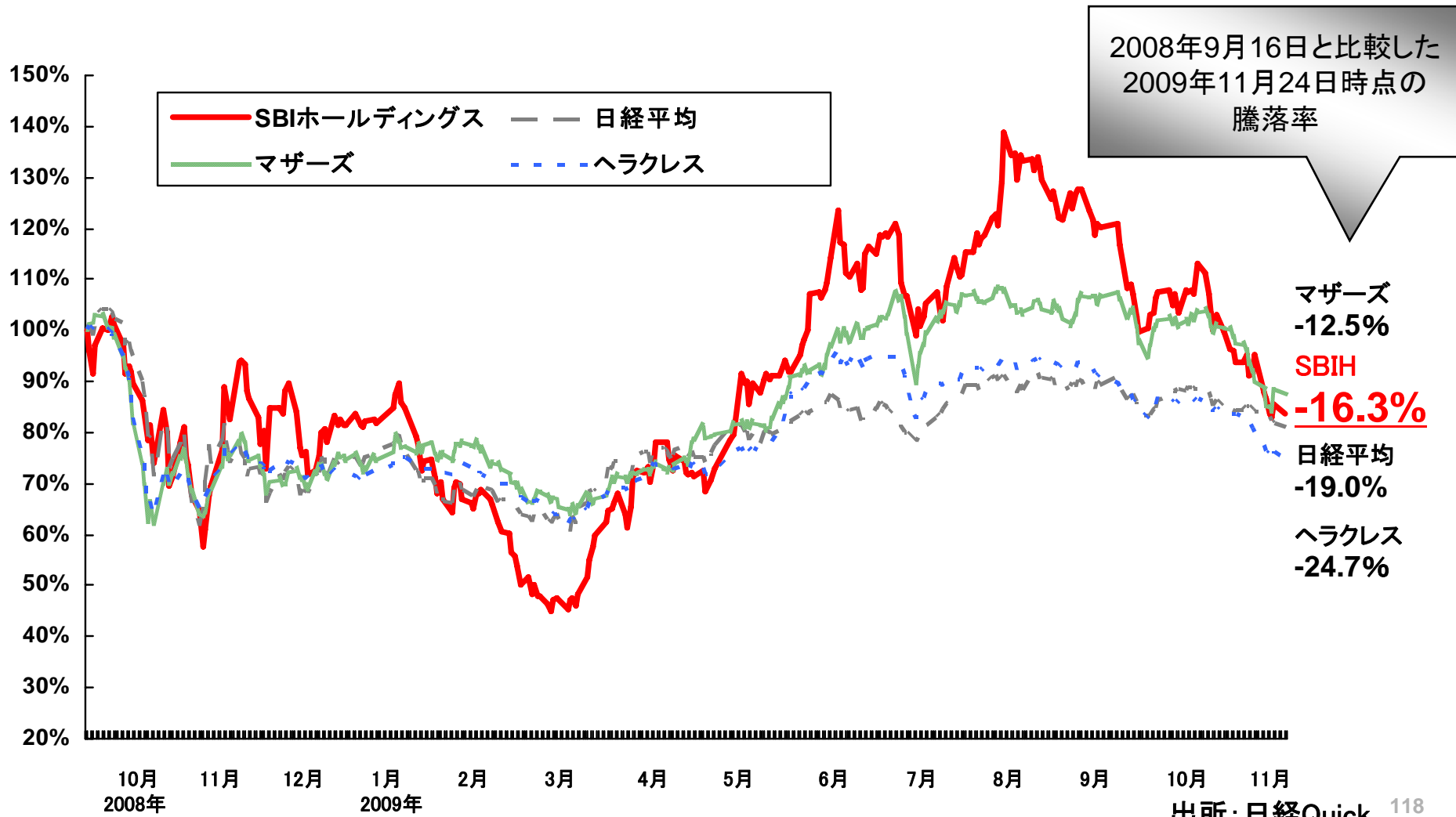


(2008年9月16日 ~ 2009年11月24日)



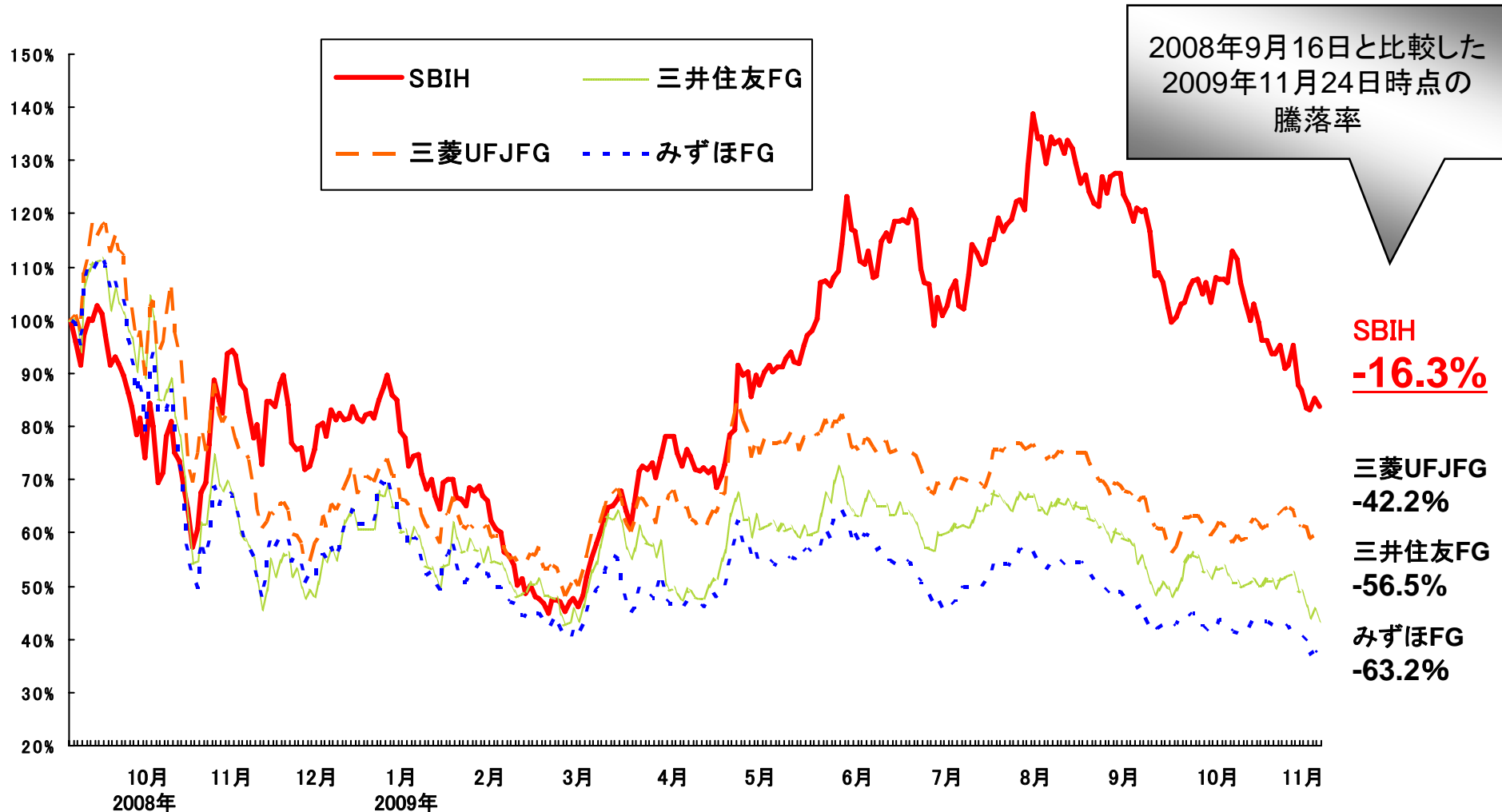
リーマンショック以降のSBIホールディングス株価と 日経平均・新興市場指数との相関関係 (2008年9月16日 ~ 2009年11月24日)

SBIホールディングス株価との相関係数: 0.83(日経平均)、0.91(マザーズ)、0.91(ヘラクレス)



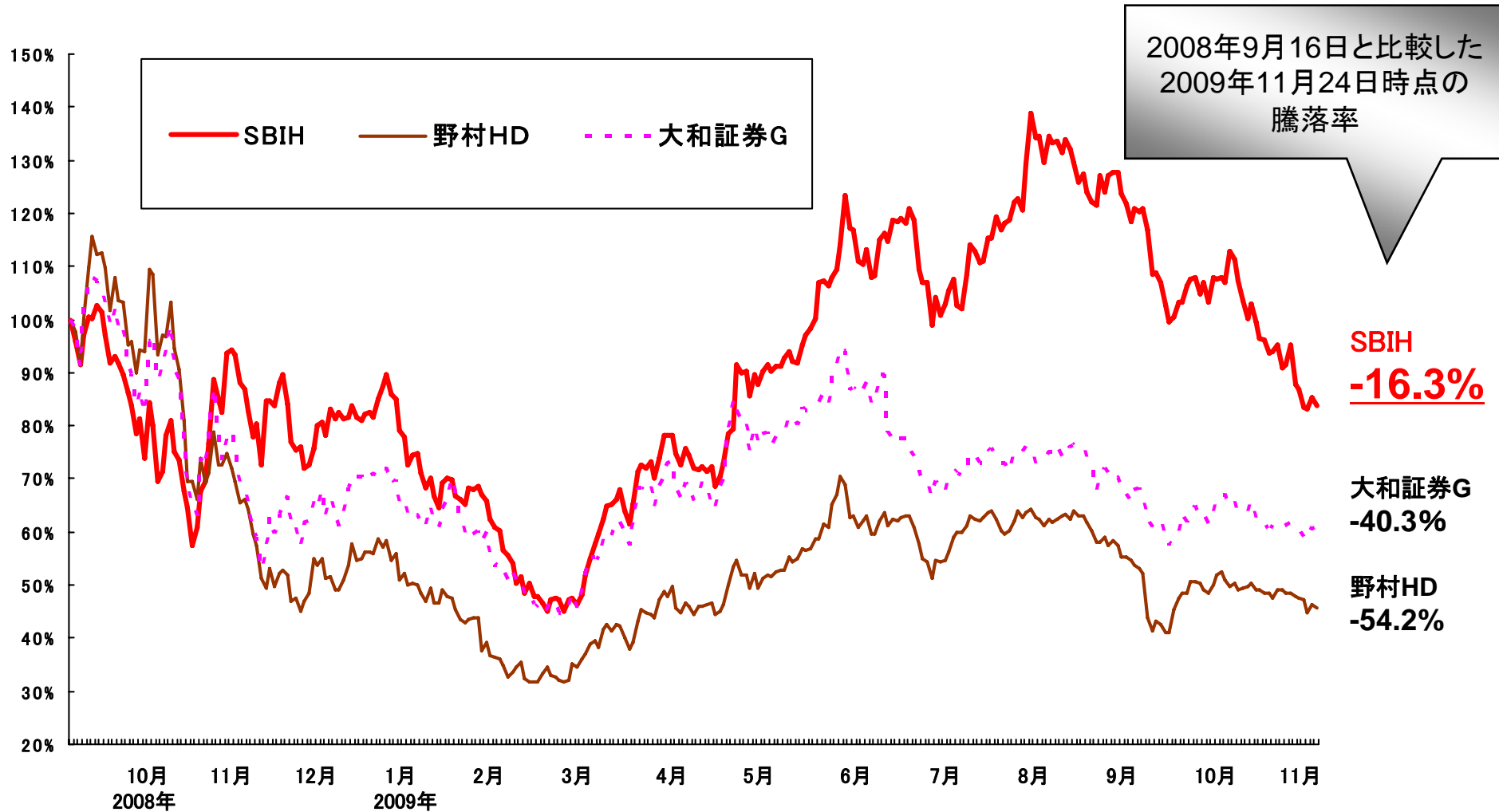
リーマンショック以降のSBIホールディングスと メガバンク3行との株価推移比較

(2008年9月16日 ~ 2009年11月24日)



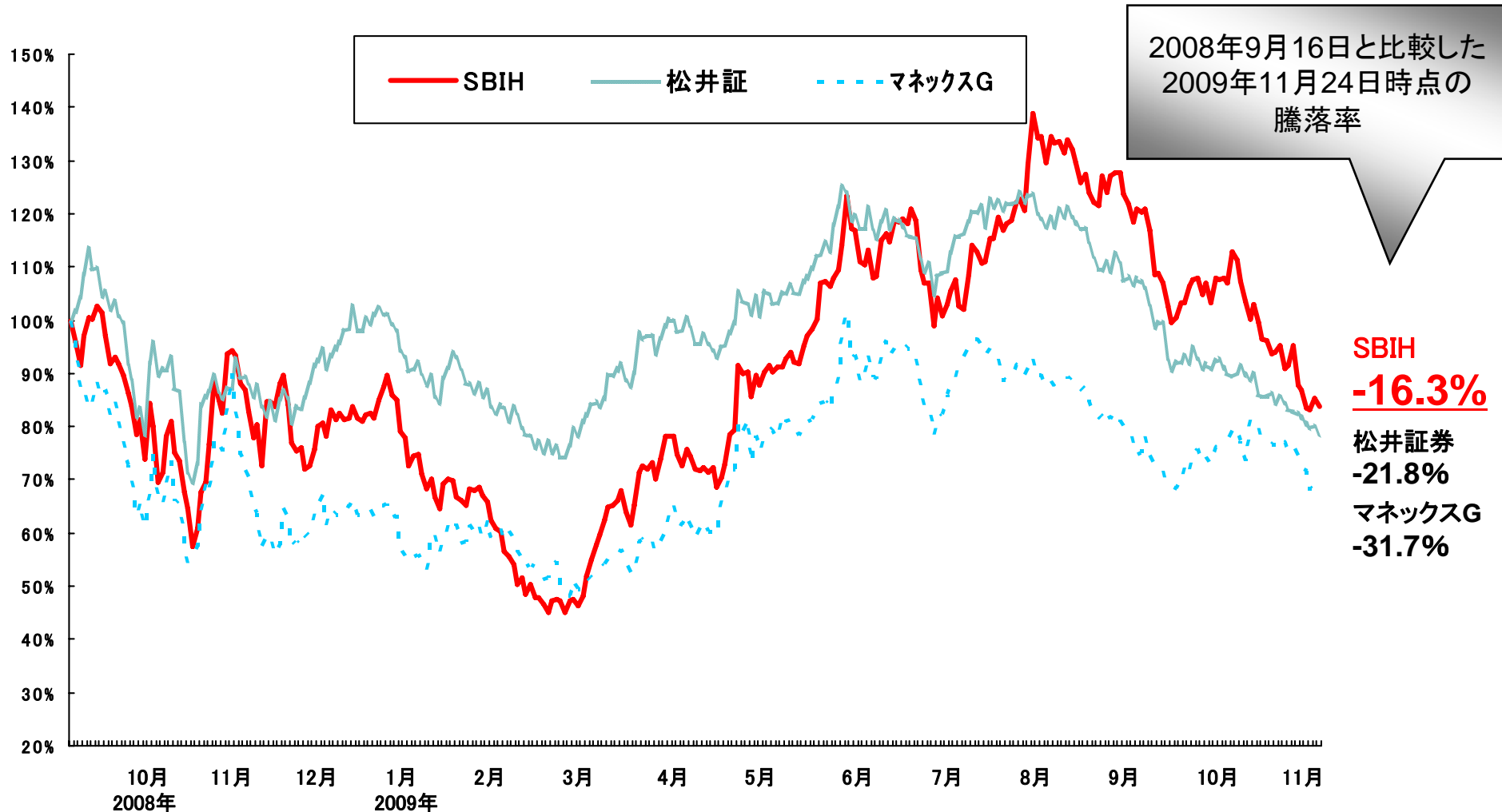
リーマンショック以降のSBIホールディングスと 野村HD、大和証券Gとの株価推移比較

(2008年9月16日 ~ 2009年11月24日)



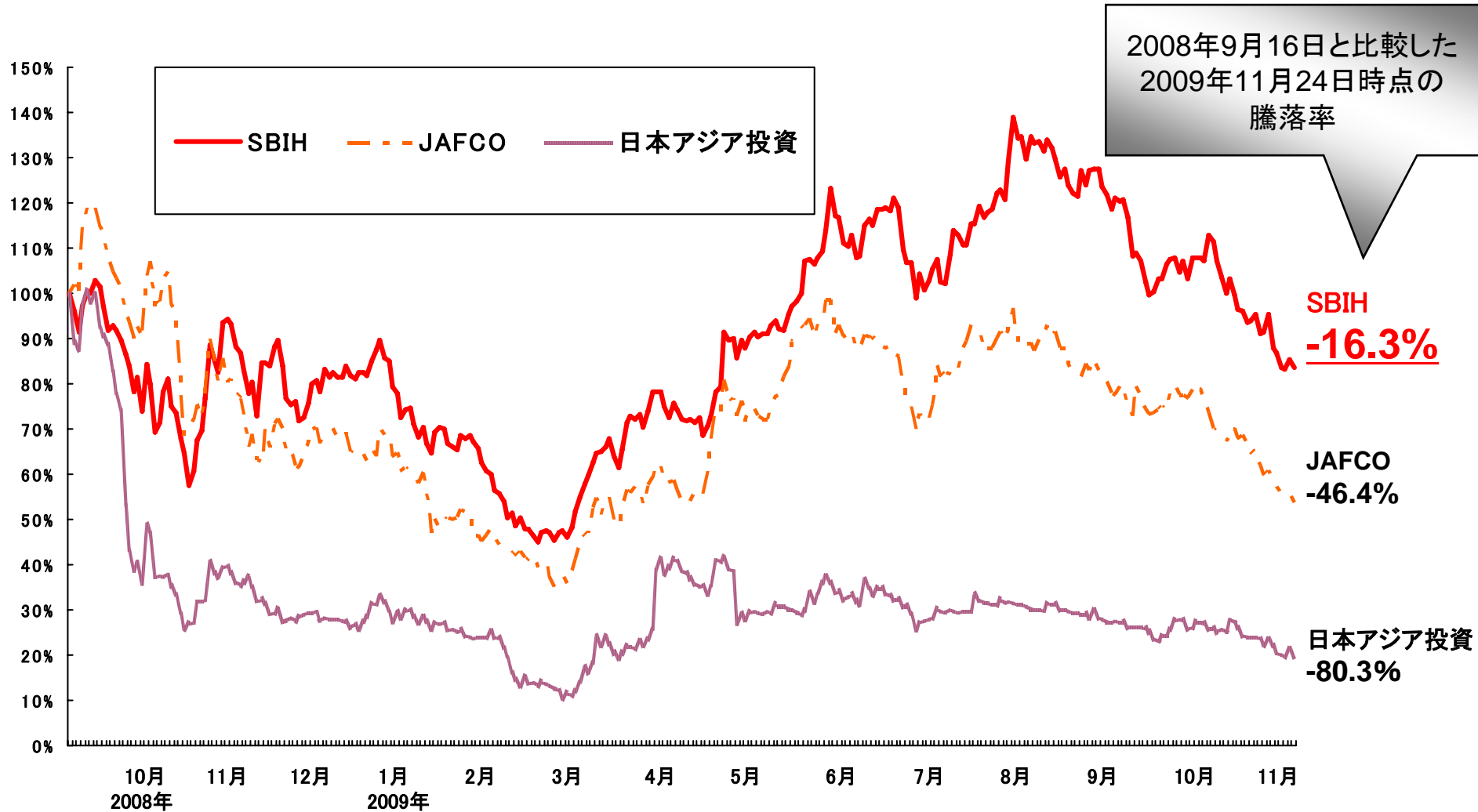
リーマンショック以降のSBIホールディングスと 松井証券、マネックスGとの株価推移比較

(2008年9月16日 ~ 2009年11月24日)



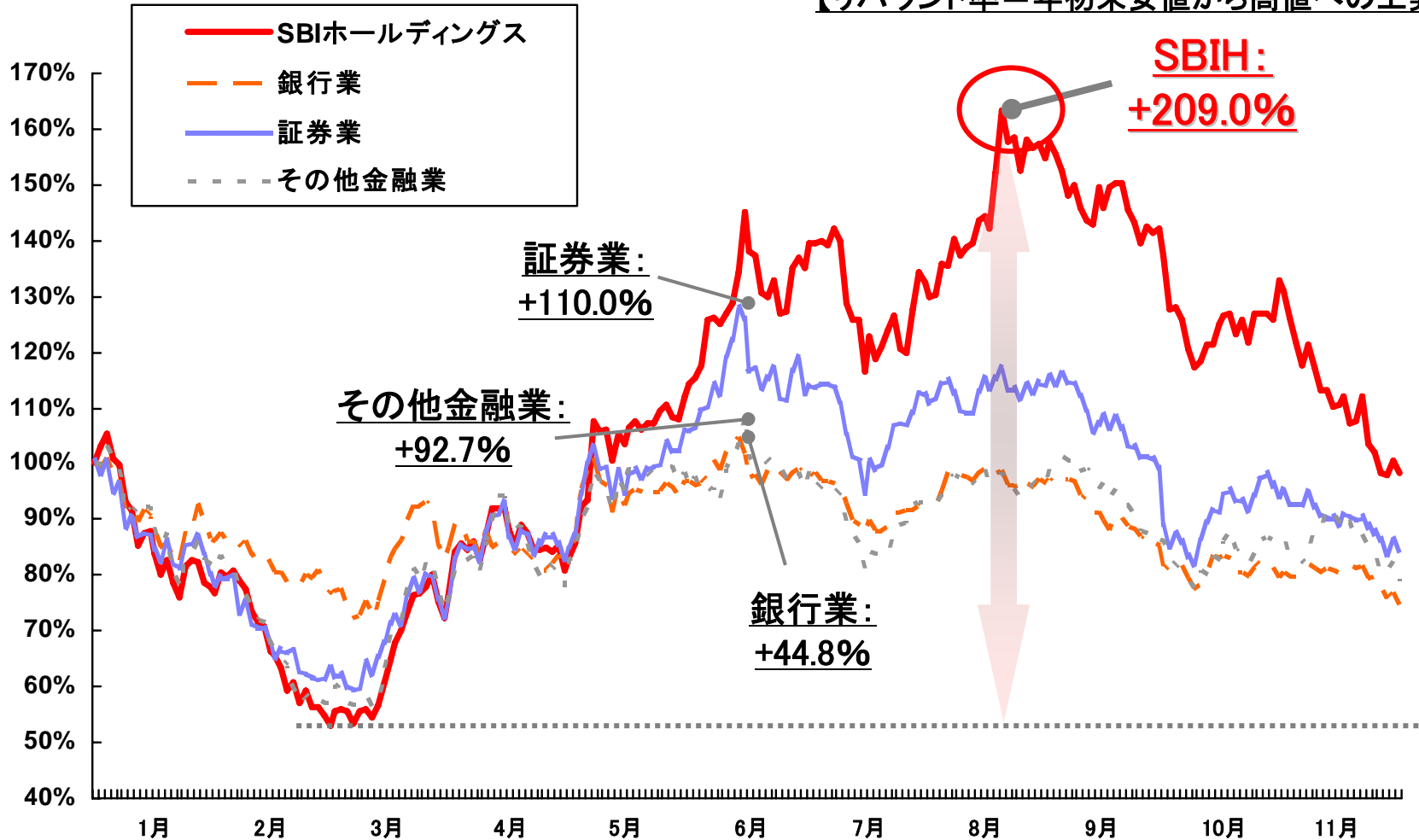
リーマンショック以降のSBIホールディングスとベンチャーキャピタル各社との株価推移比較

(2008年9月16日 ~ 2009年11月24日)

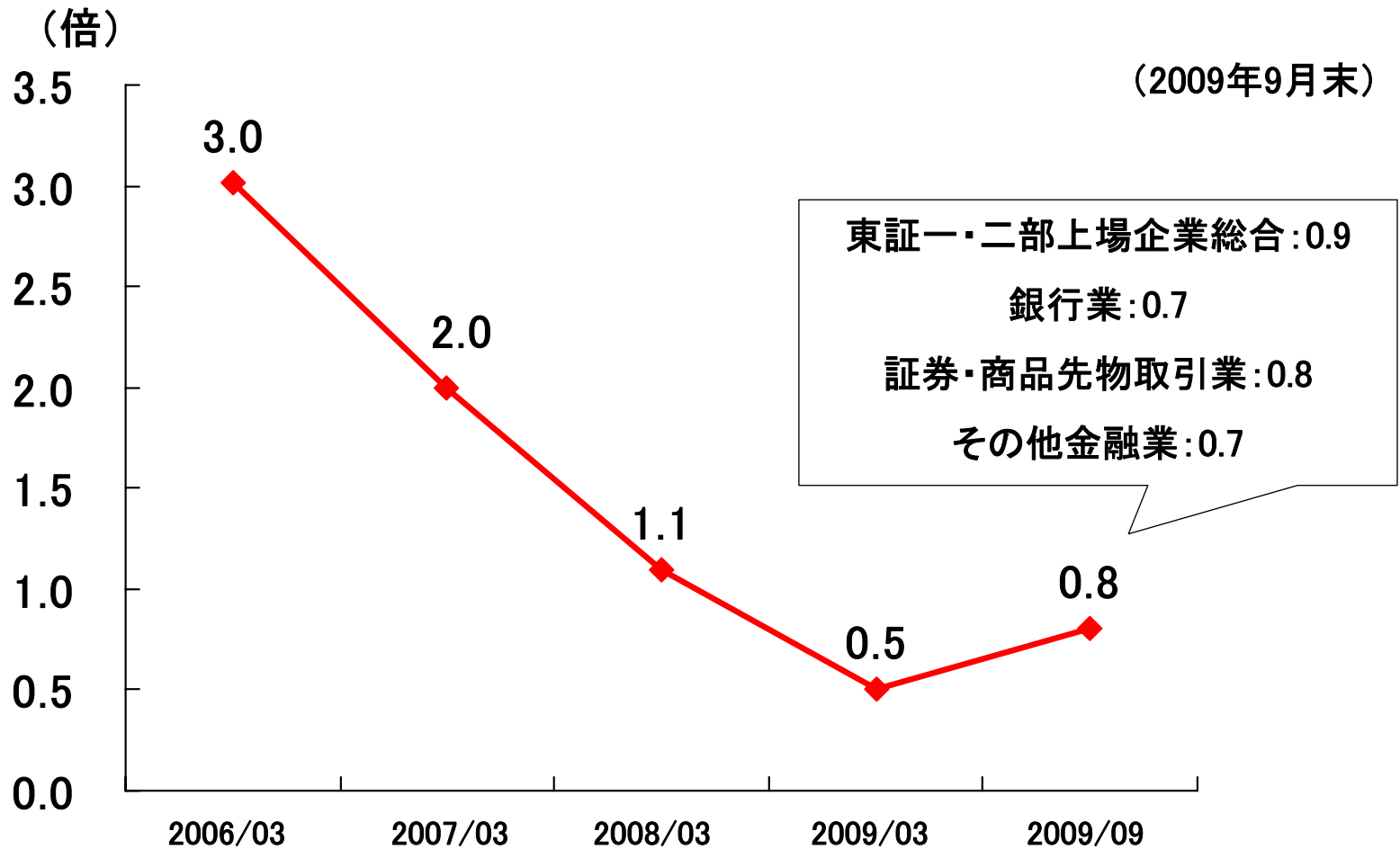


SBIホールディングス株価と 東証業種別指数(銀行・証券・その他金融業)とのリバウンド率比較 (2009年1月5日 ~ 2009年11月24日)

【リバウンド率=年初来安値から高値への上昇率】



SBIホールディングス PBRの推移



(※) PBR=各期末当社東証終値÷(各期末一株当たり純資産)

SBIホールディングス 株主構成の推移



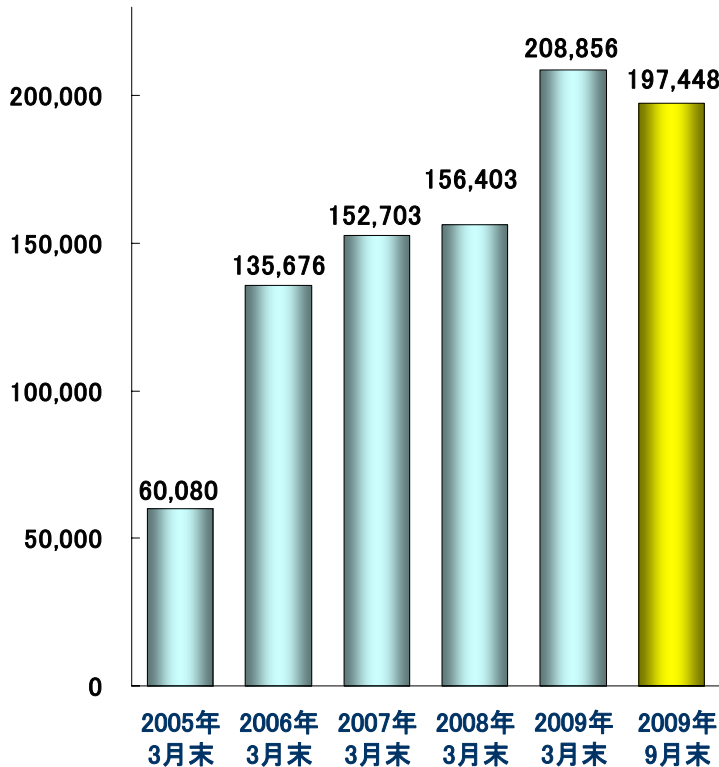
外国人投資家の保有比率は引き続き高水準で推移

(2009年3月末:44.2% → 2009年9月末:45.3%)

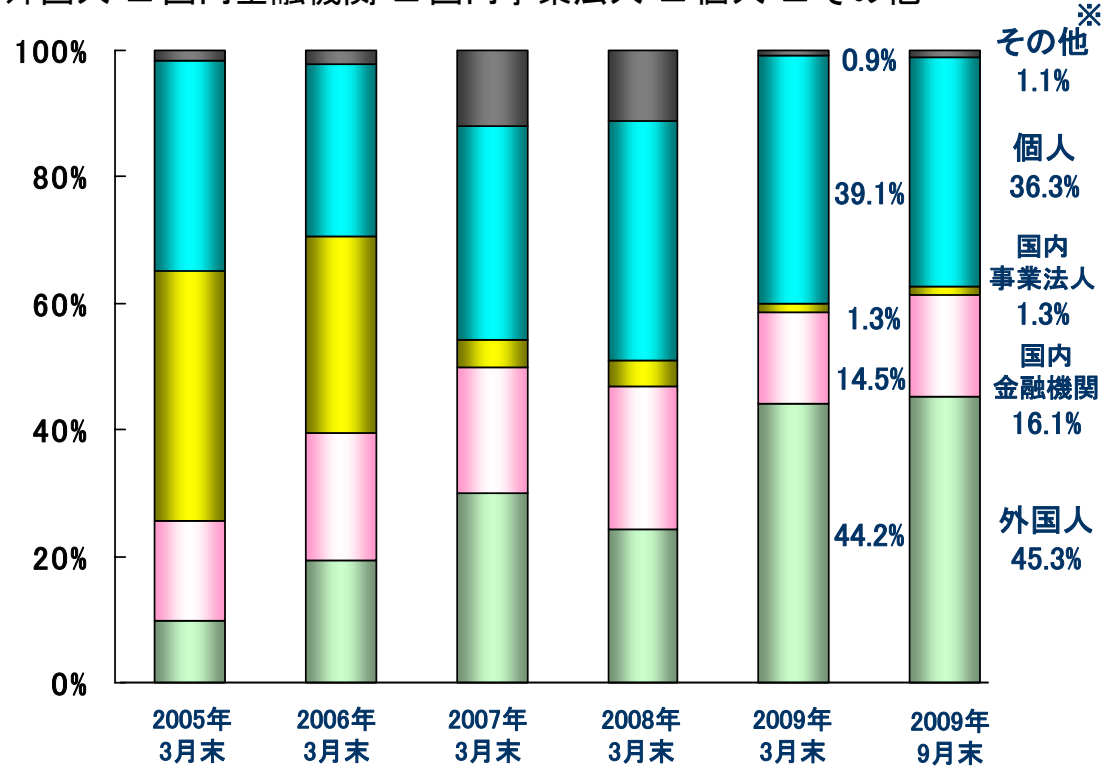
株主数の推移

株主構成比率の推移

(単位:名)



■ 外国人 ■ 国内金融機関 ■ 国内事業法人 ■ 個人 ■ その他



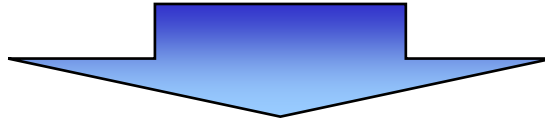
(2008年3月末までは端株主を含む)

※その他には「自己株式」0.2%を含む

SBIホールディングスの配当政策

(2009年3月期まで)

当社は、株主の皆様に対する安定的かつ適正な利益還元を目指すとともに、内部留保による競争力・収益力の向上に向けた事業投資を積極的に行うため、グループ企業を含めた連結業績、及び当社株価の状況等を総合的に勘案した上で剰余金の配当等を実施することを基本方針としております。



(今期から)

連結当期純利益の20～50%を配当性向の目処とすることを基本方針といたします。配当性向20%以上の配当実施を原則とし、持続的な成長のための適正な内部留保の水準、当面の業績見通し等も総合的に勘案し、更なる利益還元が可能と判断した場合には、50%を上限として配当性向を都度引き上げることを目指します。また、原則として中間配当は行わず、期末配当に一本化いたします。

<http://www.sbigroup.co.jp>

人材育成を図るSBI大学院大学

(研究管理研究科・アントレプレナー専攻)

～通信制のビジネススクールとして2008年4月に開校～

授業スタイルはインターネットを利用したe-ラーニング

人間学

経営リーダーにとって欠くこと
の出来ない人間学の習得



時務学

実践的なカリキュラムによる
起業や経営に必要な知識の習得

**倫理的価値観と科学的経営理論を具備した
「人物」の育成を目指す**

特徴

- ・大学を卒業していなくても、22歳以上の方であれば個別の入学審査を実施。
- ・最短2年間の履修によりMBA(経営管理修士)の取得が可能
- ・優秀な成績で修了した者が起業をする場合には、SBIグループが資金面に加え、全面的な支援を実施



※SBI大学院大学内の様子

・・・等々